Ⅱ　作家略歴　あ、い

あ

靉　嘔（あいおー/1931 年～　）
茨城県生れ。1953年デモクラート美術家協会に参加。54年東京教育大学芸術科を卒業。58年渡米。62年フルクサスに参加。虹の作家。69年ジャパン・アート・フェスティバルで大賞。90年日本芸術大賞。95年紫綬褒章。2005年旭日小綬章。10年茨城県つくば美術館にて個展。16年茨城県玉造に靉嘔美術館開館。（出典　わ眼）版画、洋画、デモクラート、個人美術館

相笠昌義（あいがさ・まさよし/1939 年～　）
東京生れ。1962年東京藝術大学油絵科卒。78年从展に出品、82年会員。79年文化庁芸術家在外研修員として 1 年スペインに滞在。82年安井賞。89年多摩美術大学教授。2004年町田市立国際版画美術館で個展。08年損保ジャパン東郷青児美術館大賞。多摩美術大学美術館で個展を開催。版画、洋画、美教

相川昭二（あいかわ・しょうじ/1927～1990 年）
金沢市生れ。1950年金沢美術工芸専門学校洋画科卒。51年一水会展入選。53年日展入選。61年田崎広助に師事。62年一水会展佳作賞、64年会員推挙、71年会員優賞。日仏展、サロン・ドートンヌ展等に出品。石仏をテーマに描き続けた。1990年没、63歳。洋画

相沢直人（あいざわ・なおと/生誕年不詳～　）
㈱アイザワ　相澤株式会社代表取締役社長、相澤画廊主、相澤美術館（1989～2004年）館長。2006年旧寺泊町(現・長岡市)の相澤美術館の所蔵品 1088点が新潟県立万代島美術館に寄贈。「相澤コレクション」と命名。作家;野村清六、難波田龍起、・史男、村山槐多、山口長男、鳥海青児ら。コレクター、元館長

相澤光朗（あいざわ・みつろう/1919～1998 年）
横浜市生れ。岡田三郎助に師事。1939年第 26 回日本水彩画会展で日本水彩画会賞。第4回新制作協会展出品、以後 4 回出品。53年代 9 回日展に出品、以後 14 回出品。65年第 51 回光風会展で船岡賞。75年日本水彩画会理事就任。82年日本水彩画会退会。碧涛会を主宰。84年国際芸術文化賞。他にも毎日商業美術賞、朝日広告漫画賞など受賞。1998年没、79歳。（佐）水彩、漫画

阿以田治修（あいだ・じしゅう/1894～1971 年）
東京生れ。1914年太平洋画会研究所で満谷国四郎に師事。22～25年渡欧、ビシエールに師事。25年太平洋画会会員。26，27、28年帝展で連続特選、のち無鑑査、審査員。36年大蒼会を組織。40年創元会創立会員。41年三果会を結成。48年無所属。71年没、76歳。洋画

相田直彦（あいだ・なおひこ/1888～1946 年）
会津若松市生れ、本名は相田寅彦。太平洋画会研究所、日本水彩画会研究所で学ぶ。1909年文展褒状。太平洋展、文展、帝展に出品。13年日本水彩画会創立会員。29年白日会会員。37年新文展無鑑査。熊本県で没、58歳。（出典　わ眼）水彩

会田　誠（あいだ・まこと/1965 年～　）
新潟市生れ。1989年東京芸術大学油画専攻卒。91年東京芸術大学大学院修了。レントゲン藝術研究所で開催された「フォーチューンズ」で活動を始めた。2003年会田自身の制作を追ったドキュメンタリー映画『≒会田誠』公開。01年現代美術家岡田裕子と結婚。12年渡辺正悟監督によるドキュメンタリー映画「駄作の中にだけ俺がいる」が公開。奈良美智や村上隆らとともに「新ジャポニスム」の代表的な作家。現代美術、写真、立体、パフォー、インスタ、映画

相田幸男（あいだ・ゆきお/1948年～　）
福島県生れ。1976年東京藝術大学大学院油画専攻修了、同大学油画研究室研究生終了。81年独立賞、82年同会員。92～93年文化庁芸術家在外研修員として渡仏。2013年紺綬褒章。団体展:独立展、文化庁現代美術選抜展、文化庁「DOMANI・明日」展、文化庁芸術家在外研修制度40周年記念「旅」展、「十果会」展。個展:資生堂ギャラリー（東京・銀座）、三越本店（東京・日本橋）、北海道立函館美術館(「相田幸男2001-2006」)等。現在、日本美術家連盟委員、十果会同人、北海道教育大学名誉教授。洋画、美教

相原求一朗（あいはら・きゅういちろう/1918～1999 年）
埼玉県生れ。1948年猪熊弦一郎に師事。63年新制作展で新作家賞。68年新制作協会会員。海外取材。日動画廊で個展。87年埼玉文化賞。96年川越市名誉市民。96年北海道に相原求一朗美術館開館。99年没、80歳。2002年川越市立美術館に相原求一郎記念室、個展開催。（出典　わ眼）洋画、個人美術館

靉　光（あい・みつ/1907～1946 年）（石村日郎、いしむら・にちろう）
広島県生れ。1924年大阪の天彩画塾に通う。26年

上京、太平洋画会研究所に学ぶ。27年「一九三〇年協会」展で協会奨励賞。28年同協会賞。38年独立展で協会賞。39年美術文化協会結成に参加。43年松本竣介らと新人画会結成。上海で没、38歳。洋画

相武常雄（あいむ・つねお/1949 年～ ）
愛知県生れ。1973年東京芸術大学美術学部工芸科卒。同大学工芸科鍛金研究室研究生修了、80～96年同大学鍛金非常勤講師。日本現代工芸美術展で現代工芸賞、77年読売新聞社賞、80年現代工芸工芸会員賞、2004年現代工芸理事長賞。2000年、03年日展で特選。11年会員賞。79年日本現代工芸美術家協会会員。04年日展会員。モニュメントも多数制作。銅を中心に鉄や、ステンレス、金、銀等を素材として鍛金の技法で彫刻的な造形作品やクラフト作品制作。工芸、造形

相吉沢久（あいよしざわ・ひさし/1924(23 説も)～1984 年）
栃木県生れ。1957年植村鷹千代の現代美術研究所に通い、山口薫、脇田和に学ぶ。62年春陽会展に入選。春陽会事務局書記を務める。66年春陽会展で研究賞。74年春陽会会員。第18回年安井賞展に出品。84年没、61歳。（出典 わ眼）洋画

亜欧堂田善（あおうどう・でんぜん/1748～1822 年）
福島県生れ。1755年家業を手伝いながら兄に絵を学ぶ。94年須賀川で松平定信に見出され、谷文晁に入門。4年間長崎で銅版画の研究。96年御用絵師。1807年幕府測量所の高橋景保らに世界地図制作が命じられ、09年「新鐫総界全図」、「日本辺界略図」制作。10年「新訂万国全図」完成。1822年没、75歳。江戸後期の絵師、銅版画

青木一夫（あおき・かずお/1907～1978 年）
神戸市生れ。1928年御影師範学校卒、30年より二科展入選。47年二紀会に招待出品。48年二紀会同人賞、二紀会同人。65、70年渡欧。76年二紀会会員。神戸で没、71歳。洋画

青木捷美（あおき・かつみ/1905～1986 年）
長野市生れ。1921年上京。川端画学校に学ぶ。27年前田寛治写実研究所に学ぶ。34～41年独立美術協会展に出品。中山巍、中川紀元と交友、40年長野美術集団を結成。50年双美会を設立。57年北斗会設立。長野で没、81歳。洋画

青木重夫（あおき・しげお/1933 年～ ）
千葉県生れ。1952年千葉県立木更津高校卒。52年東京藝術大学日本画科卒。58年日本美術院入選。2002年に共宙会を結成、代表。12年「遥かなりアフガン」をテーマで、40年間の作品を集めた個展を松坂屋銀座店にて開催。14年木更津わたくし美術館で個展。日本画

青木 繁（あおき・しげる/1882～1911 年）
福岡県久留米市生れ。1899年上京、不同舎で小山正太郎に師事。1903年白馬会賞。04年東京美術学校西洋画科卒。07年東京府勧業博覧会で三等賞。08年九州を放浪。福岡市で没、28歳。12年東京上野と福岡で遺作展、13年『青木繁画集』。（出典 わ眼）洋画、版画

青木夙夜（あおき・しゅくや/生誕年不詳～1802 年）
京都生れ。名は浚（俊）明、字は大初、夙夜、号は士風、春塘、八岳。馬韓餘賞璋王の後裔を自称し、餘夙夜、餘浚明と名乗る。池大雅に学ぶ。大雅没後、京都東山真葛原の大雅堂に住んで大雅堂二世を名乗る。江戸中期-後期の絵師

青木彝蔵（あおき・つねぞう/1872～1940 年）
熊本市生れ。1892年に上京、小山正太郎の不同舎に入門。中村不折と出会い、親交を深めた。94年熊本に帰り、済々黌、九州学院で図画を教えた。九州学院在職中、九州美術会（熊本美術会から改名）を組織し、公募展「九州美術展覧会」を開催、熊本の美術活動の隆盛に貢献。晩年は水墨画も手掛けた。1940年没、68歳。洋画、美普、美教、水墨

青木乃里子（あおき・のりこ/1949 年～ ）
静岡県生れ。1968年大東文化大学日本文学科入学。書を安藤揚石、南画を飯田満佐子に師事。76年日本自由画壇自由画壇賞。書壇院南画部特選数回、日本南画院特選数回。中川一政の作品・書籍に影響を受ける。墨絵の新しい形を模索している時期に、ルオーの「ミゼレーレ」に出会い、衝撃を受け画風を変化。78年無所属。79年故郷清水市にて初個展。以降個展中心に発表。墨絵、洋画、版画

青島千穂（あおしま・しほ/1974 年～ ）
東京生れ。1995年法政大学経済学部卒。クロモジェニック、プリントアウト作品～、デジタルアニメーション、彫刻作品を経て直筆の作品へと移行。妖怪と墓場の亡霊、異界との対話がメイン。16年カイカイキキギャラリーで青島千穂展、村上隆のスタジオ Kaikai Kiki に所属。コンピューターソフト Illustrator のベジェ曲線』を操ることによって異世界を描き出す。ベジェ曲線によって描かれた作品群を巨大プリンターによって拡大印刷、紙だけでなく皮やプラスチック平面に

施すことで注目。香港、シアトル、バルセロナ、パリ、ヒューストン、ボストン、ロンドンで個展。現代美術

アオキ・スミエ（あおき・すみえ/1924 年～ ）
岡山市生れ。1962, 63年女流画家協会展入選。69年自由美術協会展会員、74年同展で髮光賞。75年日本画廊（東京）個展。84年岡山市立市民文化ホールで個展開催。89年以降、「アート・SUN」展（倉敷市立美術館）出品。2012年「アーティストファイブ・岡山 2012」（岡山県天神山文化プラザ）に参加。（岡山県美 引用）洋画

青木純子（あおき・すみこ/1922～2016 年）
千葉県生れ。1943年太平洋美術学校卒業。鈴木満と結婚。示現会創立に参加、顧問。日展に出品。絵画教室で多くの生徒を育てた。女流画家協会創立メンバー、委員。示現会創立会員。町田市ゆかりの作家。2016年没、94歳。洋画、美教

青木大乗（あおき・だいじょう/1891～1979 年）
大阪生れ。1910年関西美術院で鹿子木孟郎に師事、洋画を学ぶ。京都市立絵画専門学校で日本画を学ぶ。24～35年大阪に新燈社洋画研究所を開設、以後日本画を描く。37年大日本美術院を創立。63年大阪府、大阪市合同の芸術賞。78年米寿記念青木大乗展を大阪高島屋で開催。兵庫県で没、87歳。洋画、日本画、洋画研究所

青木達弥（あおき・たつや/1917～1981 年）
岐阜県生れ。1939年春陽会と文展に入選。41年新文展で特選。44年春陽会展で春陽会賞、のち会友。国画会会員。写実画壇会員。45年掛川市に疎開。アトリエを開く。63年静岡県文化奨励賞。掛川市ゆかりの洋画家。静岡県美術協会理事長として県の美術振興に貢献。洋画

青木 勤（あおき・つとむ/1944 年～ ）
東京生れ。1967年武蔵野美術大学産業デザイン科卒。2008年大手広告会社役員退任後、本格的に水彩画の創作開始。09年、英国の静かな田舎町コッツウォルズ等を巡るスケッチ旅行。10年銀座・ギャラリーナミキで第 1 回個展（以降 12 年に第 2 回）。（出典わ眼）水彩

青木鉄夫・鐵夫（あおき・てつお/1940 年～ ）
静岡県生れ。国展国画賞・野島賞・前田賞・会友優作賞賞、国画会会員。紙わざ大賞展大賞、トリックアートコンペ奨励賞、浜松百選文芸賞。個展/樹樹画廊（名古屋）、紀伊国屋画廊・養清堂画廊、沼津市庄司美術館・島田市博物館分館。出品；現代美術選抜展（文化庁）、現代日本版画‘50展（イスラエル）、現代日本版画作家展（アメリカ）、YUKO 展（チェコ）、上海半島美術館日本版画招待展・上海国際版画展（中国）。2017年 Contemporary Japanese Printmakers 展（米、シアトル）版画

青木敏郎（あおき・としろう/1947年～ ）
京都府生れ。1973年東京造形大学卒。73～84年中村正義の援助でベルギー留学。88年「青木敏郎画集」を求龍堂より刊行。94年輝くメティーエ油彩画・細密表現展（奈良県立美術館）。98年「青木敏郎画集第 2 集」を求龍堂より刊行。2007年「両洋の眼展」河北倫明賞。09年諏訪市美術館で個展。三越、高島屋等で個展。写実絵画。洋画

青木野枝（あおき・のえ/1958 年～ ）
東京生れ。1983年武蔵野美術大学大学院造形研究科彫刻専攻修了。92年語り出す鉄たちー今日の金
属彫刻から（東京都美術館）。95年 国立国際美術館で個展。2000年芸術選奨文部大臣新人賞。03年中原悌二郎賞優秀賞、17年中原悌二郎賞、下関市立美
術館賞。2019年長崎県美術館で個展。彫刻、版画

青木春見（あおき・はるみ/1910～1982 年）
福島県生れ。川端画学校に学ぶ。服部正一郎に師事。二科特選、安田火災奨励賞。二科会員。日展入選3回。渡欧5回。1982年没、72歳。洋画

青木 寿（あおき・ひさし/1906～1995 年）
福岡市生れ。1926年県立福岡中学卒。32年二科展入選、のち会友。47年第二紀会創立に参加同人、二紀会の委員、78年評議員。49年福岡県美術協会再興に尽力、65年～77年同協会会長。77年に福岡市文化賞。戦前期はシュルレアリスムに傾倒し、後年は人間の内面を凝視し群像表現を追求した。1995年没、89歳。洋画

青木木米（あおき・もくべい/1767～1833 年）
京都生れ。木屋佐兵衛を襲名。木米は木屋と八十八からなる号で、別に聾米、九々麟、百六散人、古器観、停雲楼などと号した。若年時に篆刻家高芙蓉から古器物の鑑賞を学び、三〇歳の時に木村蒹葭堂を訪ね多くの書籍や古器物に触れるなどして陶芸を志す。陶法は奥田頴川に学び、粟田口に窯を開く。後青蓮院宮の御用窯を仰せつけられた。画は独学、いわゆる余技の部類に入るが、その評価は高い。田能

村竹田ほか頼山陽、篠崎小竹らと親交した。陶芸、江戸後期の絵師

青地秀太郎（あおち・ひでたろう/1915～1979 年）
岡山市生れ。1933年関西中学卒業後上京し、川端画学校、本郷洋画研究所に学ぶ。38年岡山に戻り、小林喜一郎に師事。40年新文展、「紀元 2600年奉祝美術展」出品。戦後は第 2 回日展出品、50年日展で特選。のち日展委嘱。50年創元会会員。62年日展、創元会から退き、無所属。1979年没、64歳。洋画

青野馬左奈（あおの・まさな/生没年不詳）
一水会会員、1932年関西水彩画会を創立。（関西水彩画会は青野馬左奈、池島勘治郎、桂龍雄、別車博資によって創立）。美術教師。朝日カルチャーでも教えていた。著書に1978年『アトリエ 619 水彩で描く風景画』アトリエ出版社発刊。水彩、美教

青葉益輝（あおば・ますてる/1939～2011 年）
東京生れ。1963年桑沢デザイン研究所卒後、株式会社オリコミに入社、東京都の公共ポスターを担当、69年退社。A&A 青葉益輝広告制作室を設立。72年 ADC 賞、82年ブルノ国際グラフィックデザイン・ビエンナーレでグランプリ、87年ワルシャワ国際ポスタービエンナーレでグランプリ。各国で個展開催、グラフィックデザインの国際公募展で審査員。93年長野冬季オリンピックの第1回公式ポスターを制作。2011年没、72歳。デザイナー、ポスター、版画

青峰重倫（あおみね・しげみち/1916～2001 年）
香川県生れ。1932年香川工芸学校木彫科修了。川端画学校に学ぶ、後、猪熊玄一郎に師事。37年第 2 回新制作協会展に初出品、51年第 15 回新制作協会展で新作家賞。タケミヤ画廊で個展。54年この頃クラフトマンに転身。日本橋・丸善で個展。朝日新聞社・現代生活工芸協会共催第 2 回工芸展で受賞、第 3 回工芸展で受賞。2001年没、85歳。（佐）工芸、彫刻

青柳喜兵衛（あおやぎ・きひょうえ/1904～1938 年）
博多市生れ。早稲田大学商科に学び、川端画学校に学ぶ。1925年吉村芳松に師事。26年帝展入選。31年中国に写生旅行。挿絵、表紙絵、カット、装幀で人気。31年槐樹社展に無鑑査出品。36年文展無鑑査。旺亥社同人。1938年没、35歳。76年北九州市美術館で青柳喜兵衛・長末友喜展開催。洋画、挿絵、装幀

青柳暢夫（あおやぎ・のぶお/1908～1962 年）
福岡市生れ。1924年上京、片多徳郎に師事。26年川端画学校に通う。帝国美術学校入学。29年清水登之に師事、33年福岡独立美術協会、同研究所を設立、39年独立賞、46年独立美術協会会員。日動画廊でたびたび個展。東京で没、53歳。洋画、美術研究所

青山熊治（あおやま・くまじ/1886～1932 年）
兵庫県生れ。1903年高木背水に師事。04年東京美術学校西洋画科に入学。07年東京勧業博覧会で二等賞。10年白馬会賞。文展で三等賞、二等賞。14～22年欧州巡遊。26年帝展特選、帝国美術院賞。29年第一美術協会創立会員。九州大学工学部で壁画制作。兵庫県で没、46歳。洋画

青山光佑（あおやま・こうゆう/1938 年～ ）
山形県生れ。1965年東京芸術大学大学院修了。小磯良平に師事。最初油彩画から立体を経て版画を手がけるようになり、71、73年クラコウ国際版画ビエンナーレ、72、74年東京国際版画ビエンナーレに出品。山形大学教育学部教授。芸術院会員。洋画、版画、美教

青山二郎（あおやま・じろう/1901～1979 年）
東京生れ。1919年日本大学法学科入学、東京帝大で開かれた奥田誠一主宰の「陶磁器研究会」に通う。柳宗悦や浜田庄司たちの民藝運動に参加、のち民藝理論に矛盾、離れた。李朝陶器を収集して陶器の図録『鴎香譜』を刊行。1930年麻布一の橋に所帯を構え、小林秀雄、中原中也、河上徹太郎、三好達治、大岡昇平ら文学仲間と交友。青山中心の集いは「青山学院」と称された。北大路魯山人、宇野千代、白洲正子、加藤唐九郎など多彩な面々と交流。著書に『陶経』『眼の引越』、戦後小林秀雄とともに創刊した『創元』に梅原龍三郎論、富岡鉄斎論を発表。装丁は中原中也「在りし日の歌」等の作品。東京で没、77歳。装丁、美評、骨董収集鑑定、コレ

青山兵吉（あおやま・ひょうきち/1913 年～ ）
山形市生れ。山形師範学校卒業後、小学校教員を務める。上京し、東京高等師範学校研究科に 2 年在学、都内の高校で教師となる。退職し渡欧。1955年第 11 回日展に出品、57年第 43 回光風会展に初出品。61年大 47 回光風会展で奨励賞、会友となる。65年第 51 回光風会展で会員。66年光風会員による青圭会展に第 8 回まで出品。日展出品を続け日展会友。（佐）洋画、美教

青山博之（あおやま・ひろゆき/1952 年～ ）
広島県生れ。1974年 東京芸術大学日本画専攻入

学。76年春の院展・院展初入選。78年大学在学中、渡欧、スペイン遊学。79年東京芸術大学日本画専攻卒。80年個展(新宿伊勢丹)。85年山種美術館賞展招待出品(同、'87年)。93年個展(広島天満屋)。現在、日本美術院院友。日本画

青山政吉 (あおやま・まさきち/1920～1994 年)
兵庫県生れ。1943年京都市立絵画専門学校日本画科入学。山口華楊、池田遙邨、小野竹喬の指導を受け、後、黒田重太郎に師事し洋画を学ぶ。48年卒。48年小学校教員時代にスタック(科学技術行政協議会)留学生。54、55年渡仏留学。水彩画に転じ活躍。洋画の論理的な構図に日本画の繊細な技法を組み合わせた独自画風。1994年没、74歳。2011年西宮市大谷記念美術館個展。水彩、美教

青山正治 (あおやま・まさじ/1893～1969 年)
埼玉県生れ。1925年東京美術学校卒。28年日本創作版画協会展に出品。帝国博物館勤務のかたわら木版画制作。退職後は版画制作に専念。1969年没、76歳。洋画、版画

青山美野子 (あおやま・みやこ/1952 年～)
東京生れ。絵は独学。1979年現代画廊個展。87年ギャラリー武者小路で個展。88年宮城県立美術館が作品収蔵。89年以降グループ展中心。93年グループ南指舎結成、埼玉県深谷市内にギャラリー弥平開設。柏わたくし美術館で個展。2013年ほくさい美術館で個展。洋画、水彩

青山義雄 (あおやま・よしお/1894～1996 年)
神奈川県生れ。1911年日本水彩画会研究所に学ぶ。21年渡欧、アカデミー・ランソン、グラン・ショミエールに学ぶ。21, 22年サロン・ドートンヌ入選、マティスに師事。28～34年春陽会展に出品、会員。35年帰国。36年国画会会員。37年佐分賞。52～89年再渡仏。88年神奈川県立美術館で回顧展開催。93年中村彝賞。国画会客員。茅ケ崎市で没、102歳。洋画

青山龍水 (あおやま・りゅうすい/1905～1998 年)
長崎県生れ。1929年東京美術学校卒。35年二科展入選、42年会友、45年会員、65年青児賞。60年渡欧、サロン・ド・コンパレゾンに出品、以後招待出品。パリおよび長崎美術館などで個展を開催。作品に「丘の風景」「山麗」「郊外の風景」。東京で没、93歳。洋画

青山龍水Ⅱ (あおやま・りゅうすい/1905～1998 年)
長崎県口之津町生れ。1929年東京美術学校卒。45年二科会会員。56年第41回二科展で会員努力賞。43年第6回新文展に無鑑査出品。65年第50回二科展で青児賞。78年二科会常務理事。79年第64回二科展で総理大臣賞。81年サロン・ドートンヌ招待出品。1998年没、93歳。(佐)洋画 50

赤岩賢三 (あかいわ・けんぞう/1924～1995 年)
茨城県生れ。1971年慈彩会会員。73年太陽美術展主宰。78年小田原市より褒賞、日本美術家連盟会員。1995年没、71歳。洋画

赤木曠児郎 (あかぎ・こうじろう/1934～2021 年)
岡山市生れ。1956年岡山大学理学部物理学科卒。63年渡仏、パリで制作。70年サロン・ドートンヌ、73年ナショナル・デ・ボザール協会会員。71年ル・サロン展水彩画金賞。74年ル・サロン展油絵金賞、終身無鑑査。75年ツーロン市立美術館主催国際展で仏大統領賞。2000年現代国際絵画フェスティバルでガレット・ドール(最高金賞)。02年ナショナル・デ・ボザール協会名誉副会長。日本人初のピュビス・ド・シャバンヌ賞(最高賞)。2021年没、87歳。洋画、水彩、版画

赤木範陸 (あかぎ・のりみち/1961 年～)
別府市生れ。東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻卒、同大大学院博士前期課程終了。藝術学修士。大学院在学中にドイツ政府給費生としてミュンヘン国立芸術大学に留学、1995年卒業資格であるディプロム取得、同時にマイスターシューラーの学位を授与。横浜国立大学大学院教授。エンカウスティーク技法研究の第一人者。洋画、美教

赤城泰舒 (あかぎ・やすのぶ/1889～1955 年)
静岡県生れ。大下藤次郎の内弟子、太平洋画会研究所、水彩講習所に学ぶ。1907年日本水彩画会研究所新設と共に同所に転じ、13年まで同会幹事。13年日本水彩画会創立に参加。1909年文展入選、のち文展審査委員。帝展、二科展、光風会展に出品、18年光風会会員。11～21年大下没後、『みづゑ』の編集。21～41年文化学院創立に絵画科を担当。25年水絵連盟結成。42年女子美術専門学校講師。東京で没、66歳。(東文研 引用)洋画、水彩、美教、版画、『みづゑ』の編集

明石真三 (あかし・しんぞう/1893～1987 年)
熊谷市生れ。親戚にあたる森田恒友に強い影響を受け画家を志す。1921年東京美術学校西洋画科本科卒。24年第2回春陽会展に出品、以後8回まで出

品(確認)。26年第 1 回聖徳太子奉賛美術展覧会に出品。31年渡欧。58年新槐樹社創立会員。67年サロン・ド・ゲンを主宰し資生堂で発表を行う。東京で没、93歳。(佐)洋画

赤瀬川源平 (あかせがわ・げんぺい/1937～2014 年)
横浜市生れ。1957年武蔵野美術学校油絵科中退。60年ネオ・ダダイズム・オルガナイザーズ結成。63年高松次郎らとハイドレッド・センター結成。81年芥川賞(尾辻克彦名)。86年路上観察学会発足。95年名古屋市美術館で個展。2006年武蔵野美術大学日本画科客員教授。14年没、77歳。現代美術、立体、ネオ・ダダ、ハイドレッド・センター

縣 治朗 (あがた・じろう/1897～1982年)
松本市生れ。古美術の研究、源氏物語絵巻の模写。小林古径に師事。1947年砂子と切箔の風景画を東京美術倶楽部で開催。51年一水会展に出品。71年新橋演舞場、明治座の緞帳の意匠、制作を担当。ホテルオークラ、ニューオータニの壁画、室内装飾を担当。72年吉川英治国民文化賞。74年三越本店で個展開催。1982年没、85歳。日本画、意匠、壁画

赤塚一三 (あかつか・かずみ/1956 年～)
岐阜市生れ。1980年愛知県立芸術大学卒、82年同大学院修了。83～91年アッサイ展(愛知県美術館等)。名古屋画廊個展。銀座ギャラリー和田で個展。95～97年愛知県海外研修生として渡仏。2006年東郷青児美術館大賞展招待。03年写実画壇展に出品のち運営委員。洋画

赤塚忠一 (あかつか・ただいち/1887 年～没年不詳)
長野県生れ(？)。中沢弘光に師事。1912年光風会第一回展に出品。15年日本及日本人臨時増刊 665 号郷土光華号(お国自慢)三宅雪嶺主筆の挿絵担当。17年光風会第 5 回展に出品。16年文展、18年文展出品。20～29年にかけて帝展出品(2、4、9、10 回)。23年「関東大震災画帖」製作に参加。 27 年「主婦の友」の「多摩御陵を中心とした東京附近の名所案内図」を担当。28 年第 15 回日本水彩画会展に会員出品。54 年の住所:群馬県利根郡新治村猿ヶ寮。没年不詳。(佐)洋画、挿絵、水彩、版画

赤塚裕二 (あかつか・ゆうじ(1955 年～)
鹿児島県生れ。1979年東京芸術大学美術学部油画専攻卒、81年同大学院修士課程修了。81年よりコバヤシ画廊個展。90年「TheEighties 出版記念展」コバヤシ画廊、東京。92～93年「現代美術の視点-形象のはざまに」東京国立近代美術館、国立国際美術館、大阪。97年「Art28'97」Musse Basel、バーゼル[98]。2007年「絵画の現在-活躍する鹿児島の画家達」鹿児島市立美術館。洋画、版画

赤津 實 (あかつ・みのる/1909～1990 年)
東京生れ。1936年東京美術学校油画科卒。福井県立敦賀高等女学校、東京府立第十一中学校等の図画専科教員。39年新文展に入選。48年東京第一師範学校助教授、41年東京学芸大学助教授。52年創元展で創元会賞、同会会員、同会委員。63年社団法人「日本美術教育連合」の設立発起人、同会会員。64年文部省より中学校美術教科書検定調査審議会調査委員。68年東京学芸大学教授。73年定年退官後は、女子聖学院短大児童教育学科図画工作科教授。神奈川県で没、80歳。美教、洋画

赤穴桂子 (あかな・けいこ/1924～1998 年)
東京生れ。1949年猪熊弦一郎の田園調布純粋美術研究所で洋画を学ぶ。赤穴宏は夫。52年アートクラブに入会。53年女流画家協会展で奨励賞、会員。53, 60年新制作展で新作家賞。55年国際水彩画ビエンナーレでブルックリン美術館買上げ。抽象的イメージ作品。98年没、74歳。洋画

赤穴 宏 (あかな・ひろし/1922～2009 年)
北海道生れ。1943年東京高等工芸学校工芸図案科卒。46年田園調布純粋研究所入所猪熊弦一郎に師事。47年新制作派協会展入選、49、50年新作家賞、55年新制作協会賞、56年会員。51年千葉大学同大学工学部専任講師、54年助教授。70年千葉大学工学部教授。82年武蔵野美術大学教授。91年「赤穴宏教授作品展」を武蔵野大学美術資料図書館で開催。98年勲三等瑞宝賞。99年リトグラフ集「午後の静物」刊行。2002年北海道立釧路芸術館にて回顧展。05年中村彝賞。2009年没、87歳。洋画、美教

赤根和生 (あかね・かずお/1924～1997 年)
秋田市生れ。1948年東京外国語大学イタリア語学科卒。オランダ国立美術史研究所に留学。70年大阪万国博覧会で現代美術部門の企画、72年独、カッセル市のドクメンタ・5 で、日本代表コミッショナー。国立国際美術館運営委員、兵庫県立近代美術館審美委員、神戸須磨離宮公園野外彫刻展選考委員。モンドリアン研究に専念し、本格的な評伝『ピート・モンドリアン-その人と芸術』(美術出版社、1971 年)、研究は国際的にも評価。大阪芸術大学教授。神戸で没、72歳。美評、美教、彫刻

赤羽末吉 (あかば・すえきち/1910～1990 年)

東京生れ。東京順天中学校卒。1939～42年満州国国展に出品し、3度同展で特選。49年アメリカ大使館に勤務。59年日本童画会展で茂田井武賞。65年サンケイ児童出版文化賞受賞。73年講談社出版文化賞。75年アメリカ・ブルックリン美術館絵本賞。80年国際アンデルセン賞の画家賞。82年ライプチヒ国際図書デザイン展金賞、83年イギリスのダイヤモンドパーソナリティ賞。横浜市で没、80歳。洋画、童画、絵本

赤羽雪邦（あかばね・せっぽう/1865～1928 年）
長野県生れ。仙石翠淵の画塾で絵を学ぶ。京都に行き、尾崎雪翁に師事、上京して橋本雅邦に師事。1889年東京美術学校第1期生入学、95年同校卒。99年全国絵画共進会で一等賞。1904～18年年渡米。日本橋倶楽部で個展。東京で没、63歳。（コトバンク引用）日本画

赤星　孝（あかぼし・たかし/1912～1983 年）
福岡県古賀市生れ。本名孝夫。青柳で代々医院を営む赤星家の長男として生れる。旧制福岡中学校、帝国美術学校に学ぶ。児島善三郎、川口軌外に師事。33 年第 3 回独立展に入選。40 年第 10 回独立展で独立賞。48 年第 16 回独立展で会員に推挙。61 年渡欧。68 年渡欧。74 年古賀市にアトリエを構える。83 年 10 月 18 日没、享年 71 歳。（佐）洋画

赤星信子（あかぼし・のぶこ/1914～2015 年）
大連生れ。1938年女子美術専門学校洋画師範科入学、41年同校卒。児島善三郎、林武に師事。48年独立賞。59年独立美術協会会員。90年福岡市立美術館で回顧展開催。同年福岡市文化賞。褐色を基調とした詩的具象から厚塗り抽象へ赤が特長。福岡県で没、100歳。洋画

赤星亮衛（あかぼし・りょうえ/1921～1992 年）
熊本県生れ。海老原喜之助に師事。1952年自由美術展入選。66年挿絵でサンケイ児童文化賞。68年行動展入選、72年行動美術奨励賞、89年行動美術協会会員。絵本作家、童話の挿絵五百冊。松戸市で没、70歳。絵本、童画、挿絵

赤堀信平（あかほり・しんぺい/1899～1992 年）
福島県生れ。太平洋美術学校、東京美術学校彫塑別科卒。朝倉文夫に師事。21年帝展入選、25、26、27年帝展で三年連続特選。25年新文展の審査員。聖徳太子奉讃美術展へ出品、東京・上野公園内の五条天神社の狛犬などを制作。21年東邦彫塑院会員。戦後は日展に所属し、会員、評議員、参与、審査員。52年日展出品の彫刻家による日本彫塑会に会員として参加、54年日本美術家連盟会員。木彫、塑像とも制作、肖像彫刻にすぐれ、衆議院内の「尾崎咢堂胸像」(55年)を、「広池千九郎像」(63年)。「聖観音菩薩像」(京都・高山寺)。福岡県で没、93歳。彫刻

赤堀　尚（あかぼり・なおし/1927 年～　）
静岡県生れ。1954年東京芸術大学油絵科卒。56年同大専攻科修了。1959-62年滞欧・フランスを拠点とし制作。1962-63年個展。64年現代美術展、個展. 1967-69年。1971年渡欧・個展・国際形象展。74年新樹会会員。96年赤堀尚画集。立軌会同人。洋画

赤津　実（あかつ・みのる/1909～1990 年）
東京生れ。1936年東京美校油絵科卒。52年創元会賞。東京府立第 11 中学校教員。68年東京学芸大学教授。のち女子聖学院短期大学教授。著書に『図案手帖』。1990年没、80歳。洋画、美教

赤堀佐兵（あかほり・さへい/1904～1961 年）
岡山県勝田郡勝央町生れ。24 年関西甲種商業学校卒(現、関西大学付属一高)。28 年上京、「1930年協会」洋画研究所に学び、小島善太郎に師事。32 年第 2 回独立展に初入選。38 年第 8 回独立展で独立賞。44 年郷里に疎開。48 年独立美術協会会員に推挙。49 年上京、南多摩郡稲城村の村立第一小学校の教員を 53 年まで勤める。61 年 3 月 9 日没、享年 57 歳。62 年文芸春秋画廊で遺作展開催。（佐）洋画、美教

赤松　進（あかまつ・すすむ/1905～1933 年）
大阪生れ。赤松麟作の次男。1924年大阪美術協会展に出品。26年赤松洋画研究所で講師。26年二科展入選。27年全関西展に出品、27年「艸園会」に参加、出品。29年全関西洋画展で朝日賞。33年没、28歳。洋画

赤松俊子（丸木　俊）（あかまつ・としこ/1912～2000 年）
北海道生れ。1933年女子美術専門学校卒。41～46年美術文化協会展に出品、44年美術文化協会会員。原爆救援活動後、夫丸木位里と「原爆の図」を描く。女流美術家協会、十一会所属。50年アンデパンダン展に「原爆の図」出品。日本全国巡回。53年国際平和文化賞。世界巡回展開始。67年丸木美術館開館。2000年東松山市で没、87歳。洋画

赤松麟作（あかまつ・りんさく/1878～1953 年）
岡山県津山生れ。1899年東京美術学校西洋画科

選科卒。更に研究所に学び、三重県第一中学校教員。1902年白馬会賞。大阪梅田に赤松洋画研究所を開いた。18年光風会会員。41年関西女子美術学校校長。45年大阪市立美術研究所教授。48年大阪府知事文芸賞。つねに関西洋画壇の育成に尽力。大阪で没、75歳。洋画、美教、挿絵、版画、日本画、洋画研究所

ＡＫＩ（あき/1987 年～ ）
東京生れ。スペイン国立「バルセロナ海洋博物館」で「マザーフォレスト」を発表、金賞。「日本スペイン交流親善名誉作家」受賞。日本・ギリシャ修好 110 周年記念展覧会にて「歴史」を発表、「特別審査委員賞」。2010年知的障がい者の大学ゲスト講師（武蔵野美術大学）。NHK ハートプロジェクト第 18 回ハート展作画者に選出。京都で唐紙師とのコラボレーション作品「唐紙四曲屏風・涅槃図」発表。欧米でデザインテキスタイルの「AKI デザインファブリック」、そのデザインの元原画発表。14年春発売「アシストスマホ」「（ソフトバンク株）に採用。14年～公益社団法人日本助産師会機関誌「助産師」表紙に採用。洋画、デザイナー

秋岡美帆（あきおか・みほ/1952～2018 年）
神戸市生れ。1979年大阪教育大学大学院教育学研究科修了。80年世界版画コンペティション・特別買上賞。84年日本国際美術展・富山県立近代美術館賞。85年現代日本美術展・群馬県立近代美術館賞。第 17 回日本国際美術展・東京国立近代美術館賞。2018年没、66歳。版画

秋口保波（あきぐち・やすなみ/1897～1976 年）
島根県生れ。滋賀県ゆかりの作家。1935年春陽会展で春陽会賞。38年新文展に入選。53年春陽会会員。76年没、77歳。滋賀県立美術館に作品収蔵。洋画

穐月　明（あきづき・あきら/1929～2017 年）
和歌山県生れ。愛媛県西条市で少年時代を過ごす。1953年京都市立美術大学洋画科卒、同校洋画専攻科修了後、58年同校日本画専攻科修了。61年より毎年、京都、大阪、東京で水墨画の個展。71年「今日の日本画展」の出品作が山種美術館買上。89年穐月明水墨画集『旅の途中頌』を出版。2017年没、88歳。水墨、日本画

秋野亥左牟（あきの・いさむ/1935～2011 年）
京都市生れ。日本画家、沢宏靭と秋野不矩の次男。1961年東京藝術大学彫刻科を中退。62年インドの大学に客員教授として招かれた秋野不矩と一緒に移住。65年ネパールに移住。68年『プンクマインチャ』を出版、69年世界絵本原画展金牌。 石垣幸代、秋野和子 文『サシバ舞う空』（福音館書店、2002 年）で 小学館児童出版文化賞。金関寿夫 訳『神々の母に捧げる詩 続 アメリカ・インディアンの詩』（福音館書店）で 2012 産経児童出版文化賞美術賞。兵庫県で没、76歳。絵本

秋野松堂（あきの・しょうどう/1880～1957 年）
鶴岡市生れ。1907年早稲田大学卒。奥原晴湖、晴翠に師事、日本画を学ぶ。1914年秋野茂右衛門家の後を継ぎ、当主。25年美術団体、白甕社を資金面で援助。1957年没、77歳。日本画

秋野不矩（あきの・ふく/1908～2001 年）
静岡県生れ。静岡県女子師範卒。石井林響に師事。西山翠嶂の画塾、青甲社に入門。1937年新文展で特選。48年創造美術の結成に参加。54歳インドの大学に客員教授。日本画家沢宏靭との間に 6 人の子を儲けた。51年上村松園賞。66年京都市立美術大学教授。文化勲章。京都で没、2001年没、93歳。日本画、美教

秋保正三（あきほ・しょうぞう/1914～2002 年）
東京生れ。1933年東京美術学校入学。44年出征。47年二紀展に出品、K氏賞。二紀展で総理大臣賞、菊華賞、鍋井賞。67年社団法人二紀会が認可され発足。67年理事就任、のち参与。82年日本美術家連盟委員。2002年没、88歳。洋画

秋元清弘（あきもと・きよひろ/1922～1995 年）
東京生れ。1940年東京府立第六中学校卒。44年東京美術学校油画科卒。田辺至に師事。48年高校美術教師。55年東光展奨励賞、57年会員。56年日展入選、65、71年特選、以後無鑑査、委嘱出品、80年会員、94年評議員。東京で没、73歳。洋画、美教

秋元松子（あきもと・まつこ/1899～1995 年）
千葉県生れ。跡見女学校卒。夫は笹岡了一。1921年より富田温一郎、岡田三郎助に師事。31、34年帝展に入選。42年新文展に入選。57年日展で特選、会友。白日会展、朱葉会展に出品。46年光風会会員、名誉会員。女流画家協会委員。千葉県で没、96歳。洋画

秋元松子 Ⅱ（あきもと・まつこ/1899～1995 年）
千葉県生れ。跡見女学校を卒業、1921年頃より富田温一郎に師事。ついで岡田三郎助に師事。26年第 3 回白日会展に初入選。31年の第 12 回帝展に初入選。32年第 9 回白日会展で会友。31年第 6 回白日会展で白日賞。34年第 11 回白日会展で会員。第 15 回帝展、42年第 5 回新文展に出品。戦後は46年第 2 回日展から出品を続け、57年第 13 回日展で特選。46年光風会会員、後、名誉会員。女流画家協会

委員。日展会友。流山市で歿、96歳。(佐)洋画

秋山 泉 (あきやま・いずみ/1938 年～)
甲府市生れ。桑原絵画研究所で石膏デッサンを学ぶ。東京教育大学絵画専攻入学、専攻科に進み、高校の美術教諭。1976年二紀会同人、同人賞、ヨーロッパ奨学賞。山梨日日新聞の挿絵担当。75年山口大学助教授。安井賞入選、二紀会宮本賞、二紀会栗原賞、山口県芸術文化奨励賞。99年文部大臣賞。80年代半ば螺旋状のフォルムを作り上げるスタイル。(山梨県美 引用)洋画、美教、挿絵

秋山 巌 (あきやま・いわお/1921～2014 年)
大分県生れ。1953年太平洋美術学校卒。棟方志功、布施悌次郎、坂本繁二郎に師事。その後、独学で民俗学・仏教学・俳詩・陶芸・彫刻・水墨画を学び、66年駐日アメリカ合衆国大使館主催による CWAJ 現代版画展に招待され、作品を出品。動物や民話、山頭火俳句を題材とした木版画や肉筆画作品。日本版画院賞・全米版画協会展賞。太平洋美術会副委員長。日本美術家連盟会員。松戸市で没、93歳。版画、日本画

秋山 静 (あきやま・しずか/1932～1997 年)
茨城県生れ。油彩による抽象画を描く。1958～60年自由美術展に出品。63年以降は新構造社展に出品。油彩、銅版画、紙板を使った色面構成、寄せ木版画による青のグラデーションの表現。シナベニアを糸鋸で切断して一つずつに油性絵の具をのせ、再び寄せ集めプレス機技法。1997年没、65歳。版画、洋画

秋山俊也 (あきやま・しゅんや/1986 年～)
栃木県生れ。2003年、銀座・画廊宮坂で初個展。06年小杉放菴記念日光美術館個展。09年東武日光線上今市駅舎内杉並木公園ギャラリーでドローイング個展。10年栃木県立美術館企画展「イノセンス」出品。15年木更津わたくし美術館個展。洋画

秋山庄太郎 (あきやま・しょうたろう/1920～2003 年)
東京生れ。早稲田大学商学部卒。1947年近代映画社に入社。50年日本写真家協会の創立会員。51年フリー。週刊誌や広告の女性ポートレートで活躍。53年林忠彦と二科会写真部創設に参加。花をモチーフとした作品もおおい。日本写真芸術専門学校校長、日本広告写真家協会会長。93年勲四等旭日小綬章。2003年没、82歳。写真集に『おんな・おとこ・ヨーロッパ』『作家の風貌―159 人』など。写真

秋山清水 (あきやま・せいすい/1915～2009 年)
岡山県生れ。憲政記念館に展示してある尾崎行雄と犬養毅の肖像画を描いた。ノーベル平和賞佐藤栄作、土光敏夫など実業家、彫刻家の平櫛田中の肖像画を描いた。2009年没、94歳。2011年岡山県吉備の岡崎嘉平太記念館で秋山清水展開催。洋画、肖像

秋山泰計 (あきやま・たいけい/1927～1986 年)
高松市生れ。東京美術学校工芸科及び東京美術学校彫刻科卒。1950年グループ「FOR」結成。56～61年ブラジル移住。62年日本版画協会展で協会賞。76年デザイン・フォーラム公募展 76'に出品、金賞。86年アトリエ・ヌーボコンペに出品、準グランプリ。風刺の効いた人間描写、ポジとネガが反転するエッシャー的な画面構成など、独自な木版画の世界を展開する。また、紙による立体造形「おびからくり」を発案するなど、版画家としてだけではとらえきれない人生を歩む。1986年没、59歳。2019年高松市やきものの里かわら美術館で個展。版画

秋山光夫 (あきやま・てるお/1888～1977 年)
静岡県生れ。1913年京都帝大文科大学哲学科卒。18年宮内省図書寮編修官補、24年同省御物管理委員会係、26年帝室博物館鑑査官。29～31年欧米留学。35年文部省重要美術品等調査委員を兼務。42年東京帝室博物館学芸課長、45年退職。50年金沢美術工芸短大教授、55年金沢美術工芸大学教授、65年学長。69年退官、69年名誉教授。日本美術協会専務理事、ブリヂストン美術館参与、石川県文化財専門委員、日本近世絵画史の研究。著書に『御物若冲動植綵絵精影』『日本美術論攷』。美史、美教、大学長

秋山祐徳太子 (あきやま・ゆうとくたいし/1935～2020 年)
東京生れ。1960年 武蔵野美術学校彫刻科卒。65年岐阜アンデパンダン展に自分自身を出品、「ダリコ」をはじめ、ポップハプニングと称するパフォーマンスを展開。73年初の彫刻展を開催。以後、ブリキによる彫刻作品を次々と発表。94年池田 20 世紀美術館で「秋山祐徳太子の世界展」を開催。99～2003年札幌大学文化学部客員教授。赤瀬川原平・高梨豊と「ライカ同盟」で活動。20年没、85歳。現代美術、彫刻、洋画、パフォー、ハプニング

秋山令一 (あきやま・りょういち/1952 年～)
山梨県生れ。県立巨摩高校卒業後、パリをはじめ世界各地を放浪する。1980年代の山梨の現代美術の中核的存在であったグループ展「試行する美術」に出品を続ける。84年山梨県立美術館賞。人物のポートレートを、セリグラフ、コラージュ、箱状の支持体などの表現手法でまとめ上げた作品は、評価されている。現代美術、コラー、版画

秋山良太郎（あきやま・りょうたろう/1901～没年不詳）
本郷研究所を経て、牧野虎雄氏に師事。帝展3回、二科会5回、槐樹社8回出品。その他の展覧会にて入選受賞。個展数回。 一線美術委員等。佐伯祐三展(1978 年東京国立近代美術館)出品。東京芸術大学美術館収蔵。洋画

秋好 馨（あきよし・かおる/1916～1989 年）
東京生れ。1935年「フレッシュマン神童君」でデビュー。37年横山隆一所属の「新漫画派集団」に入る。41年近藤日出造主宰の雑誌「漫画」に『轟先生』を発表、49年から読売新聞夕刊に 4 コマ漫画連、51～73年朝刊通算 7762 回。『ますらを派出夫会』、『あわもり君』。晩年は油絵に親しみ、個展開催。鎌倉市で没、76歳。漫画、洋画

秋吉小百合（あきよし・さゆり/1923～1987 年）
1923年生れ。新象作家協会会員。九州女流美術協会会員。北九州市で没、61歳。洋画

秋吉 匠（あきよし・たくみ/1921～1985 年）
福岡県生れ。1943年東京美術学校図画師範科卒。63年光風会会員。72年光風会展で会員賞。75年日展特選。1985年没、64歳。洋画
100

芥川＜間所＞沙織（あくたがわ＜まどころ＞・さおり/1924～1966 年）
豊橋市生れ。1947年東京音楽学校声楽科卒。油画は50年頃猪熊弦一郎に学ぶ。54年モダンアート協会展新人賞。55年二科展で岡本太郎室特待賞。大胆でユニークな画題を鮮やかな染織で表現。59～62年渡米。62年滞米作で個展。66年没、42歳。洋画

芥川麟太郎（あくたがわ・りんたろう/1941 年～ ）
横浜市生れ。1965年武蔵野美術大学卒。70年詩人佐藤一英「よいとまけの唄」(毎日新聞)の挿画を担当。84年個展(春秋画廊)。86年洲之内徹と邂逅、薫陶を受ける。87年訪欧、取材旅行。2001年映像作品『損なわれない約束の系図』(端野俊丸監督)に収録。2015年「画家の詩、詩人の絵」(平塚市美術館、ほか巡回展)に出品。(個展)横浜リーブ画廊、アートギャラリー環、鎌倉ドローイングギャラリーほか多数。洋画、挿画

明田川孝（あけたがわ・たかし/1909 年～1958 年）
新潟県生れ。1928年東京美術学校彫刻科塑造部入学、在学中よりオカリナの研究・制作。33年同校卒。34年国展で国画奨学賞、37年国画会同人、39年退会。35年新興美術家協会展に入選。36年新興美術家協会展にて新作家賞、会友。36年国画会彫刻部有志と造型彫刻家協会を結成。39年新制作派協会彫刻部の創設に参加。53年オカリナの試作により、東京都知事賞。東京で没、49歳。彫刻

明山正次（あけやま・しょうじ/1919～1984 年）
大阪市生れ。大阪工芸学校卒。新文展に出品。等迦会関西代表、大阪芸術大学教授。大阪で没、64歳。洋画、美教

朝井閑右衛門（あさい・かんうえもん/1901～1983 年）
大阪生れ。1919年上京、本郷洋画研究所に学ぶ。25年二科展に入選。34年光風会展入選、37年光風会会員。36年文展鑑査展で文部大臣賞。38年上海軍報道部の委嘱を受け上海戦線記念絵画制作。47年井手宜通、川端実、須田剋太らと新樹会を結成。52年より日本国際美術展、現代日本美術展に出品。62年国際形象展同人。厚塗り、個性的な絵を描いた。野人画家。鎌倉市で没、82歳。洋画

朝井 清（あさい・きよし/1901～1968 年）
広島県生れ。画家を志し、中沢弘光に師事、東光会会員。その後、版画家として活躍。1960年棟方志功、前川千帆、永瀬義郎らとともに日本版画会を設立、日本版画協会会員。68年没、67歳。洋画、版画

浅井 忠（あさい・ちゅう/1856～1907 年）
江戸生れ。1876年彰技堂で学び、同年工部美術学校に入学。78年十一会を結成。89年明治美術会創立に参加。98年東京美術学校教授。1900～02年渡欧。02年京都高等工芸学校主席教授。03年聖護院洋画研究所創設。関西美術院長。京都で没、51歳。(出典 わ眼)洋画、水彩、美教、デザイン、口絵、版画、関西美術院長、洋画研究所

浅井 眞（あさい・まこと/1899～1980 年）
千葉県生れ。伯父は浅井忠。1924年帝展入選。37年文展で無鑑査。日展に出品。1980年没、81歳。洋画

浅井裕介（あさい・ゆうすけ/1981 年～ ）
東京生れ。神奈川県立上矢部高等学校普通科美術陶芸コース卒。抽象画、陶芸、様々な素材でドローイング、巨大壁画、マスキングプラント、泥絵制作。「植物になった白線」シリーズ、道路表示に使われる白線素材に絵を描き地面に焼き付ける。一般の参加者を募って行われることも多い。洋画、現代美術

浅尾丁策（あさお・ていさく/1907～2000 年）
東京生れ。家業浅尾払雲堂、洋画用の筆を製造。1924年東京商業学校卒。神田神保町の画材店竹見屋に勤める。27年独立浅尾払雲堂を経営。42年油彩材料研究会設立。49年プールヴーモデル紹介所。83年労働大臣表彰。96年修復家として指定無形文化財。額縁制作、絵画修復などによって美術界に貢献した。2000年没、93歳。額装、修復、油彩材料研究

浅蔵五十吉（あさくら・いそきち/1913～1998 年）
石川県生れ。父は先代五十吉で、父に師事して陶芸を学び、1928年初代徳田八十吉に師事。46年日展に「青九谷水鉢」で入選し、55年日展で北斗賞。57年日展で特選・北斗賞を受賞。77年改組日展で内閣総理大臣賞受賞。81年日本芸術院賞。84年日本芸術院会員、96年文化勲章。金沢市で没、85歳。陶芸

朝倉響子（あさくら・きょうこ/1925～2016 年）
東京生れ。彫刻家朝倉文夫の次女。1946年第2回日展以後、第7回展までの間に4回の特選を受賞。日展審査員2回。58年日展脱退。62年日本現代美術展、日本国際美術展に招待出品。71年現代国際彫刻展に招待出品。79年長野市野外彫刻賞。82年中原悌二郎賞優秀賞。2016年没、91歳。彫刻

朝倉　摂（あさくら・せつ/1922～2014 年）
東京生れ。父は彫刻家朝倉文夫。16歳で伊東深水に弟子入り。1941年文展入選。51年新制作協会日本画部会員。53年上村松園賞。68年「朝倉摂・渡辺学二人展」。70年講談社絵本賞、以降活動の場を舞台美術に移す。82年日本アカデミー賞優秀美術賞。文化功労者。東京で没、91歳。（出典　わ眼）日本画、舞美、版画、絵本

朝倉文夫（あさくら・ふみお/1883～1964 年）
大分県生れ。1907年東京美術学校彫刻科選科卒。08年文展で2等賞。16年官展審査員。21年東京美術学校教授。24年帝国美術院会員，44年帝室技芸員。48年文化勲章受章。上野谷中に朝倉彫塑塾を開き後進の指導に尽した。長女の摂は画家，舞台美術家，次女の響子は彫刻家。東京で没、81歳。彫刻、美教

朝倉雅子（あさくら・まさこ/1941 年～　）
金沢市生れ。63年金沢美術工芸大学油絵科卒。62年二紀会入選。75年二紀会選抜展佳作賞、76年同人推挙。北陸中日美術展大賞受賞。76年安井賞展入選。90年二紀展女流画家奨励賞佐伯賞。95年二紀会会員。99年二紀展宮永賞。12年二紀会北陸支部長に就く。洋画

浅田　進（あさだ・すすむ/1909～1980 年）
大分県生れ。牧野虎雄に師事。旺玄社展、一線美術会展に出品。新槐樹社委員。1980年没、70歳。洋画

麻田鷹司（あさだ・たかし/1928～1987 年）
京都生れ。父は日本画家の麻田辨次。1949年京都市立絵画専門学校日本画科卒。51年創造美術の準会員、同年、新制作協会日本画部会員。60年個展を東京画廊（東京・銀座）で開催。67年法隆寺金堂再現模写事業従事。70年武蔵野美術大学教授。74年創画会結成、会員。79年麻田鷹司展を東京銀座・松屋で開催。86年洛中洛外−麻田鷹司展を何必館・京都現代美術館で開催。1987年没、58歳。日本画、美教

麻田　浩（あさだ・ひろし/1931～1997 年）
京都市生れ。1955年同志社大学卒。68年新制作協会会員。京展須田賞。71年渡仏。プリ・ナショナル賞受賞。カンヌ国際版画芸術ビエンナーレ第1位受賞等多数。細密な洋画を制作し、銅版画家としても活躍。京都府文化功労賞。97年自死、65歳。（出典　わ眼）洋画、版画

麻田辨自（あさだ・べんじ/1900～1984年）
京都府生れ。西村五雲に師事、日本画を学ぶ。1924年京都市立絵画専門学校卒。50、51年日展特選、58年評議員、59年文部大臣賞、64年日本芸術院賞。28年棟方志功らと版画同人誌『版』刊行。京都創作版画協会の結成に参加。30年恩地孝四郎らと雑誌『きつつき』を創刊。31年雑誌『大衆版画』を創刊。32年日本版画協会に入会。33年武田新太郎らと雑誌『黄楊』を発刊。38年五雲社中の山口華楊らと晨鳥社を創設。51年京都版画協会を結成。77年著書『巴里寸描』を求龍堂から出版。1984年没、84歳。長男は日本画家の麻田鷹司、次男は洋画家の麻田浩。日本画、版画

朝妻治郎（あさづま・じろう/1915～1980 年）
東京生れ。1935～36年本郷洋画研究所に学ぶ。37年長谷川三郎、山口薫に師事、38年彫刻作品が自由美術展に入選、のち同会会員。50年モダンアート協会の創立に参加、51年会員。49、50年美術団体連合展に出品。53年国立近代美術展での「抽象と幻想展」に出品。また、現代日本美術展（第1，2.

3. 4回展)に出品。日本国際美術展(第3、4, 5回展)に出品。個展もしばしば開催する。銅版画、彫刻作品も手がける。東京で没、64歳。洋画、版画、パステル、彫刻

浅野快泉 (あさの・かいせん？/1870～1925 年)
愛知県生れ。鐘美会、関西美術院で伊藤快彦に学ぶ。明治末より大阪桃山学院の教師。京都市美術館に作品所蔵。1925年没、55歳。洋画、美教

浅野竹二 (あさの・たけじ/1900～1999年)
京都市生れ。1923年京都市立絵画専門学校卒。27年国画創作協会展入選。31年国画創作協会展入選。国画創作協会展に出品、日本画家として活躍。31歳より木版画の制作、「名所絵版画シリーズ」を手がけ、一方で自由な表現のもとに創作版画を制作。芸艸堂版は昭和20年後半より版行をはじめ、多くの作品を発表。60年ベン・シャーンが突如京都の浅野のアトリエを訪ね、浅野の作品を賞賛。二人の交流が始まり、この出会いが、浅野の独自の世界の創出にさらなる力を与えた。81年京都市文化功労者賞。1999年没、98歳。版画

浅野ヒデ (あさの・ひで/1930 年～)
栃木県生れ。戦後、四日市市民サークルで、日本画家奥山芳泉に師事。日展3回入選。1983年三重県美術展覧会で三重県市長会長賞。85年県展で最優秀賞。86年県展で品、最優秀賞。日本画

浅野秀一 (あさの・ひでいち/1887～没年不詳)
新潟県生れ。1922年東京美術学校図画師範科卒。2年間広島県立三次高等女学校の教職。24年上京、東京の京橋泰明小学校に勤務。燦木社、東臺邦画会に所属し、日本画を発表。図画教育方面においては東京美術学校内の錦巷会美術教育研究所の幹事、図画教育協会を主宰。『最新図案指導の理論と其の実際』(三成社1921)など図画教育に関する著作を上梓。版画作品については、西田武雄発行の「エッチング」第6号(1933)にエッチング作品を発表。美教、日本画、版画

浅野 鈞 (あさの・ひとし/1955 年～)
大阪生れ。1981年京都市立芸術大学 美術専攻科修了。82年春季創画展 春季展賞、創画展 創画会賞(同'83 '86 '87 年)。83年現代美術選抜展('87、'92)。87年山種美術館賞展で大賞、創画会会員。91年京都新聞日本画賞展で優秀賞。94年 文化庁芸術家在外研修特別派遣(中国)。2000年 MOA 岡田茂吉賞・絵画部門優秀賞。02年東山魁夷記念日経日本画大賞。10年北京国際美術ビエンナーレ優秀賞。15年京都府文化賞功労賞。京都市立芸術大学教授。創画会会員。日本画、美教

浅野孟府 (あさの・もうふ/1900～1984年)
東京生れ。東京美術学校彫刻科中退。主に彫刻の創作活動。1918年院展彫刻部入選。21年岡本唐貴と彫刻家戸田海笛に学ぶ、未来派美術協会会員。22年二科展入選、「アクション」を結成し、23、24年に出品。岡本らと「DVL」を結成。詩誌『横顔』に岡本とともに同人。24年「三科」結成。25年三科会員展、三科公募展出品。26年三科解散後「造型」結成、27年「造型美術家協会」、29年プロレタリア美術家同盟結成に参加。大阪プロリタリア美術研究所設立。30年大阪で新興人形劇団「トンボ座」を結成。45年二科会再建に会員参加。大阪で没、84歳。彫刻、版画、美術研究所

浅野弥衛 (あさの・やえ/1914～1996年)
三重県生れ。1932年旧制神戸中学卒。50年美術文化協会会員。50年代より'引っかき"という独自技法でモノクロームの作品。61～72年名古屋画廊で個展。70年以降は「ブルーチェス」シリーズ制作。74～92年桜画廊個展。87～90年愛知県立芸術大学客員教授。85年名古屋市芸術賞特賞。96年三重県立美術館で回顧展。96年没、81歳。洋画、鉛筆

浅原清隆 (あさはら・きよたか/1915～1945 年)
兵庫県生れ。1939年帝国美術学校本科西洋画科卒。35年二科展入選。シュルレアリスムに関心を持ち、同級生らと36年グループ「表現」を結成。37年独立展入選。38年創紀美術協会結成参加会員。39年美術文化協会の結成参加。同年、神戸で個展を開催。応召し、1945年ビルマ(現ミャンマー)で行方不明、戦没。30歳。洋画、水彩、版画

朝日 晃 (あさひ・あきら/1928～2016 年)
広島市生れ。1952年早稲田大学文学部芸術専修美術科卒。54年神奈川県立近代美術館嘱託。61年に同美術館学芸員。75年東京都美術館の事業課長。著書76年『戦前の前衛・二科賞、樗牛賞の作家とその周辺』、77年『靉光・松本竣介そして戦後美術の出発展』、78年『写真と絵画・その相似と相異』。85年広島市現代美術館開設準備事務局長。88年同美術館開設準備室長。89年開館の同美術館の副館長。退職後、美術評論家活動。『松本竣介』(日動出版部、1977 年)『永遠の画家 佐伯祐三』(講談社、1978 年)。東京で没、88歳。美評、美術館副館長

旭谷左右（あさひだに・そう/1894～1938年）
京都市生れ。1913年京都市立絵画専門学校入学。18年洋画を志し鹿子木孟郎画塾に学ぶ。20年帝展入選。25、26年渡欧。30年頃自刻木版画制作。絹地に油絵具で木版刷を試みた。1938年没、44歳。41年旭正秀のデッサン社主催による旭谷左右遺作展が大阪三越で開催。洋画、版画

朝比奈隆（あさひな・たかし/1932 年～ ）
広島市生れ。行動美術研究所に学ぶ。1951年中央大学に入学、渡米のため大学を中退。59～61年ART STUDENT OF N.Y 修了。62年 PRATT INSTITUTE 版画工房でセリグラフ（シルクスクリーン）を制作開始。68年仏、ムック画廊他で個展。シアトル美術館永久コレクション買上げ、ボストン版画展、アメリカ版画協会展他で活躍。71～72年渡仏。上野松坂屋、彌生画廊、アスクエア神田ギャラリーで個展。2021年茂原市立美術館で個展。洋画、版画

朝比奈文雄（あさひな・ふみお/1914～1992 年）
東京生れ。1932年小絲源太郎に師事。46年光風会会員、49年日展で特選、光風会展で岡田賞、51年光風会展で南賞。46年日展で特選、60年日展で菊華賞、64年日展会員、のち評議員。57年銀座求龍堂で個展。63～64年渡欧。東京で没、77歳。洋画

旭 正秀（あさひ・まさひで/1900～1956 年）
京都生れ。1918年京都府立第二中学校卒業後、東京朝日新聞社に入社、30年迄在勤。川端画学校に学び、22年日本創作版画協会会員。31年日本版画協会の会員。21年小泉癸巳男等と雑誌『版画』を創刊、（「詩と版画」と改題）25年迄継続。26年素描社を創立、「デッサン社」と改名。30～37年3度の外遊。外務省、文部省後援による現代日本版画展開催委員。作品発表は日本版画協会、春陽会、文展など。版画の普及、紹介に尽力。著書も多く『大津絵』『日本の版画』『日本版画の技法』『開化の横浜絵』。47年日展委員。56年没、56歳。版画

朝見香城（あさみ・こうじょう/1890～1974年）
姫路市生れ。画家森月城に師事、後に京都に出て西山翠嶂に師事する。1915年文展に入選、帝展で入選を重ねる。名古屋で活動した画家。1930～32年にかけて出版の多色摺伝承木版画「新板 名古屋名所図絵」、大版12 景12 枚（「金城黎明」「大須夏夜」「花園町燈灯景」「鶴舞薫風」他）が知られる。版元マークに「静」（詳細未詳）の空押し印、刷りは宮崎和三郎（1879～1937）（「版画芸術」135）と推定。50年、愛知県文化功労賞を受賞し、51年～日展で入選を重ねた、1974年没、84歳。（橋）版画、日本画

足利義持（あしかが・よしもち/1386～1428年）
三代足利義満の嫡子。請来された書画や調度類等「唐物」の蒐集。義持は自ら絵筆をとった。達磨や観音、布袋、寒山といった水墨略筆の道釈人物画を遺した。将軍の手遊びの域を超えたもので、相当の技量。「瓢箪で鯰を押さえることができるか」禅の公案を絵画化するよう画僧如拙に命じ、《瓢鮎図》（国宝、京都・退蔵院蔵）を描かせた。室町幕府四代将軍、水墨コレクター

安食慎太郎（あじき・しんたろう/1946年～ ）
島根県生れ。1968年武蔵野美術大学油絵科卒。卒業制作展最優秀賞。作品は大学美術館買上げ。独立展初入選、70年独立展優秀作家選抜展。74年インド、スリランカスケッチ旅行。77年一陽展入選、以後毎年入選。79年東ヨーロッパスケッチ旅行。87年ネパールスケッチ旅行。89年文部大臣賞。96年兵庫県川西市民文化賞。生まれ故郷の島根県をはじめ、全国に多数壁画を制作。洋画、壁画

安次富長昭（あしとみ・ちょうしょう/1930～2020 年）
沖縄県生れ。1954年琉球大学美術工芸科卒。54年沖展賞。58年沖展会員。58～70創斗会結成参加。68～69年ニューヨーク・プラット・インスティチュウト芸術大学大学院留学。72年国画会会員・審査員。国立琉球大学教授。82年第 56 回国展審査委員長委嘱。84年沖縄タイムス社芸術選賞大賞「美術部門」。85年通商産業大臣表彰。2020年没、90歳。洋画、美教

安次嶺金正（あしみね・かねまさ/1916～1993 年）
沖縄県生れ。1941年東京美術学校油画科卒。42年白日展出品。白日賞、会友。52年首里高校教諭。山里永吉を中心に山元恵一、玉那覇正吉らと琉球民芸研究所を結成。58年創斗会結成。61年沖縄大学教授。67年沖縄タイムス芸術選賞、大賞。72年沖縄造形教育連盟委員長。92年那覇市政功労者。1993年没、77歳。洋画、美教、美普

足代義郎（あじろ・よしお/1909～1989年）
伊勢市生れ。1935年東京美術学校図画師範科卒。45年三重県師範学校女子部助教授。46年光風会会員。47年日展委員。48年三重県美術展覧会営委員・審査員。49年三重師範学教授、三重大学助教授、光風会審査員。59年三重大学教授。87年三重県立美術館ギャラリーで個展。1989年没、79歳。洋画、美

教

飛鳥哲雄（あすか・てつお/1895～1997 年）
金沢市生れ。1913年県立工業学校図案絵画科を経て、19年東京美術学校図案科卒、岡田三郎助に師事。20年二科展初入選、装飾美術家団体〈尖塔社〉を結成。25年雑誌『新人』の表紙を描く。同年県立工業学校に赴任。金沢洋画研究所を設立し、洋画の普及に努める。30年花王に入社して再上京するまで、金城画壇洋画部の中心的存在となって活躍する。1997年没、102歳。洋画、美教、洋画研究所

小豆澤碧湖・亮一（あずきざわ・へきこ・りょういち/1848～1890 年頃）亮一は本名
松江市生れ。松江の豪商・小豆澤浅右衛門の長男。中島来章について日本画を学び、1875年に上京して横山松三郎に写真の技術を学んだ。師である松三郎は油彩も得意とし、高橋由一の協力を得て「写真油絵」を完成させた。松三郎の没後は碧湖が受け継ぎ、85年に「写真油絵」として印画紙への着色写真の特許を取った。82年には帰郷し、島根にはじめて洋画の技法を伝えた。1890年頃没、42歳。2015年江戸東京博物館で「浮世絵から写真へ-視覚の文明開化-」特別展が開催、初代東京府知事・烏丸光徳の肖像画など小豆澤の写真油絵が広く紹介された。洋画、肖像、写真油絵

東　學（あずま・がく/1963年～　）
京都生れ。扇絵師の父・東　笙蒼のもと絵筆に親しむ。14才で米国留学。『フランス人形』はN.Y.メトロポリタン美術館に永久保存。墨画に美意識が凝縮した作風。2003年N.Y.のレストランの装飾画を描く。07年に墨画集『天妖』(PARCO出版)を刊行。14年歌舞伎役者・片岡愛之助とコラボした墨絵のライブパフォーマンス。墨画、パフォー、アートディレクター

東　一雄（あずま・かずお/1910～2000 年）
富山市生れ。1930年富山師範卒業後、岩尾滝尋常小学校に勤務。38年造形版画協会賞。46県展で実行委員。47年洋画研究会・一線美術協会を結成。荒谷直之介、久泉共三らを迎え前田常作が参加。富山県知事賞。49年旺玄会に出品し、牧野賞。50年富山市美術教育学会を創立。(初代会長)。64年国際美術教育会議日本代表。欧州外遊。76年インドネシア外遊。亜細亜現代美術展大賞。86年地域文化功労者文部大臣表彰。88年紺綬褒章。93年北日本新聞文化賞受賞。2000年没、90歳。洋画、美教、版画

游馬賢一（あすま・けんいち/1950 年～　）
埼玉県生れ。1975年愛知芸大卒、77年同大学院修了。79～84年名爽展(名古屋画廊)、90年～名古屋画廊個展。87年銀座ギャラリー和田個展。89年東海記念病院壁画制作(春日井)。94～96年和の会展招待出品(銀座和光)。2007年～立軌展、立軌同人。洋画

吾妻兼治郎（あづま・けんじろう/1926～2016 年）
山形県生れ。1949年東京藝術大学美術学部彫刻科入学。。54年同大学専攻科へ進み、56年同大副手。56年ミラノにわたる。国立ブレラ美術学校彫刻科マリノ・マリーニ教室通う。マリーニは吾妻に「日本の優れた伝統」を大切にするよう説く。68年国際ジュエリー展(チェコ)で金賞。69年国際彫刻ビエンナーレ(フィレンツェ)で金賞。88年吾妻兼治郎展が西武美術館を皮切りに国内5館を巡回。99～02年東京藝大客員教授。02年中原悌二郎受賞。ミラノで没、90歳。彫刻

東　貞美（あずま・さだみ/1928～2006 年）
神戸市生れ。関西大学文学部卒。1951年国画会賞、国画会会員。具体美術協会の創立に参加。銅版画、特にビュランを得意とし、東京国際版画ビエンナーレをはじめとする国内外の版画コンクール等に作品を発表する。版画集に『触視空間』『時間割』『グラナダ風土季』。版画、具体、洋画

東　直樹（あずま・なおき/1948 年～　）
大阪生れ。71年春陽会展新人賞、79年会員、94年中川賞。87年名古屋画廊で個展。81年アメリカ国際展(ロス)入選。92年安田火災美術財団奨励賞。洋画

東　典男（あずま・のりお/1928～2004 年）
三重県生れ。1952年金沢美術工芸短期大学卒。55年渡米ロスのシュナード美術学校、57～59年NYのアート・ステューデンツ・リーグ美術学校(NY)に学ぶ。60年国際版画ビエンナーレ(シアトル美術館)で受賞、美術館買い上げ。63年アメリカ色彩版画展で第一席。71年アメリカ版画協会理事。74年自身経営の画廊で日本人作家展。アメリカで没、76歳。版画

東谷武美（あずまや・たけみ/1948 年～　）
北海道生れ。1971年東京造形大学絵画科卒。73年東京芸術大学大学院版画科修了。駒井哲郎、中林忠良に師事。75年版画グランプリ賞でグランプリ。78年日本国際美術展でブリジストン美術館賞。マイア

ミ、クラコウ、リュブリアナ、ビエナ国際版画ビエンナーレに出品。版画

畦地梅太郎（あぜち・うめたろう/1902～1999 年）
愛媛県生れ。1920年上京、26年内閣印刷局活版部入局。27年平塚運一を訪ねて指導を受ける。32年日本版画協会会員。44～71年国画会会員。49年日本山岳協会会員。73年愛媛県美術館個展。91年町田市立国際版画美術館個展。山岳風景や山男をモチーフにした“山の版画家”1999年没、96歳。版画 150

畦地拓治（あぜち・たくじ/1948～2000 年）
東京生れ。畦地梅太郎の二男。1970年東京芸術大学美術学部彫刻科卒。73年同大学大学院修士課程修了。75年ジャパン・アート・フェスティバル（東京、上野の森美術館）で通産大臣賞。82年日本国際美術展で栃木県立美術館賞。83年現代日本美術展で佳作賞。85年から1年間、文化庁在外研修員としてニューヨーク州立大学の各員芸術家として滞在。東京で没、52歳。現代美術における写真、版画などを用いた先鋭的な試みを検証しようとする企画展に出品。現代美術、造形、版画、オブ、装幀、挿絵

麻生三郎（あそう・さぶろう/1913～2000 年）
東京生れ。小林万吾主宰の同舟舎、太平洋美術学校に学ぶ。1938年井上長三郎と渡欧し，帰国後に「イタリア紀行」を出版。39年美術文化協会。43年松本竣介らと新人画会を結成。22～39年自由美術家協会会員。59年日本国際美術展で優秀賞。63年芸術選奨。武蔵野美術大学教授。川崎市で没、87歳。洋画、水彩、版画、美教

与 勇輝（あたえ・ゆうき/1937 年～ ）
神奈川県生れ。1963年 日本デザインスクール卒。65年マネキン会社に勤務の傍ら独自に人形創作。68年人形作家・曽山武彦に師事。93年河口湖町立河口湖ミューズ館・与勇輝館開館。2006年パリ・バカラ美術館（英語版）「EXPOSITION ATAE YUKI」で個展を開催。「与勇輝人形芸術の世界」を国内 23 会場にて開催（2008 年まで）。人形、個人美術館

安宅馬雄（あたか・とらお/1902～1989 年）
新潟市生れ。1920年新潟中卒。画家を志して独学。25年帝展に入選。28～31年渡欧、各国の美術を研究。春陽会展、二科展への出品を経て、39年一水会に参加、のち運営委員。日展参与。1989年没、87歳。洋画

安宅安五郎（あたか・やすごろう/1883～1960 年）
新潟市生れ。1910年東京美術学校西洋画科卒。12、13年文展で褒状。19、20年帝展連続特選。21年渡欧。21年帝展無鑑査。28年明治神宮壁画「教育勅語下賜」を制作。40年創元会創立会員。日展会員、出品依嘱者、審査員。56年中国対外文化協会の招きで日本文化代表団として中国に赴いた。1960年没、77歳。洋画

安達貫一（あだち・かんいち/1898～1976 年）
松江市生れ。16 歳で東京にでて内藤伸に木彫を学び、建畠大夢に師事。東京美術学校(現東京芸大)在学中、24年帝展に入選。32、33年帝展特選。38年文展無鑑査、57～72年日展委嘱出品。東京で没、77歳。彫刻

足立源一郎（あだち・げんいちろう/1889～1973 年）
大阪生れ。1905年京都市立美術工芸学校入学。06年関西美術院に学ぶ。07年上京、太平洋画会研究所に学ぶ。14～18年、グラン・ショミエール、アカデミー・ランソンに学ぶ。18年ロンドンで松方コレクションの蒐集に尽力。23～25年再渡欧、22年春陽会創立会員。31年「新興美術協会」を創立。36年日本山岳画協会創立会員。山岳風景画を描く。鎌倉市で没、83歳。洋画、版画、松方コレクションに尽力

足達 襄（あだち・じょう/1911～1999 年）
福岡市生れ。1928年中学修猷館卒。30年帝国美術学校入学。31年独立展入選、連続入選、独立賞、48年会員、福岡独立作家協会結成参加。福岡県美術協会再興、筑紫芸術院結成。県美術協会で同77～84年会長。筑紫芸術院で院長。80年福岡県教育文化功労賞、82年福岡市文化賞。84年勲五等瑞宝章。1999年没、88歳。洋画、美教

足立真一郎（あだち・しんいちろう/1904～1994 年）
栃木県生れ。1933年日本美術学校洋画科卒。30年光風会展入選、32年船岡賞、46年会員、93年名誉会員。31年帝展に入選。60年日本山岳画協会会員。日展会友。ヨーロッパ、インド、ヒマラヤに写生旅行。鎌倉市で没、90歳。93年足利市民功労賞。洋画

安達真太郎（あだち・しんたろう/1906～1988 年）
姫路市生れ、鹿児島市育ち。川端画学校に学ぶ。清水良雄に師事。光風会会員、評議員。文展無鑑査。1954年日本山林美術協会を鶴田吾郎、富田温一郎らと結成。71年兜屋画廊にて個展。1988年歿、82歳。洋画

足立 徹（あだち・とおる/1949 年～ ）
東京生れ。1970～74年 早稲田大學第一法学部卒。78～80年武蔵野美術短期大学美術科（美術教育）専攻卒。松阪市に戻り、学校法人津田学園幼稚園絵画講師。この年、子供のための絵画教室を開く。85年銀座泰星画廊で個展。86年新制作展出品。88年中部新制作展新人賞。洋画、美教

安達東彦（あだち・はるひこ/1935～2010 年）
熊本県生れ。1953年朝倉彫刻塾。54朝年武蔵野美術学校彫刻科。65年文芸春秋画廊個展。69年国際青年美術家展佳作、現代日本美術展入選。70年国際青年美術家展受賞者展出品。73年東亜画廊・そごう・小田急・鶴屋・銀座美術館等毎年個展。2001, 04, 07年熊本日日新聞連載挿絵。07年中日新聞連載挿絵。2010年没、75歳。洋画、挿絵

安達博文（あだち・ひろぶみ/1952 年～ ）
富山県生れ。1977年東京藝術大学油画家卒、79年同大学院修了。79年国画会賞。88年伊藤廉記念賞。91年文化庁派遣芸術家在外研究員（伊）。97年安井賞特別展。99年池田20世紀美術館、2005年駒ケ根高原美術館で個展。国画会会員。富山大学名誉教授。洋画、美教

安谷屋正義（あだにや・まさよし/1921～1967 年）
東京生れ。沖縄県立第二中学校で比嘉景常に学ぶ。1940年東京美術学校図案科入学、43年繰上卒。46年ニシムイにアトリエ。49年沖展に出品。50年五人展を結成。53年春陽展出品、57年春陽会賞。54年琉球大学助教授、61年教授。58年五人展解消し、創斗会結成。1967年没、46歳。洋画、美教

新規矩男（あたらし・きくお/1907～1977 年）
三重県生れ。1929年第一高等学校卒、32年東京帝国大学文学部美学美術史学科卒、東京美術学校講師。34年NYメトロポリタン美術館東洋部助手。37年ヨーロッパ諸国を歴遊、東京美術学校に復帰、38年講師嘱託、46年東京美術学校教授、52年東京芸術大学美術学部教授、65～67年美術学部長、75年名誉教授。69～75年美術史学会代表委員。70年遠山記念館付属美術館館長、75年常勤館長。1977年没、70歳。勲二等フランス政府勲章。美史、美教、美術館長

跡部邦明（あとべ・くにあき/1939 年～ ）
宮城県生れ。1970年安井賞展選抜（西武セゾン美術館）、77～2007年岡本太郎・岡本敏子・池田満寿夫等と岩手県藤沢町野焼の審査。81～84年宮城県美術館建設準備室普及部担当。09年「ミクロコスモス展ー平面からの解放ー」（宮城県美術館）。18年『「レクイエム」ー鎮魂の木版画展』（宮城県美術館）。洋画、版画

跡部高染（あとべ・こうせん/1936 年～ ）
宮城県生れ。1959年福島大学学芸部美術科卒。58年太平洋美術協会会友推挙、日本水彩画展入賞。60年河北美術展で宮城県教育委員会教育長賞。76年行動展入賞、会友、89年会員。96年河北美術展顧問。2016年宮城県文化の日表彰（教育文化功労）。17年宮城県芸術選奨。現在、行動美術協会会員、新現美術協会会員、河北美術展参与、宮城県芸術協会参事。洋画、水彩、美普

跡見玉枝（あとみ・ぎょくし/1859～1943 年）
江戸生れ。跡見花蹊、望月玉泉に学ぶ。1878年京都高等女学校の教師。86年に上京。日本美術協会展に出品、受賞。97年神田に私塾「精華会」を開設。1904年セントルイス万国博覧会で銅賞。アメリカでは焼絵を学び、ボストン美術館では個展開催。内親王御用掛を務め、画帖を献上。1943年没、85歳。日本画、美教、画塾

跡見 泰（あとみ・ゆたか/1884～1953 年）
東京生れ。1903年東京美術学校西洋画科選科卒。黒田清輝に師事。06年白馬会会員。文展で07, 08, 09年三等賞。12年光風会創立会員。22～25年渡欧。32年帝展無鑑査、後、文展無鑑査。日展委嘱。跡見学園理事。浦和市で没、69歳。洋画

穴沢赳夫（あなざわ・たけお/1899～1946 年）
青森県生れ。1925年東京美術学校卒、後、県立弘前中学校に赴任して美術を担当。27年黒滝大休らと「未青社」を結成。同中学校在職中に「甲虫短歌会」を結成。29年同中学校を退職上京、太平洋展に入選。磯谷小学校に勤務。東奥美術展に出品。1946年没、47歳。洋画、美教

穴山義平（あなやま・ぎへい/1890～1971 年）
山梨県生れ。1912年東京美術学校図画師範科卒。松岡映丘に師事。21年師と共に新興大和絵会を結成、31年同会解散後は主に官展を中心に活動。31年33年、帝展で特選。35年国画院に参加、38年川崎小虎・野田九浦ら帝展系の日本画家と日本画院を結成。1971年没、81歳。日本画、版画

穴山勝堂（あなやま・しょうどう/1890～1971 年 ）
山梨県生れ。東京美術学校師範科在学中は黒田清

輝に学び、1917年日本画家の松岡映丘に師事、新興大和絵会を結成。1931年帝展入選、特選、宮内省買上げ。翌年から無鑑査、帝展、日展と官展系展覧会へ出品。38年日本画院を創設。また山梨美術協会の創立に参加。1971年没、81歳。日本画、版画

安仁屋政伊（あにや・まさこれ？/1834～1902 年）
沖縄県生れ。安仁屋里之子、親雲上政行の四男。小波蔵安章(毛文達)に師事し、1875年王府の絵師に登用。79年琉球王国が崩壊、失職。1901年の旧国王・尚安の薨去に際し、長嶺宗恭とともに絵図方をつとめた。孫に安仁屋政栄がいる。1902年没、68歳。洋画

姉崎　巍（あねさき・たかし/1894～1965 年）
福井県生れ。新塊樹社創立会員、大阪支部長、1965年没、70歳。洋画

阿野露団（あの・ろだん/1928～2016 年）
長崎県生れ。1967年武蔵野美術学校卒。75年二紀会同人。77年長崎二紀会結成、代表。86年二紀会会員。2016年没、88歳。洋画

油谷　達（あぶらや・たつ/1886～1969 年）
東京生れ。博文堂、原田庄左衛門の次男。東京美術学校西洋画本科中退。1921年帝展入選。24年田辺至、牧野虎雄、斎藤与里、高間惣七、大久保作次郎らと槐樹社を創立。31年帝展無鑑査。官展一筋に出品。個展は20回開催。東京で没、83歳。洋画

安彦文平（あびこ・ふみひら/1969 年～　）
東京生れ。1992年安宅賞。95年東京藝術大学美術学部油絵科卒。卒業制作大学買い上げ(首席)大橋賞受賞、97年東京藝術大学大学院美術研究科修士課程絵画専攻修了、修了制作作品は大和銀行収蔵、帝京大学収蔵。2002年東京藝術大学美術学部油画科非常勤助手(～'05)。宮城教育大学准教授。洋画、美教

安孫子真人（あびこ・まさと/1912～1941 年）
山形県生れ。1931年上京し、太平洋洋画会研究所に学ぶ。松本竣介らと太平洋近代芸術研究会を作り、機関誌「線」の同人。34年帝展に出品。独立美術協会展に4回入選。36年エコール・ド・東京展に出品。37～39年渡仏。帰国後美術文化協会同人。東京で没、28歳。洋画、壁画

安倍栄作（あべ・えいさく/1899～1983 年）
山形県生れ。山形県立荘内中学校卒、小貫博堂に指導を受けた。東京美術学校図画師範科卒。北海道庁立函館高等女学校教員。山形県立鶴岡高等女学校教員。太平洋美術会、槐樹社、地元鶴岡の美術団体である白甕社に所属。「バラの画家」の異名。1983年没、84歳。洋画、美教

阿部和夫（あべ・かずお/1911～1981 年）
東京生れ。岩井弥一郎に師事。一線美術会常任委員。1981年没、69歳。洋画

阿部ケイ（あべ・けい/1925～1980 年）
東京生れ。ニューヨーク・アート・スチューデンツ・リーグ卒。女流画家協会会員。1980年没、55歳。洋画

阿部晃工（あべ・こうこう/1906～1966 年）
北海道生れ。上京、彫刻家柴田正重に師事、木彫を修得、1935年東京美術学校彫刻科塑造部選科卒、37年研究科を修了。34年帝展入選。文展や大小美術展に 14 回入選。文展、日展其他に 38 回入選。51～61年戦後唯一の彫刻公募団体、創型会の創立に参加。美術家代表団の一員として62年と63年渡欧、65年インド政府招待で、仏像研究、インド、カンボジヤ等 3 週間歴訪。64年社団法人日府会に招かれ常任理事委員、65年日府展で日府賞。東京で没、59歳。彫刻

阿部合成（あべ・ごうせい/1910～1972 年）
青森市生れ。1934年京都市立絵画専門学校卒。日本画を専攻、入江波光に師事。青森野辺中学校で美術を教える。この時期に油彩画に転向、常田健らとグループ「グレル家」を作る。35年上京、38年二科展に入選。43～47年シベリア抑留。帰国後表現主義的な作品制作。59～60年渡米後、渡墨、日墨会館で精力的に制作。メキシコ国立近代美術館の別館で個展を開催。63～64年再渡墨、滞欧。64年太宰治記念碑制作設置。1972年没、61歳。洋画、美教、版画

安部公房（あべ・こうぼう/1924～1993 年）
東京生れ。1948年東大医学部を卒業。高校時代からリルケとハイデッガーに傾倒。著作は海外でも高く評価され、世界 30 数か国で翻訳出版。世紀画集に絵を出品。主要作品は、小説に『壁 －S・カルマ氏の犯罪』(芥川賞)、『砂の女』(読売文学賞)、『他人の顔』『燃えつきた地図』『箱男』『密会』、戯曲に『友達』『榎本武揚』『棒になった男』『幽霊はここにいる』などがある。演劇集団「安部公房スタジオ」を立ちあげて俳優の養成にとりくみ、自身の演出による舞台でも国際的な評価。ノーベル文学賞の有力候補。著、洋画、演劇

阿部金剛（あべ・こんごう/1900～1968 年）
盛岡市生れ。父は阿部浩東京府知事。慶應義塾大学中退。岡田三郎助に師事。1926～27年渡仏。29年二科展に初入選。47年二科会会員。60～67年メキシコ、アメリカに滞在。東京で没、68歳。（出典　わ眼）洋画

阿部金剛　Ⅱ（あべ・こんごう/1900～1968 年）
盛岡市生れ。父は阿部浩東京府知事。慶應義塾大学文学部入学、岡田三郎助に師事、大学を中退。1926～27年渡仏、アカデミー・ジュリアン、アカデミー・ランソンに学び、ビシエールの指導を受ける。29年二科展に初入選。二科展に超現実主義風の作品を発表。47年二科会会員。60～67年メキシコ、アメリカに滞在。東京で没、68歳。父は東京都知事・阿部浩。（出典　わ眼）洋画

阿部貞夫（あべ・さだお/1910～1969 年）
東京生れ。1929年旧制留萌中学校卒。本郷洋画研究所で洋画を学ぶ。35年版画を独学で学ぶ。51年留萌光画会会員。53年釧路へ移住し、版画家関野準一郎の指導を受け製作に没頭する。60年留萌美術協会設立参画。60年『阿部貞夫木版画集』発刊。63年日本版画協会展奨励賞。新世紀美術協会会員。札幌市で没、59歳。版画、水彩

阿部新一（あべ・しんいち/生没年不詳）
1934年まで北海道小樽中学校教員、35年北海道岩見沢高女、40年庁立札幌高等女学校で教える。「札幌植物園」エッチング作品を西田武雄の発行した「エッチング」の第20、22、40、70、75、80、94、107 号（34～41年）に発表。また、大分で発行された版画誌「九州版画」39年）にエッチング「町角」を発表する。日本エッチング作家協会準会員（40年）。日本版画奉公会会員（43年）。美教、版画

阿部慎蔵（あべ・しんぞう/1935年～　）
東京生れ。1958年慶應義塾大学文学部哲学科卒。56年一水会展入選。57年自由美術協会展出品。58～60年パリ留学。73～06年サヌグサ画廊主催個展（17回）、ギャラリーオキュルス、高輪/東京で個展。80年立軌会招待出品、同人。洋画

安部　毅（あべ・つよし/1915～1983 年）
広島県生れ。1939年帝国美術学校本科西洋画科卒。1935年20才の時初めて二科展に初入選以来何度も二科展に入選。1950年小林和作に師事。元自由美術協会会員。元広島県美術展審査員。1983年没、68歳。2003年の6月と11月に「没後 20 年遺作展」福山天満屋で開催、「安倍毅画集」を刊行。洋画

安倍直人（あべ・なおと/1952 年～　）
福島県生れ。喜多方高等学校卒。東京版画研究所で基礎的な銅版画の技法を学び、独学で制作。1992年ノルウェー国際版画トリエンナーレ招待。95年、2004年喜多方市美術館で個展。個展中心に発表。版画

阿部展也・芳文（あべ・のぶや・芳文は本名/1913～1971 年）
新潟県生れ。絵は独学。1932年独立展に入選。38年創紀美術協会創立会員。39年美術文化協会創立に同人。40年満州、蒙古旅行。41フィリッピンで軍報道部所属。52年美術文化協会脱退、無所属。51年サンパウロ・ビエンナーレ展、52年カーネギー国際美術展、53年インド国際美術展、55年ニューヨーク、ブルックリン美術館主催国際水彩画展に出品。53年のインド国際展には日本美術家連盟代表として渡印。59年以降ローマに定住。国際造型芸術連盟執行委員。60年グッゲンハイム賞、リュブリアナ国際版画ビエンナーレ展国際審査員。初期の超現実主義から晩年は抽象主義的作風。ローマ市で没、58歳。洋画、水彩、写真

阿部豪一（あべ・ひでかず/1941 年～　）
山形県生れ。渋谷区立上原中学校卒。神奈川県大和市在住。板のパネルに金属質の被膜、銀紙等を張り、エッチングナイフで削って下絵を描いた後、油絵の具で仕上げるオイルエッチング画の発案者。オイルエッチング画「なかよし」シリーズ。1967年米国シアーズ・ロバックが作品買い上げ。83年渋谷、NHK放送センターで個展。91年晴海・東京国際見本市会場、東京インターナショナルアートショー（TIAS）で個展。松本、IAC 美術展で郵政大臣賞。2005年大和市に「ギャラリーあべ」開設。大阪ポテトチップス大賞。洋画、現代美術、版画、ギャラリー

阿部平臣（あべ・ひらおみ/1920～2006 年）
福岡県生れ。鞍手中学校卒業後、1944年東京美術学校油絵科卒。春陽会、自由美術協会展出品。59年行動美術展新人賞、M氏賞、行動美術賞、以降行動展に出品。70年代以後30年続くライフワーク「中近東シリーズ」制作。美術教師、福岡県の美術振興に尽力した功績は大きい。2006年没、86歳。洋画、美教

阿部広司（あべ・ひろじ/1910～1992 年）
福島県生れ。1934年東京府青山師範学校を経て、34年東京高等師範学校図画手工専修科卒。石川寅

治に師事。東京女子高等師範学校で教鞭を執る。日本女子体育短期大学教授。48年より連続して日展入選。49年日本水彩画会会員のち理事。50年示現会会員のち理事。東京で没、81歳。水彩、美教

阿部正基（あべ・まさき/1912～1978 年）
仙台市生れ。旧制中学卒業後商工省工芸指導所に学ぶ。斎藤素巌に師事、構造社研究所に学ぶ。構造社展に出品。1943年文展入選。54、56年日展で特選。55年無鑑査出品、60年日展会員、61年日展審査員。東京で没、66歳。彫刻

阿部幸洋（あべ・ゆきひろ/1951 年 ～ ）
いわき市生れ。1967年寛永寺坂美術研究所に学ぶ。80年スペイン住居、油彩画制作。86年銅版画開始。92年 77 ギャラリー（銀座）、2001年日動画廊（銀座）02年日本橋三越本店（日本橋）、13年上野の森美術館ギャラリー（上野/SHO ART）ギャラリーいわき（いわき市）で個展。14年ギャルリー東京ユマニテ「版のしごと vol.3」、アントニオ・ロペス・トーレス美術館（トメジョーソ/スペイン）、15年永井画廊（永井龍之介）（銀座/日本）、Bunkamura Gallery（渋谷/日本）で個展。日本美術家連盟会員。版画

天岡均一（あまおか・きんいち/1875～1924 年）
兵庫県生れ。東京美術学校卒。高村光雲に師事。1903年内国勧業博覧会で「漆灰製豊公乗馬像」が 3 等賞。大阪難波橋の「ライオン像」を制作。1924年没、50歳。彫刻

雨田光平・禎之（あまだ・こうへい/1893～1985 年）
福井県生れ。東京美術学校卒。米と仏で 10 年間ハープを修業し、マルセル・トゥルニエに師事。彫刻家としても国際的に活躍し、「日本のロダン」と呼ばれた。構造社展に出品。日本ハープ協会顧問。箏曲京極流 2 代目宗家。絵画、詩、書、陶芸など幅広い分野で藝術活動をおこなった。1959年中日文化賞。68年勲五等双光旭日章。1985年没、92歳。2001年には、福井県雨田光平記念館開館。彫刻、洋画、個人美術館

尼谷　良（あまたに・りょう？/1906～1974 年）
山形県生れ。本郷洋画研究所で洋画修了。関西美術院洋画科に学ぶ。太平洋画会大阪支部長、太平洋美術会委員。1974年没、67歳。洋画

天野邦弘（あまの・くにひろ/1929 年～ ）
弘前市生れ。1947年県立青森工業学校卒。62年シェル美術展・K賞。68年ピストイア国際版画ビエンナーレ（イタリア）・一等賞。69年ザイロン国際木版画展（スイス）・一等賞。70年チェコ国際版画ビエンナーレ展・グランプリ。フレンヘン国際版画ビエンナーレ（西ドイツ）・三等賞。76年フレンヘン国際版画ビエンナーレ・一等賞。78年リストウェル国際版画ビエンナーレ（アイルランド）・一等賞。89年ノルウェー国際版画トリエンナーレ・金メダル賞。92年愛知県立芸術大学教授。版画、美教 200

天野純治（あまの・じゅんじ/1949 年～ ）
鳥取県生れ。1977年多摩美術大学大学院美術研究科修了。77年ワールドプリントコンペティション・優秀賞（80年最高賞）、77年日本版画協会展・版画協会賞。84年プレミオ国際版画ビエンナーレ招待出品（イタリア）。95年文化庁在外派遣研修員として渡米、ニューヨーク及びフィラデルフィアで制作活動を行う。97年現代日本美術展・和歌山県立近代美術館賞（98年東京都現代美術館賞）。2015年山口源大賞。版画

天野三郎（あまの・さぶろう/1919～2006 年）
山梨県生れ。1942年日本大学芸術学部卒。岡田謙三、海老原喜之助に師事。50年二科展入選し、以降毎回出品、62年金賞、69年会員努力賞。70年サロン・ドートンヌ招待出品。87年総理大臣賞。2006年没、87歳。洋画

天野裕夫（あまの・ひろお/1954 年～ ）
岐阜県生れ。1978年多摩美術大学大学院彫刻科修了。79年美術文化展でプールヴー賞。84年高村光太郎大賞展で彫刻の森美術館賞。全国に野外彫刻の大作などを設置。86年ロダン大賞展で美ヶ原高原美術館賞。96年神戸具象彫刻大賞展で準大賞、神戸市民賞、日本現代陶彫展'96 で金賞受賞。97年女子美術大学工芸科非常勤講師。2005年多摩美術大学工芸学科客員教授。彫刻

尼谷義雄（あまや・よしお/1941 年～ ）
山形県生れ。叔母・岩崎政子は洋画家。ミラノ工科大学に留学、同大学教授で世界的建築家、マルチ・デザイナーに師事。ミラノのブレラ美術学院（BRERA ACCADEMIA）でフレスコ画、板絵、銅版画、彫刻、イタリア美術を学ぶ。「ベニス国際美術展」特賞。イタリア美術大賞。ヨーロッパ主要都市の画廊と美術館で個展30回。現在、イタリア国立ブレラ美術学士院会員。チューリッヒ美術工芸デザイン大学客員教授。1970年 ICD 現代デザイン研究所を創立。イタリア国際デザイン賞、ベルリンデザインセンター賞を受賞。2005

年大阪にコレクションを常設する画廊「ギャルリー・アマヤ」を開設。洋画、彫刻、版画、美教、画廊

網谷義郎（あみたに・よしろう/1923～1982 年）
兵庫県生れ。1948年京都大学法学部卒。在学中、新制作派協会会員桑田道夫に絵を学ぶ。48年関西新制作展で受賞。55年新制作展で新作家賞。59年新制作協会賞。60年新制作協会会員。大阪フォルム画廊、大阪梅田画廊等で個展。68年渡伊、71、76年渡仏、渡欧。79年水彩画集刊行。神戸市で没、58歳。（出典　わ眼）洋画、水彩

雨田　正（あめだ・ただし/1914～1995 年）
宮崎市生れ。1939年聖戦美術展入選。37年東京美術学校入学、召集、中退。44～47年宮崎第二高等女学校、宮崎工業学校美術教壇。県立大淀高校、県立宮崎大宮高校79年まで教壇に立つ。60～79年県高等学校野球連盟理事長。退職後、宮崎市内のカルチャーセンターで水彩画の指導。宮崎市で没、80歳。洋画、水彩、美教

雨宮　淳（あめのみや・あつし/1937～2010 年）
東京生れ。雨宮治郎の子、1961年日本大学芸術学部を卒業。加藤顕清に彫刻理論を学ぶ、父雨宮治郎に師事。63年日展入選。63年日彫展入選。64年日彫展で奨励賞、日本彫塑会会員。65年日彫展で努力賞。66、67年新日展で特選。74年社団法人日展会員。83年東京野外現代彫刻展で大衆賞。84年日彫展西望賞。91年日展内閣総理大臣賞。97年日展に出品作し、日本芸術院賞。2001年日本芸術院会員。85～2003年宝仙学園短大教授。02～05年日本彫刻会理事長。東京で没、72歳。彫刻、美教

雨宮敬子（あめのみや・けいこ/1931～2019 年）
東京生れ。父は彫塑家の雨宮治郎。日本大学卒。1956年日展入選（以後、連続入選）。58年特選。72年新樹会展招待出品（～'77）。78年日展の年評議員。80年現代女流美術展出品（以後連続出品）。82年長野市野外彫刻賞。83年中原悌二郎賞優秀賞。85年日展作品で内閣総理大臣賞。90年芸術院賞。942 年日本芸術院会員。日展常務理事。2019年没、88歳。彫刻

雨宮治郎（あめのみや・じろう/1889～1970 年）
水戸市生れ。1920年東京美術学校彫刻科本科卒。23年同校研究科卒。18年文展に入選。23年帝展特選、29年帝展、30年帝展特選。31年以降帝展、文展、日展、審査員。57年日展作で日本芸術院賞。64年日本芸術院会員。51～56年東京学芸大学教授。66年日本彫塑会々長、日展顧問。東京で没、80歳。彫刻、美教

荒井勝子（あらい・かつこ/1910？～1990 年）
宮城県生れ。女子美術学校卒。女流画家協会会員。独立美術協会会友。1990年没、80歳。洋画

荒井寛方（あらい・かんぽう/1878～1945 年）
栃木県生。本名寛十郎。水野年方に入門。文展・再興美術院に活躍、巽画会・紅児会に参加。1916年タゴールに招かれてインドに渡り、アジャンタ壁画を模写、帰国後は仏教に多く画題を得た作品を発表。当麻寺天井画・竹生島弁天壁画の制作や法隆寺金堂壁画の模写事業にも参加した。院展同人。1945年没、67歳。日本画、版画、浮世絵

新井喜惣次（あらい・きそじ/1893～1988 年）
栃木県生れ。1916年東京府豊島師範学校卒、1933年東京美術学校彫刻科本科卒、36年同研究科を修了。朝倉文夫に師事し、朝倉塾展に出品。34年帝展入選。37年第 8 回国際美術教育会議に日本側委員として出席、渡仏。パリで彫刻を研究し、欧米を巡遊して38年帰国。戦前は構造社展にも出品。46年より日展に出品。49年より東京学芸大学助教授、51～56年同教授。その後も昭和学院短期大学教授、東京成徳短期大学教授を歴任し、79年東京成徳短大名誉教授。東京で没、96歳。彫刻、美教

新井謹也（あらい・きんや/1884～1966 年）
三重県生れ。津中学で鹿子木孟郎に画の手ほどき受ける。1903年聖護院洋画研究所に学ぶ。10年「黒猫会」翌年の「仮面展」の美術運動に参加。18年神戸関西学院で教える。20年以降は作陶。26年商工務省美術展で3等賞。29、30年帝展入選。35年実在工芸美術協会を結成。66年没、81歳。洋画、水彩、陶芸、美教

新井謹也　Ⅱ（あらい・きんや/1884～1966 年）
三重県鳥羽市生れ。津市の中学時代に鹿子木孟郎の指導を受ける。1903 年聖護院洋画研究所で浅井忠に学ぶ。08 年関西美術院で浅井、鹿子木に師事。10 年「黒猫会」の美術運動に参加。11 年「仮面会」美術運動に参加。20 年中国、朝鮮を旅行し、陶磁器を研究に着手。帰国後は陶芸作家の道に進む。26 年第 13 回商公務省美術展で三等賞。第 1 回聖徳太子奉賛展に入賞。29 年第 10 回帝展に出品。30 年パリの日本美術展覧会に出品。第 11 回帝展に出品。35 年実在工芸美術協会を結成。54 年第 3 回現代日本陶

芸展に招待出品。66 年没、享年 81 年。(佐) 洋画、水彩、陶芸、美教

荒井邦朝 (あらい・くにとも/1899～没年不詳)
群馬県生れ。葵橋洋画研究所に学ぶ。1942年新文展に入選。49年から日展で入選重ねる。51年光風会会員。洋画

荒井恵子 (あらい・けいこ/1963 年～)
東京生れ。1998年フィリップモリスアートアワード最終審査展(東京国際フォーラム)。2006年個展 東京アメリカンクラブ。06年墨画トリエンナーレ富山・富山水墨美術館 奨励賞(富山) 。12年福井市美術館(福井)。13年曹洞禅宗 宝成寺 襖絵奉納(千葉県)、個展ギャラリーLee(パリ)(2014 年共に)。日本画、墨画

荒井秀宣 (あらい・しゅうせん/1912～1994 年)
大阪生れ。1933年川端画学校修了。二科展入選。48年行動美術研究賞。57年行動美術協会会員。61年渡欧、63年サロン・ナショナル・デ・ボザール展出品。大阪府美術協会委員。1994年没、81歳。洋画

荒井篁一郎 (あらい・こういちろう/1899～1934 年)
鶴岡市生れ。1923年東京美術学校日本画科卒。自宅に舜水画房を開設。師小貫博堂を支えながら教育絵画展覧会の発展、普及に貢献。1934年没、35歳。日本画、美教、美普、画塾

新井淳一 (あらい・じゅんいち/1932～2017 年)
群馬県生れ。1960年化学繊維グランドフェアで通商産業大臣賞。83年毎日ファッション大賞特別賞。84年テキスタイルショップ「NUNO(布)」を開店。87年英国王室芸術協会よりオノラリー・ロイヤル・デザイナーズ・フォー・インダストリー(Hon. R.D.I.)の称号を授与。2003年ロンドン・インスティテュート(現・ロンドン芸術大学)名誉博士号。05年個展「新井淳一 進化する布」、群馬県立近代美術館、2009年個展「Innovative Cloths—Junichi Arai」、香港理工大学美術館。個展「新井淳一の布—50 年の軌跡」、清華大学美術学院、北京。11年英国王立芸術大学院(Royal College of Art)より名誉博士号。2017年没、85歳。テキスタイルデザイナー

荒井治郎 (あらい・じろう/1915？～1986 年)
東京生れ。真美会主宰。鎌倉美術協会会員。1986年没、71歳。洋画

荒井 孝 (あらい・たかし/1938 年～)
宇都宮市生れ。1966年東京芸術大学日本画科卒業。68年日本美術院院友。69年東京芸術大学大学院修了。平山郁夫に師事。76年再興院展奨励賞。栃木県文化奨励賞受賞。88年日本美術院特待。98年足利市民文化賞。2002年再興院展奨励賞。紺綬褒章授与。09年文星芸術大学日本画科常勤教授。10年栃木県文化功労者。日本画、美教

荒井龍男 (あらい・たつお/1904～1955 年)
大分県生れ。1924年太平洋画会研究所。34～36年渡仏。ザッキンに学ぶ。37年自由美術家協会会員。50年モダンアート協会創立会員。NY リバーサイド美術館、サンパウロ近代美術館、ブリヂストン美術館で個展。55年没、51歳。(出典 わ眼)洋画

新井 完 (あらい・たもつ/1885～1964 年)
姫路市生れ。1910年東京美術学校西洋画科卒。11年文展入選。19、22年帝展で特選。のち帝展委員、審査員。45年京都美術専門学校教授。61年兵庫県文化賞。兵庫県で没、79歳。洋画、美教

荒井映延 (あらい・てるのぶ/1929 年～)
東京生れ。1951年東京美術学校油絵科卒、68～90年渡仏、滞在。サロン・アーティスト・フランセーズ出品受賞。サロン・ナショナル・アートプラスティック展出品受賞。90年帰国伊豆修善寺にアトリエを移し、制作。日本橋高島屋、日動画廊で個展。洋画

荒井時厚 (あらい・ときあつ/1902～1978 年)
埼玉県生れ。太平洋画会研究所に学ぶ。相馬其一に師事。新構造社運営委員。1978年没、75歳。洋画

荒井雅美 (あらい・まさみ/1979 年～)
東京生れ。2003年多摩美術大学彫刻学科卒。03～06年北九州門司港アート村で制作。05年銀座 77 ギャラリー個展。06年東京オペラシティアートギャラリー「収蔵品展 021/素材と表現」展。11年トルコで招待野外作品制作・ディルメンデレ国際木彫シンポジューウム参加。彫刻

新井光子 (あらい・みつこ/1908～1988 年)八島光(やしま・みつ)
1908年生れ。神戸女学院卒、1929年上京文化学院美術部卒。女子聖学院付属の中里幼稚園の教諭。「新井光子」として日本プロレタリア美術同盟に加入、プロレタリア美術展では29年第2回より最後の第5回まで、毎回、油絵やポスターを出展。最後の出品、「怒り」は高く評価された。当時、女子美術専門学校の二年だった丸木俊は「力つよいタッチですごい女流画家がいると驚いた」という。1988年没、80歳。洋画、

新井芳宗・二代 (あらい・よしむね/1863～1941年)
初代歌川芳宗の末子。13歳で月岡芳年に入門。15歳で西南戦争錦絵を手掛けた。明治錦絵類、小説挿絵、口絵も描く一方、縮緬本の版元として知られる

長谷川(西宮与作)より、夜景や美人などを描いて、外国人向け木版画の制作にもかかわったと思われるが、詳細は不明。1941年で没、79歳。錦絵、挿絵、木版

新井狼子（あらい・ろうし/1920～2005 年）
埼玉県生れ。1949年より抽象絵画に関心を持ち表現活動に入る。52年前衛書道開始。61年書のグループ蒼狼社参加。岡部蒼風・中村忠二に師事。∞会を結成、80年退会。2005年没、85歳。書(前衛)

荒井陸男（あらい・ろくお/1885～1972 年）
東京生れ。1909年渡英、シッカート美術学校に学ぶ。11年同地の新聞雑誌に挿絵を寄稿。14年第一次大戦中は海軍従軍画家として記録画を制作。23年帰国。28年聖徳記念絵画館の『日露役旅順開城』制作。東京で没、86歳。父は海軍創立者・荒井郁之助。(出典　わ眼)洋画、挿絵

荒川　医（あらかわ・えい/1977 年～）
福島県生れ。1998年に渡米、スクール・オブ・ヴィジュアル・アーツ卒、NYを拠点に活動。パフォーマンス・アートを中心に活動を展開する。作品に日本美術史の文脈を持ち込むアイデアや、パフォーマンスとオブジェ制作。「具体美術協会」メンバーの人間関係について語ったインタビューの文章を音声化し、その音声をバックミュージックに、実際の具体の絵画作品が車輪に載って踊る作品。現代美術、パフォー、オブジェ、具体関連

荒川修作（あらかわ・しゅうさく/1936～2010 年）
名古屋市生れ。武蔵野美術学校中退。1961年渡米、NYに定住。70年ヴェネツィア・ビエンナーレで「意味のメカニズム」を発表。86年フランス文芸シュヴァリエ勲章。97年グッケンハイム美術館で個展(日本人初)。2003年紫綬褒章。NYで没、73歳。洋画、版画、立体

荒木市三（あらき・いちぞう/1913～1990 年）
松阪市生れ。1930年三重県立松阪商業学校卒。上京して同郷の洋画家で学校の先輩でもある中谷泰の紹介で31年春陽会洋画研究所に学ぶ。33年川端画学校に学ぶ。47年春陽会展に入選、以後毎年春陽会に出品、54年同会会員。鎌倉市で没、77歳。洋画

荒木十畝（あらき・じっぽ/1872～1944 年）
長崎県生れ。1892年上京、荒木寛畝に入門。荒木家は江戸時代以来、南北合派を基とした花鳥画の名流。日本美術協会展で受賞、95年会員。97年日本画会を創立、主任幹事。1905年荒木寛畝門下の画塾を読画会として組織、副会長。08年文展審査員となり、官展では旧派の中心的存在。37年帝国芸術院会員。1944年没、72歳。日本画、版画

荒木淳一（あらき・じゅんいち/1955 年～　）
千葉市生れ。1979年愛知大学文学部フランス文学科卒、ソルボンヌ大学文化学科に留学。89～94年年示現会展に出品、大内田茂士に師事、91年会友、同人。小田急、三越、大丸、ギャラりーで個展。イタリア、スペイン、ポルトガルの風景を描いた。2013年ローマン派美術協会展にて特選、会員。15年白亜会展に出品し同人。16年会員に推挙。洋画

荒木如元（あらき・じょげん/1765～1824 年）
長崎県生れ？唐絵目利の荒木元融に絵を学び、養子となって元融の跡を継いだが、短期間で辞職し再び一瀬氏に戻った。洋風画は、その表現から長崎系洋風画の先駆者・若杉五十八に洋画法を学んだと推察。長崎系の中で西洋画に近い作品を残す。江戸時代末期の長崎派画家。若杉五十八とともに長崎二大洋画家。1824年没、60歳。江戸時代の絵師、長崎派、ガラス

荒木珠奈（あらき・たまな/1970 年～　）
東京生れ。1992年武蔵野美術大学短期大学部美術科専攻科修了、メキシコ留学。UNAM 自治州立大学美術科にて、外国人聴講生として油画、銅版画を学ぶ。97年武蔵野美術大学油絵学科版画コース卒業、個展(「a's」gallery art soko cellar・渋谷、98年も、ギャラリィK・銀座)。2000年個展(フォーラム・エキジビション・スペース・有楽町、Za Gallery・京都、G.H ギャラリー・東北沢、ギャラリー花影抄・根津)。版画

荒木哲夫（あらき・てつお/1937～1984 年）
東京生れ。1962年武蔵野美術大学本科西洋画科卒。65年渡仏、フリードランデル工房に入る、アカデミー・グラン・ショミエール、パリ市立素描講座クロッキー室に学ぶ、67年パリ、68年ブリュッセルで個展。70年帰国。東京芸術大学材料研究所で駒井哲郎に学ぶ。77年日本版画協会展に出品、同会会員。銅版画を中心に多様な技法を駆使して心象風景を描いた版画家。東京で没、46歳。版画

荒木良清（あらき・よしきよ/1916～1992 年）
東京生れ。早稲田大学卒。樋口加六、倉田三郎に師事。三軌会評議員。1992年没、76歳。洋画

荒木由三（あらき・よしぞう/1914～1998 年）
京都市生れ。1947年中之島洋画研究所にて学ぶ。47年行動展に入選。50年行動展で受賞、会友。64年行動美術協会会員。60～61年渡欧。80年大阪府民ギャラリーで個展。82年京都朝日ギャラリーで自選展。98年没、84歳。洋画

嵐 知重（あらし・ともしげ/1906～1989年）
甲府市生れ。1927年東京美術研究学院洋画科卒。官、野展入選12回、受賞3回。52～56年渡米。中曽根首相、国会議員の肖像画制作。吹上御所に黎明の富士“晨朝”(50号)を奉掲。台湾の蒋介石総統の肖像画を制作、総統府に掲額。ローマ法王庁に「壮容富士」を掲額。ブラジルコメンダドール・オフィシャル賞（文化勲章）。日伯美術連盟理事、創立会員。肖像画が得意。美術工芸作品も制作。紺綬褒章、勲五等旭日章。1989年没、82歳。洋画、肖像

荒谷直之助（あらたに・なおのすけ/1902～1994年）
富山市生れ。1918年上京、赤城泰舒に水彩画を学ぶ。20年葵橋洋画研究所に入り、黒田清輝に師事。36年日本水彩画会展第一賞。36年新文展に入選。40年昭和洋画奨励賞。40年春日部たすく、小堀進らと水彩連盟を結成。39年一水会展に出品。46年一水会会員、のち常任委員。日展評議員、参与。1994年没、91歳。水彩

荒巻大祐（あらまき・たいすけ/1930年～ ）
福岡市生れ。1953年福岡学芸大学卒。中学校の美術教師。新制作協会展出品。60年創画会出品、会友。大学在学中から県展に出品し、卒業の翌年には県美術協会会員。日本画部会委員長。雑草の群生を大画面に緻密に描き出し、創画会に連続出品した「雑草曼陀羅」シリーズが代表作。洋画、美教、日本画

有岡一郎（ありおか・いちろう/1900～1966年）
京都市生れ。1917年本郷洋画研究所で岡田三郎助に師事。19～28年帝展連続入選。34年帝展で特選、黒田奨励賞。35年帝展改組の際に結成の第2部会展で文化賞、春台美術展創立参加。新文展委審査員、49年日展依嘱出品。50年立軌会会員、出品。神奈川県で没、65歳。洋画

有賀祥隆（ありが・よしたか/1940 年～ ）
岐阜県生れ。1963年東北大学文学部東洋芸術史科卒、助手。67年文化財保護委員会事務局美術工芸課文部技官、79年奈良国立博物館学芸課普及室長、82年同仏教美術資料研究センター資料管理研究室長、87年文化庁文化財保護部美術工芸課文化財調査官、89年同主任文化財調査官、90年東北大学文学部教授、2004年定年退官、名誉教授。東京芸術大学客員教授。99～01年美術史学会代表委員。仏教美史、美教

有島生馬（ありしま・いくま/1882～1974 年）
横浜市生れ。1904年東京外国語学校イタリア語科卒。05～10年渡欧、ローマでアカデミー・ド・フランスに入学。国立ローマ美術学校に移る。07年パリでグラン・ショミエールに学ぶ。10年白樺社主催有島生馬、南薫造二人展。「白樺」同人で西洋美術、特にセザンヌを紹介。15年二科会創立会員。35年帝国美術院会員、37年帝国芸術院会員。36年一水会創立会員。56年神奈川県立近代美術館で回顧展。58年日展常務理事。日本ペンクラブ副会長。64年文化功労者。鎌倉市で没、91歳。洋画、版画

有島生馬 Ⅱ（ありしま・いくま/1882～1974 年）
横浜市生れ。本名壬生馬。95 年学習院初等科に転入学。1900 年助膜炎のため鹿児島に転地療養。04 年東京外国語学校イタリア語科卒業。05 年イタリア留学。10 年帰国。11 月白樺主催洋画展に出品。13 年文展に出品。14 年第 1 回二科展に出品。以後 2～9 回、12～21 回まで出品。35 年二科会脱退。36 年一水会を創立。37 年芸術院会員。38 年ハワイ旅行。41 年白樺叢書「有島生馬画集」出版。45 年長野県に疎開。46 年第一回日展に出品。58 年日展理事となる。64 年文化功労者。渡欧。74 年勲二等瑞宝章。9 月 15 日没、享年 91 歳。(佐)洋画

有島武郎（ありしま・たけお/1878～1923 年）
東京生れ。札幌農学校（現北海道大学）に学び、米留学後は英語講師として母校に赴任。美術部「黒百合会」を創設し、西洋美術の新思潮を伝えた。また、漁師で画家の木田金次郎との出会いから、小説『生まれ出づる悩み』を書いた。美術評論もいくつか書いており、北海道の美術史に欠かせない人物である。1923年没、45歳。著、美評

在田 稠（ありた・しげし/1887～1942年）
宮城県生れ。白馬会本郷研究所を経て、東京美術学校に学ぶ。風刺漫画雑誌『東京パック』の編集。1923年同誌刊行中絶、十数年勤務していた時事新報を辞し、23年大阪丸善にて個展を開催。北沢楽天主宰の『時事漫画』で活躍。28年『東京パック』再刊にあたり、主宰者の一人として復帰。柳瀬正夢を中心に発足した「日本漫画家連盟」にも名を連ねる。版画は新作小唄『旅は遥かよ』木版装丁（山野楽器店 1919）。

1942年没、55歳。漫画、表紙絵、装幀、版画

有田四郎（ありた・しろう/1885～1946 年）
東京生れ。1909年東京美術学校洋画科卒。黒田清輝に師事。12年赤坂離の壁画制作。17年和田英作らと横浜市開港記念会館壁画制作。文展6回入選。27年旧制県立延岡中学校美術教師。35年宮崎県師範学校美術教師。42年エッチングを手掛ける。44年淡彩描く。1946年没、61歳。洋画、美教、壁画、版画

有地好登（ありち・よしと/1949 年～ ）
広島県生れ。1972年日本大学芸術学部美術学科卒。76年 Bradford College of Art & Design 留学(英)～仏。79年サンシャイン版画グランプリ・銅版画部門優秀賞。83年カボ・フリロ国際版画ビエンナーレ・審査員特別賞。84年イギリス国際版画ビエンナーレ・買上賞。86年文化庁芸術家在外研修員(スミスカレッジ・アメリカ)。2002年ミッシェル・シリー国際版画賞展・審査委員賞(フランス)。07年プレミオ・アックイ国際版画ビエンナーレ・審査員特別賞(イタリア)。版画

有馬さとえ（ありま・さとえ/1893～1978 年）
鹿児島市生れ。1911年本郷洋画研究所で岡田三郎助に師事、油画学ぶ。18年「朱葉会」の創立に参加、会員。26、28年帝展で特選。帝展無鑑査。46年光風会会員。51年鹿島雨女の資金援助でアトリエ新築。58年日展会員、62年日展評議員、70年参与。東京で没。84歳。洋画 250

有馬さとえ Ⅱ（ありま・さとえ/1893～1978 年）
鹿児島市生れ。1911 年上京し、岡田三郎助に師事。14 年第 8 回文展に初入選。以後 12 回展まで出品。16 年光風会展に出品。20 年第 2 回帝展に出品。26 年第 7 回帝展で洋画部門女性初の特選。27 年洋画部門女性初の帝展無鑑査。28 年第 9 回帝展で特選。46 年光風会員。54 年日展審査員。78 年 2 月 25 日没、享年 84 歳。(佐)洋画

有松 保（ありまつ・たもつ/1906～2002 年）
福岡県生れ。福岡県みやこ町にあるみやこ町歴史民俗博物館はみやこ町勝山松田出身の彫刻家・有松 保氏(1906～2002)の彫刻作品を展示するミニ企画展です。仏像や動物など木造彫刻作品45点が展示。2002年没、96歳。彫刻

有道佐一（ありみち・さいち/1896～1983 年）
京都府生れ。1915年洋画家を目指し鹿子木孟郎に師事。27年鹿子木画塾の書生。31年アカデミー鹿子木研究所の教授。35～38年渡欧。サロン・チュイルリーの会員。40年有道佐一作品展覧会を日本工業倶楽部で開催。79年東京セントラル美術館で回顧展。83年没、87歳。洋画、美教

有元利夫（ありもと・としお/1946～1985 年）
岡山県生れ。都立駒込高等学校卒。中林忠良の指導受る。1948年東京芸術大学美術学部デザイン科卒。46年渡欧、イタリアでフレスコ画に出会う。みゆき画廊、大坂フォルム画廊東京店、彌生画廊で個展。76年東京芸術大学非常勤講師。78年安井賞展で特別賞、81年安井賞。83年美術文化振興協会賞。東京で没、38歳。洋画、フレスコ、版画

有元容子（ありもと・ようこ/1948 年～ ）
愛媛県生れ。1971年東京藝術大学日本画卒。72年有元利夫と結婚。77年創画展(一80、78・79・春季展賞)。94年両洋の眼展(一09、98・河北倫明賞)。99年菅楯彦大賞展佳作賞受賞(倉吉博物館)。2004年個展(天満屋岡山店)。無所属。実践女子大学教授。日本画、美教

有村真鐵（ありむら・しんてつ/1929 年～ ）
長崎県生れ。1950年桐生工業専門学校卒。春陽会群馬研究会に参加し、南城一夫や横堀角次郎の指導を受けた。オノサト・トシノブと晩年まで交流。51年自由美術家協会展に出品。85年自由美術展で平和賞。86年県展で山崎記念特別賞、2003年県展を運営する県美術会会長。洋画

粟津 潔（あわづ・きよし/1929～2009 年）
東京生れ。1945年法政大学産業経営学科専門部入学、退学。55年日宣美展日宣美賞。日活に宣伝部嘱託として入社。56年日宣美会員。58年世界フィルム・ポスター・コンテスト最優秀賞。59年世界デザイン会議のグラフィックデザイン代表委員。60年世界デザイン会議企画委員。64粟津デザイン研究室設立。武蔵野美術大学造形学部産業デザイン科助教授。67年大阪万国博覧会「エキスポランド」基本構想設計。70年ワルシャワ国際ポスタービエンナーレで銀賞・特別賞。80年映画「夜叉ヶ池」の美術で日本アカデミー賞。90年紫綬褒章。2007年作品や資料を金沢21世紀美術館寄贈。個展(金沢 21 世紀美術館)。2009年没、80歳。デザイナー、版画、デザイン研究所

粟津慈朗（あわづ・じろう/1923～1989 年）
札幌市生れ。1930年京都市山内春静堂美術店に入る。31年同店東京店に移り、40年独立。66年株式

会社粟津画廊として組織改革を行ないその社長となった。戦後間もない時期から現代日本画を中心に作家に活動の場を提供しその振興に寄与した。東京で没、76歳。粟津画廊社長

粟屋　充（あわや・みつる/1931 年～　）
東京生れ。北園高校、東京芸大美術学部卒。元文芸春秋デザイン室長。日本文芸家協会会員。朝日広告賞、装丁造本コンクール、全国カレンダー展、日本作家クラブ賞。文芸書の装丁数百点。料理の腕もプロ級。銀座、ギャラリー・ロイヤルサロンギンザ、松坂屋、三越などで日本画、水彩画による個展を十二回開催、画家、随筆家。デザイナー、日本画、水彩、装丁

安西啓明（あんざい・けいめい/1920～1999 年）
東京生れ。1920年広瀬東畝に師事、21年川端龍子に入門。29年龍子が青龍社を結成、参加。36年 Y 氏賞、39年奨励賞、40年蒼穹賞。30年青龍社社子、翌年社友、42年社人。龍子の画塾御形塾の塾頭。48年より全国の建築をテーマにした連作を青龍展に発表、60年から連作「東京シリーズ」に着手する。新関連載小説の挿絵を描く。57年以後毎年個展を開き、61年には自ら主宰する青明会の第一回展を開催。日本美術家連盟理事。東京で没、79歳。日本画、挿絵

安斎重男（あんざい・しげお/1939～2020 年）
神奈川県生れ。1960年代、独学で美術の世界に入り、現代美術作家として出発。70年「東京ビエンナーレ」でリチャード・セラやダニエル・ビュレンらの助手兼記録カメラマンを務めた。美術の現場やその場限りの身体行為の撮影を始めた。ヨーゼフ・ボイスやイサム・ノグチなど多くの芸術家の肖像、作品として残らない パフォーマンスや ハプニング、会期中しか見られないインスタレーションや、イサム・ノグチを撮影したシリーズは著名。多摩美大客員教授。2020年没、81歳。2000年国立国際美術館で個展。写真、現代美術、美教

安西水丸（あんざい・みずまる/1942～2014 年）
東京生れ。1965年日本大学芸術学部美術学科グラフィックデザイン卒。電通へ入社、国際広告制作室で輸出広告担当。69年同社を退社渡米、NYの ADアソシエイツ(デザインスタジオ)で働く。71年帰国、平凡社でアートディレクター。74年漫画雑誌『ガロ』に漫画を描く。80年に平凡社を退社、81年安西水丸事務所を設立、フリーのイラストレーター、85年準朝日広告賞、毎日広告賞。2005年に東京イラストレーターズ・ソサエティの理事長。2014年没、72歳。アートディレクター、イラスト、漫画、エッセイ、絵本、美教

安藤菊男（あんどう・きくお/1915～1990 年）
名古屋市生れ。1935年二科展入選、42年受賞、二科会会友。戦後、MC 彫塑家集団結成に参加。47年中部二科会結成に加わり、47年二科展で受賞し、二科会会員。50年 MC 彫塑家集団を脱退。また、50年「詩聖ヨネ・野口顕彰碑」を完成した。愛知県で没、74歳。彫刻

安藤邦衛（あんどう・くにえ/1889～1971 年）
岐阜県生れ。土岐郡立陶器学校卒。1907年渡米。パシフィック大学、カリフォルニア州立大学で美術を学ぶ。NYのアート・ステューデンツ・リーグに学ぶ。22～26年渡仏、パリのアカデミー・グラン・ショミエールに学ぶ。帰国後名古屋松坂屋で個展。26年名古屋に「安藤洋画研究所」開設。戦後、太平洋画美術協会会員。71年没、82歳。洋画、美教、洋画研究所、美普

安藤軍治（あんどう・ぐんじ/1915～1973 年）
神奈川県生れ。1942年東京美術学校彫刻科卒。一水会展に出品、51年一水会会員、64年一水会展会員優賞、67年一水会々員展記念賞、68年一水会委員。63、66年日展で特選、68年日展依嘱。71年渡欧。1973年没、57歳。洋画

安藤真司（あんどう・しんじ/1960 年～　）
岐阜県生れ。1989年東京藝術大学大学院美術研究科修士修了。93年日本版画協会賞。94年文化庁優秀美術作品買い上げ。2010年新進芸術家海外研究員としてアメリカ滞在(文化庁)。現在、日本美術科連盟会員、日本版画協会会員。版画

安藤静也（あんどう・せいや/1881～没年不詳）
岐阜県羽島郡に生れ。小山正太郎に師事。1903 年東京美術学校西洋画科選科卒。同年大阪に戻り関西美術会第 2 回展に出品。12 年 9 月 15 日付け大阪毎日新聞第一面に山本英春と挿絵担当。14 年東京大正博覧会に出品。15 年第 9 回文展、18 年第 12 回文展に出品。24 年、25 年の大阪市美術協会第 1 回展、第 2 回展に出品。30 年吉田博がチャーターした小舟を二ヶ月借りて高橋虎之助と三名で瀬戸内海を写生旅行する。没年不詳。(佐)洋画、挿絵

安藤　照（あんどう・てる/1892～1945 年）
鹿児島市生れ。1922年東京美術学校彫刻選科卒。

22、25年帝展で特選。24年帝展無鑑査。25年帝展、帝国美術院賞。帝展新文展の審査員。東台彫塑会々員。31年美校同期卒業生と共に塊人社を結成。37年南州翁・「西郷隆盛銅像」、初代ハチ公像を制作。1945年没、53歳。彫刻

安藤仲太郎（あんどう・ちゅうたろう/1861～1912 年）
江戸生れ。天絵舎に入り、伯父の高橋由一に師事。1889年パリ万国博覧会で佳作賞。東京府工芸品共進会に出品。90年内国勧業博覧会に出品。93渡米、シカゴ博覧会出品。95年内国勧業博覧会で審査員。96年白馬会の結成に参加。2001年関西美術会展に出品。11年李王職長官の肖像画を持ち朝鮮へ。12年没、51歳。洋画

安藤仲太郎 Ⅱ（あんどう・なかたろう/1861～1912 年）
江戸八重洲川岸生れ。天絵学舎で由一に師事。後に同舎塾頭。87 年東京府工芸品共進会に出品。89 年パリ万博で佳作賞受賞。明治美術会創立に参加。90 年第 3 回内国勧業博覧会で三等妙技賞。93 年シカゴ・コロンブス記念世界博覧会のため渡米。94 年帰国。95 年内国勧業博覧会で審査員。96 年白馬会創立に参加(12 回展まで出品)。1911 年朝鮮旅行中に李王家から肖像画の依頼受ける。12 年肖像画の制作中に没、享年 52 歳。(佐)洋画

安藤直輝（あんどう・なおき/1971 年～ ）
埼玉県生まれ。小中学時代に智内兄助の絵画教室に通う。高校卒業後、新宿美術学院で 2 年間受講し修了。2000 年以降、創作活動を再開する。洋画

安東奈菜（あんどう・なな/1948 年～ ）
東京生れ。1974年京都市芸術大学美術専攻科修了。75年現代版画コンクール展(大阪府民ギャラリー)・佳作賞。76年クラコウ国際版画ビエンナーレ・2席。82年英国国際版画ビエンナーレ。94年ソウル国際版画ビエンナーレ。版画

安藤信彦（あんどう・のぶひこ/1920？～1980 年）
山口県生れ。日本大学に学ぶ。柳亮、里見勝蔵に師事。創元会展に出品。1980年没、60歳。洋画

安藤信哉（あんどう・のぶや/1897～1983 年）
千葉県生れ。本郷洋画研究所、太平洋画会研究所、川端画学校で学ぶ。1938年新文展で特選。40年東京聾唖学校で教える。41年新文展無鑑査。58年日展会員。73年ヘレンケラー・サリバン賞。74年日展参与。日本水彩画会会員。83年没、85歳。(出典 わ眼) 洋画、水彩、美教

安藤腹蔵（あんどう・ふくぞう/生没年不詳）
1904年第9回白馬会展に出品。07年第 1 回文展に出品。12年第1回光風会展に出品。13年第1回日本水彩画会展に出品。以後、15年第2回展、19年第6回展、21年第8回展まで出品。没年不詳。(佐)水彩

安藤兵一（あんどう・へいいち/1896～没年不詳）
京都市生れ。1913 年関西美術院に入学。14 年「塩原心中行」森田草平著の装幀担当。15 年「舞姫」長田幹彦著、植竹書院発行の装幀担当。没年不詳。(佐)装幀

安藤幹衛（あんどう・みきえ/1916～2011 年）
愛知県生れ。1935年愛知県岡崎師範学校卒。41年二科展入選、54年会員、74年東郷青児賞、79年理事、84年内閣総理大臣賞、94年常務理事。48年日展入選。61年メキシコに渡る。65年東邦学園の外壁画制作。75年中日文化賞。78年アギラ・アステカ勲章(メキシコ政府)。82年安藤幹衛回顧展(名古屋日動画廊)。96年名古屋市美術特賞。2003年、『安藤幹衛画集』刊行。2011年没、95歳。洋画

あんどう みわ（生誕年不詳～ ）
“型絵染め”を川田幹に師事。2002年ミニ個展 eye 展開始(第 1 回)。03年中目黒あーとぎゃらりー和楽および表参道 Club Space Club AOYAMA にて常備展示。06年高円寺 Gallery たまごの工房にて第7＋1 回 eye 展。07年 Gallery 銀座フォレスト・ミニにて個展。(出典 わコレ)型絵染

安藤義茂（あんどう・よししげ/1888～1967 年）
愛媛県生れ。1911年東京美術学校師範科卒。中学校教師を務めた後、27年画業に専念。帝展、新文展に出品。二紀グランプリ受賞。43年より刀画を始める。51年二紀会同人。京都で没、78歳。(出典 わ眼)洋画、刀画

安徳 瑛（あんとく・えい/1940～1996 年）
上海市生れ。1959年熊本県立済々黌高等学校卒。海老原喜之助に師事。63年東京芸術大学油画科卒、65年同大学院絵画研究科修了。63年国展に入選、65年国画賞、69年国画奨励賞、74年国画会会員。75年安井賞展に出品。85～95年武蔵野美術大学講師。91年日本橋三越で個展。1996年没、55歳。洋画、美教

安野光雅（あんの・みつまさ/1926～2022 年）
島根県生れ。山口師範学校研究科修了し、49年上京。玉川学園出版部で本の装幀、イラスト制作。68年絵本『ふしぎなえ』(福音館書店)で絵本作家デビュー。司馬遼太郎の「街道をゆく」の装画担当。。2011年神奈川近代文学館で個展。15年東郷青児記念 損保ジ

ャパン日本興亜美術館で個展。。講談社出版文化賞、小学館絵画賞、ケイト・グリナウェイ賞特別賞(英)、ブルックリン美術館賞(米)、ホーンブック賞(米)、最も美しい 50 冊の本賞(米)、78、80年ボローニャ国際児童図書展グラフィック大賞(伊)、79年絵本にっぽん賞、84年国際アンデルセン賞。88年紫綬褒章。2008年菊池寛賞。12年文化功労者。2001年津和野町に「安野光雅美術館」。2022年没、96歳。洋画、美教、挿絵、装幀、絵本、個人美術館

安保健二 (あんぼ・けんじ/1922～1994 年)
愛媛県生れ。1931年横浜市に移住。1948年東京美術学校卒。同校で寺内萬治郎、小磯良平に師事。49年新制作協会展入選、52年新作家賞、66年同会会員。68、69年安井賞展に出品。72年美術教育法研修で渡米。74年訪欧。英、仏、その後、欧州各国を訪問。1989年横浜市民ギャラリーで「安保健二自選展」開催。横浜市で没、72歳。洋画　2 80

い

飯島一次 (いいじま・かずつぐ/1909～1998 年)
福岡県生れ。27年栃木県立真岡中学学校卒。川端画学校に学ぶ。28年前後2回光風会入選。38年文展入選、42年文展で岡田賞。立軌会創立会員以後、数々の個展など創作活動。東京で没、89歳。洋画、版画

飯島公夫 (いいじま・きみお/1906～1983年)
長野県生れ。1927年長野県師範学校卒。美術教育。戦後、石井柏亭に師事。日本水彩画会展、一水会展に出品。49年日本水彩画会会員。1983年没、77歳。水彩、美教

飯島敏三 (いいじま・としぞう/1912～1971年)
埼玉県生れ。1943年東京高等師範学校卒。46年大潮展で特選。50年日本水彩展で受賞。51年日本水彩展で水彩画会賞、日本水彩画会会員。59年一水会展で佳作賞、61年一水会会員。田崎広助に師事。51年から日展に出品。東京で没、59歳。水彩

飯田　勇 (いいだ・いさむ/1891～1969年)
1891年生れ。1917年東京美術学校西洋画科卒。18年文展入選。姫路中学校で教鞭。光風会会友。1969年没、78歳。洋画、美教

飯田貞重 (いいだ・さだしげ/1896～1977 年)
千葉県生れ。1915年日本陶器会社に入社、飛鳥井孝太郎に師事。31年飯田陶磁器研究所を設立。43年中村岳陵門に入る。53年名古屋松坂屋で個展。55年東京日本橋三越で個展。62年四日市近鉄百貨店で個展。67年四日市三重銀行本店で個展。69年名古屋松坂屋で個展。71年三重県無形文化財技術保持者。1977年没、81歳。陶芸

飯田三吾 (いいだ・さんご/1900～1965 年)
三重県生れ。1918年川端画学校で藤島武二に師事。22年横山潤之助に誘われグループ「アクション」に入る。23、24年アクション造形美術展に出品。1937年飯田病院理事長。絵の制作を続け、地域の青年画家を指導。市美術展に賛助出品。65年没、66歳。67年みゆき画廊で遺作展。洋画

飯田実雄 (いいだ・じつお/1905～1968年)
福岡市生れ。1925年信濃橋洋画研究所に学ぶ、小出楢重に師事。28年上京、新洋画研究所で中山巍に師事、その後独立淀橋研究所と合体、運営に従事。21年より独立展に出品、53年独立賞、60年独立美術協会会員。39～46年台湾に在住、台湾美術研究所設立。船橋市で没、63歳。洋画、美術研究所

飯田昭二 (いいだ・しょうじ/1927～2021 年)
静岡市生れ。中国奉天の工業学校を卒。静岡市で活動した美術家のグループ「幻触」の中心的メンバー。1966年「幻触」が結成。(グループ「白」の前田守一、鈴木慶則、小池一誠と、グループ「触」から丹羽勝次、飯田昭二が集まった)鳥かごに鏡と物体を配置した《Half and Half》シリーズを制作して知られる。「もの派に影響を与えたと伝えられている。2021年没、91歳。現代美術、立体

飯田四郎 (いいだ・しろう/1932～2011年)
山梨市生れ。多摩美術大学油絵科卒。新制作協会展入選、以後毎年出品、1965年新制作協会会員。77年安井賞展入選。60年代にはアンフォルメル的傾向の強い画風。70年代に入ると、女性裸像を優れた描写力によって描く。80年代以降の作品は、一種宗教性とも言うべき奥深さを感じさせた。2011年没、79歳。洋画

飯田清毅 (いいだ・せいき/1909～1972年)
東京生れ。1926年同志社大学専門部中退、28年関西美術院で黒田重太郎に油彩画を学ぶ。31年二科展入選。42年二科賞。46年行動美術協会結成に参加、会員。55年渡欧各地を取材。57年京展審査員。京都府で没、62歳。洋画

飯田艇三 (いいだ・ていぞう/1914～1992年)
茨城県生れ。東京高等工芸学校卒。1941年二科展に彫刻が入選。47年二科展特待賞。54年彫刻部会友に、59年彫刻部会員。版画は43年日本版画協会木版画が入選し、戦争による中断をはさんで49年まで出品。1992年没、78歳。彫刻、版画

飯田福治（いいだ・ふくじ/1913～1995年）
松本市生れ。1927年松本商業学校卒。34年太平洋美術学校卒。松本市議、長野県議。66年一水会安井奨励賞、67年一水会会員。69年以降3回会員佳作賞。65年日展に連続入選。1995年没、82歳。洋画

飯田満佐子（いいだ・まさこ/1919年～没年不詳）
東京生れ。1937年東洋英和女学院高等女学部卒。南画家磯部雨舟に師事。42年京都で大橋廉堂に入門、正統南画を志す。49年書壇院展南画部で特選、院友。55～59年日展入選。60年日本南画院の創立に評議員。75年日本自由画壇を結成。86年銀座・和光で個展。日本南画院審査員。南画

飯田操朗（いいだ・みさお/1908～1936年）
姫路市生れ。信濃橋洋画研究所に学び、1930年上京、太平洋画会研究所に学ぶ。31年独立展に入選、以後出品続ける。33年独立展で海南賞、35年独立賞。画風はフォーヴィスム的からシュルレアリスム的なものに移行。36年独立美術協会会友。36年没、29歳。洋画

飯田善国（いいだ・よしくに/1923～2006年）
栃木県生れ。1949年慶応大学美学美術史専攻卒。53年東京芸術大学油画科卒。55年丸善画廊で絵画作品による個展。55年河原温、池田龍男らと「制作者懇談会」を結成。56～67年渡欧、ローマ滞在中、彫刻家ファッツィーニに師事。ウィーンで銅版画を学ぶ。61年鉄、木を素材に抽象彫刻作品制作。68年神戸現代彫刻展で大賞。68年現代日本美術展で神奈川県立近代美術館賞。88年三重県美、目黒区美、京都国立近代美術館で回顧展。2006年没、73歳。彫刻、洋画、版画、立体

飯塚隆雄（いいづか・たかお/1910～1986 年）
愛知県生れ。1931年橋本八百二に師事。33年東光展に入選。45年水彩画に転向。49年白日会展に入選。50年日本水彩画会研究所に学ぶ。日本水彩展入選、53年白瀧賞、60年文部大臣賞、会員、83年理事。65年示現会賞、会員推挙。57年日展に入選、3年以降連続入選。1986年没、76歳。水彩

飯塚羚児（いいづか・れいじ/1904～2004 年）
横浜市生れ。南画家の岸浪柳渓、仏画家の岸浪松濤に師事、東城鉦太郎に師事。21 歳東南アジア、訪欧し海洋画研究。1930年以降講談社『少年倶楽部』『幼年倶楽部』、誠文堂の科学雑誌帆船画、艦船画、航空画の挿絵。昭和 10 年代、人気を得る。55年挿絵画家を辞め、油彩海洋画家へ転身。晩年には海事・海軍関係の慰霊活動。94年制作戦艦大和の絵画は、2006年靖国神社遊就館に奉納。2004年没、100歳。洋画、挿絵

飯沼玉亀（いいぬま・ぎょくき/1858 年～没年不詳）
鍋田玉英の門人。父の庭作と釈堯光にも絵を学んだという。作画期は明治 10 年代から明治 40 年代にかけてで、読本の挿絵などを手掛けている。山水画または美人画を得意としたとも伝わる。浮世絵、挿絵

飯野農夫也（いいの・のぶや/1913～2006 年）
茨城県生れ。真岡中卒。清水登之に油絵を学ぶ。1931年上京、プロレタリア美術研究所に入所。プロレタリア文学の挿絵をえがき、34年郷里の茨城県に帰る。のち版画に転じ、周囲の農村風景の木版画を制作。2006年没、92歳。挿絵、版画

飯室哲也（いいむろ・てつや/1947年～ ）
甲府市生れ。1972年武蔵野美術大学造形学部美術学科卒。70年代以降は、ものと事実に関わる表現表現を模索。粘土やロープ、木といった素材を用いて「線状の空間感覚」のシリーズによってインスタレーションによる表現を追求。90年代は多くの展覧会を企画し、「眼の座標」展を代々木アートギャラリーで開催。稲憲一郎、堀川紀夫の三人による作品集『汎』が出版。『汎』は２００５）年の第 5 集まで出版、『IMAGINATION』、『IDEA・SENSE・EXPRESSION』の作品展開催と出版。インスタ、洋画、立体

飯森定省（いいもり・さだみ/1893～1951 年）
石川県生れ。1918年東京美術学校西洋画科卒。15年文展に入選。27年金沢石黒ファーマシーで個展開催。57，58年ころアトリエを都内から熱
海市に移し、以後同地で制作を続けた。1951年没、58歳。洋画

飯守米子（いいもり・よねこ/1897～1991 年）
和歌山県生れ。女子美術学校卒。1932年朱葉会会員、のち理事。新世紀美術協会会員。女子美術大学教授。1991年没、94歳。洋画、美教

家永麒三郎（いえなが・きさぶろう/1906～1990 年）
福岡県生れ。斎藤与里に師事。1927年帝展入選。新文展で無鑑査。東光会名誉会員。大阪芸術大学教授。大阪で没、84歳。洋画、美教

五百城文哉（いおき・ぶんさい/1863～1906 年）
水戸市生れ。本名熊吉。1874 年農務省山林局雇として標本制作に従事。高橋由一に洋画を学ぶ。87 年東京府工芸品共進会、内国勧業博覧会等に出品。93

年シカゴ万国博覧会に出品。1906 年 6 月 6 日没、享年 42 歳。(佐)洋画、水彩

五百住乙人（いおずみ・きのと/1925 年～ ）
東京生れ。脇田和に師事。1951年美術団体連合展新制作部入選、56年立軌展出品のち立軌会同人。95年日本橋三越個展。97年東京セントラル美術館で画集刊行記念自選展。2003年三越4店で個展。05、07年高島屋の3店で個展。08年梅野記念絵画館個展。洋画

猪飼 正（いかい・ただし/1935 年～ ）
名古屋市生れ。1957年二科会展(彫刻)、62年モダンアート協会展(彫刻)。70年銅版画を独学で始める。85年セントラル美術館版画大賞展、版画「期待の新人作家」大賞展・買上賞。86年 CWAJ 現代版画展。91年個展。92年ミヤコ版画賞展(大阪)・受賞。99年～個展。彫刻、版画

伊上凡骨（いがみ・ぼんこつ/1875～1933 年）
徳島県生れ。1891年上京、木版師大倉半兵衛に師事。98年独立、凡骨は洋画の筆触，質感を彫刀で巧妙に表現し，名摺師の西村熊吉の協力を得て，複製版画を作った。与謝野鉄幹の「明星」の挿絵の木版で知られる、「明星」所載の藤島武二ら洋画家の絵も木版制作。1905年白馬会の機関誌「光風」の挿絵を制作。東京彫工会に出品、受賞、同会会員。竹久夢二の版画・詩画集の彫版で知られる。木版画彫師。1933年没、57歳。版画、挿絵、装幀

魚住誠一（いおずみ・せいいち/1894～1950 年）
三重県生れ。1918年ミニマム写真会主催品評会で 4 等賞。23年東京写真研究会展で 4 等賞。さらには、篆刻を彫り、俳句を詠むなど、様々な分野の芸術に通じた趣味人でもありました。その文人的素養は写真制作にも流れ込んでいます。写真、篆刻

伊賀勇高（いが・ゆうこう/1915～1965 年）
北海道生れ。1939年日本美術学校洋画科卒。新構造社、二科展に出品。米国サロン・ド・プランタン展出品。50年二科展で35周年記念賞、52年商業美術賞、61年金賞、62年会員。1965年没、49歳。洋画

五十嵐浚明（いがらし・しゅんめい/1700～1781 年）
1700年生れ。京都で竹内式部に闇斎派の儒学を、江戸で狩野良信に学ぶ。京都で諸派の画を研究。法眼となって郷里越後にもどった。1781年没、82歳。江戸中期の絵師

伊川 寛（いかわ・かん/1908～1988 年）
兵庫県生れ。信濃橋洋画研究所、川端画学校に学び、新井完に師事。1932年二科展に出品。42年須磨女子高等学校で美術を教える。46年神戸洋画会の創立に参加。47年二紀会同人。門下に中西勝、石坂春生、江見絹子らがいる。81年神戸市文化賞。洋画、美教

井川惺亮（いかわ・せいりょう/1944 年～）
内モンゴル自治区生れ。東京芸術大学大学院修了後、1975～79年フランスに留学、マルセイユ美術学校でクロード・ヴィアラに師事。通常の絵画の形態を解体し再構築する試みを帰国後も展開する。84年長崎大学教育学部の教員。廃材にも目を向け、使い古された家具や道具類、空き箱、折れた枝などに着彩した作品を発表している。洋画、立体、美教

井川洗厓（いがわ・せんがい/1876～1961 年）
岐阜県生れ。大阪で稲野年恒及び東京で富岡永洗に師事。『都新聞』に挿絵を描く。多くの木版口絵を手がけた。太平洋画会に入会、卒業。大正期には新版画『新浮世絵美人合八月月』を村上・版元から出版。「挿絵画家も大衆芸術家である。特に挿絵家は色気を失っては駄目である」と述べた。1961年没、85歳。挿絵、版画

伊川鷹治（いがわ・たかじ/1898～1971 年）
長野県生れ。1917年上京、葵橋洋画研究所に学ぶ、5年間黒田清輝に師事。白滝幾之助の指導を受ける。30年春陽会に入選、木村荘八の指導を受ける、43年春陽会賞、48年会員。32年銀座資生堂画廊で個展、以降～48年までに5回個展開催。東京で没、72歳。洋画

生嶋順理（いくしま・じゅんり/1961 年～ ）
熊本県出身。東京造形大学美術学科卒。東京藝術大学大学院修士課程修了。1987・89・96年現代日本美術展。86、88年クラコウ国際版画ビエンナーレ展。90年インターグラフィック 90。91年クラコウ国際版画トリエンナーレ、91、93年マーストリヒト国際版画ビエンナーレ。94、97年国際版画トリエンナーレ(マケドニア)。東京造形大学教授。版画、美教

生島 浩（いくしま・ひろし/1958年～ ）
大阪生れ。1983年京都精華大学美術学部造形学科卒。88年渡米、89年渡欧、94年帰国。96年生島絵画研究所開設。99年白日会展初出品('00白日賞、'02富田賞、'05三洋美術奨励賞、'10文部科学大臣賞、'12内閣総理大臣賞)。2004年大阪阪急・春風洞画廊で個展。ヴワール展(春風洞画廊 以降出品)。06年

生島浩・石黒賢一郎・島村信之　三人展（春風洞画廊）、白日会会員選抜展出品（日本橋三越　以降出品）。15年生島浩展“SERWAS”（8/6-8/12 あべのハルカス近鉄本店 美術画廊）。白日会会員。洋画、絵画研究所

生沢 朗（いくざわ・ろう/1906～1984年）
兵庫県生れ。本名正一。28年日本美術学校卒業。報知新聞社に入社し政治漫画を描く一方で二科展に出品。31年第8回白日会展に出品。以後14回まで出品。第10回展でF氏賞。48年行動美術協会会員。58年同会退会。この頃、新聞、雑誌の挿絵に専念、井上靖の「氷壁」の新聞小説挿絵など、その都会的な作風は一世を風靡した。68年日動サロンで個展開催。73年生沢朗画集刊行。74年生沢朗さし絵画集（限定版）刊行。77年日本橋東急店で個展開催。84年11月22日東京で没、享年78歳。（佐）洋画、挿絵

居串佳一（いぐし・かいち/1911～1955年）
北海道北見市生れ。旧姓水野。網走中学在学中に道展に入選。1932年独立展入選。以後入選、受賞を重ね、34年道展会員。36年第6回独立展で海南賞。38年、上京、41年、独立美術協会会員。39年～42年にかけて中国、千島などに従軍画家として赴く。戦後、網走に疎開。51年東京に転居しアトリエを新築。戦後に全道展会員。55年10月5日旅先の札幌市で急逝、享年44歳。（佐）洋画

生田宏司（いくた・こうじ/1953 年～ ）
山形県生れ。1976年多摩美術大学絵画科日本画専攻卒。上野泰明、加山又造、堀文子に師事。87年ブラジル・カンピナス国際版画ビエンナーレ賞（最優秀賞）。89年スペイン・カダケス国際小版画展（最高賞）。93年米国際ミニアチュール版画展で佳作賞。東北芸術工科大学非常勤講師（’94～’02）。日本を代表するメゾチント技法による銅版画家の一人。2013年喜多方市美術館にて個展開催・図録刊行。15年パリ・サンシュルピス広場「版画の日」で個展開催。版画

池口史子（いけぐち・ちかこ/1943 年～ ）
旧満州・大連生れ。1966年東京藝術大学美術学部油画科（山口薫教室）卒、68年同大大学院修了。74年安井賞展入選。84年立軌会出品（85 年、92 年以後毎年）。92年両洋の眼展出品（以後毎年、02 年河北倫明賞）。93年倫雅美術奨励賞。98年日動画廊本店で個展、2002年諏訪市美術館で個展。04年損保ジャパン東郷青児美術館大賞。08年渋谷・松濤美術館、09年北京・中国美術館、11年池田20世紀美術館で個展。13年日本藝術院賞・恩賜賞受賞、日本藝術院会員、立軌会会員。洋画

井口通太郎（いぐち・みちたろう/1941 年～ ）
浜松市生れ。1964年水彩連盟展初出品・スター賞。65年図案家、平岡政雄に内弟子として師事。67年水彩連盟展会員、70年水彩連盟展委員・審査員推挙（以後、2006年退会迄）、02年記念展賞。76年加藤萬企画室創設準備・嘱託、07年加藤萬を引退、相談役。新象作家協会展奨励賞、会員。日本美術家連盟会員、絵画グループ・REGARD（ルガール）展代表。水彩、デザイナー

井口安弘（いぐち・やすひろ/1931～1990 年）
兵庫県生れ。山川文吾に表具と文化財修理を学ぶ。1961年独立。平泉中尊寺の中尊寺経、高山寺、南禅寺、本願寺、知恩院、三井寺、高野山、宗像神社、太宰府天満宮等多くの社寺の国宝、重文級の絵画、書籍類を修復。表装装潢師連盟に所属。63年ボストン美術館東洋部長富田幸次郎、ロバート・トリート・ペイン・ジュニアの招請により、同美術館東洋部の保存修復室長に就任。20 数年、ボストン美術館の東洋美術品の保存修理にすぐれた手腕を発揮。72年ボストン美術館が所蔵品を日本で公開。88年外務大臣表彰。74年アメリカ芸術奨励基金 The National Endowment for Arts の許可を得て、台湾の故宮博物院で絵画の伝統的な修復と表装の技術を研究。近年、同美術館に収蔵されていた北斎や広重の浮世絵版木の確認と、その日本での展覧会開催にも貢献。米国で没、59歳。修復

井口良一（いぐち・りょういち/1885～1944 年）
岐阜県生れ。1902白馬会溜池洋画研究所に入所。錦城中学校に学ぶ。14年「文硯会」の結成に参加。15年上高地に五千尺旅舎を開業。日本山岳会会員。19年松本美術会の結成に参加。22～41年松本第二中学校の嘱託教師。41年豊科高騰女学校の嘱託教師。1944年没、59歳。洋画、美教

惟馨周徳（いけい・しゅうとく/生没年不詳）
雪舟の門人。狩野永納『本朝画史』は、周徳が等薩に付与した山水図に策彦周良（1501-79）年の賛があり、周徳が山口の雪舟画房・雲谷庵の二代目庵主が検討。近年、1512年の年記をもつ作品が見出され、雪舟没後まもない16世紀初頭に活動していたことが判明。雲谷庵二代目庵主説が信憑性を帯びてきた。玉澗風の溌墨山水図を遺し、雪舟流を正統に継承した画家。真体山水図や礼拝像的な仏画、花鳥画

制作、幅広い画技を有する専門画家。朱文重廓方印「周徳」が基準印。戦国時代の画僧

池内荷芳（いけうち・かほう/1903～1967 年）
香川県生れ。1940年の紀元 2600 年奉祝展や新文展、日展などに出品した。千葉県展の第 1 回展から出品し、第 2 回展では知事賞、第 9 回展審査員を務めた。1967年没、64歳。洋画

池上秀畝（いけがみ・しゅうほ/1874～1944 年）
長野県生れ。1889年荒木寛畝の門下。94年日本美術協会展で二等賞。寛畝流の南北合派の作風を基礎にした華麗な花鳥画や幽遠な山水画を描く。1907年文展開設に際して審査・運営方針に異議、正派同志会を結成、その評議員。08年の文展から参加し、官展内の旧派を代表する日本画家。寛畝門下の読画会展を荒木十畝とともに主導、自ら伝神洞画塾を主宰。1944年没、70歳。練馬区立美術館で88年「山水花鳥の美 池上秀畝展」開催。日本画、美教、版画、画塾

池上丁一（いけがみ・ていいち/1900～1991 年）
福岡県生れ。福岡師範学校本科二部、専攻科卒。坂本繁二郎に師事。1938年二科展入選、40年二科西人社会員、二科会員。47年県美術協会参加、福岡美術会に出品。戦後も西部美術協会、県美術協会再興、西部水彩画協会等に参加。1991年没、91歳。洋画、美教、水彩

池上 浩（いけがみ・ひろし/1902～1974 年）
岡山県生れ。葵橋洋画研究所に学ぶ。黒田清輝、小絲源太郎に師事。1924年帝展に入選。光風会会員。新世紀美術協会委員。74年没、71歳。洋画

池谷寅一（いけがや・とらかず/1902～1983年）
北海道生れ。函館貯蓄銀行勤めた後、鉄道職員となる。1911年赤光社に創立会員参加。15年北海道美術協会の結成に参加。戦後は、全道美術協会の結成に参加、創立会員。43年新文展入選。46年日展入選。46年一水会会員。72年函館市文化賞。1983年没、81歳。作品は北海道立函館美術館に所蔵。洋画

池島勘治郎（いけしま・かんじろう/1897～1980 年）
大阪生れ。1915年大阪市立市岡中卒。洋画を独習。22、25、26年帝展入選。34年同志と関西水彩画会を結成。33年 独立展出品。44年独立賞。48年独立美術協会会員。67年独立展でG賞。80年没、82歳。86年大阪ABCギャラリーで遺作展。水彩

池田雲樵（いけだ・うんしょう/1825～1886 年）
伊賀生れ。中西耕石、前田暢堂に学び、伊勢津藩の絵師をつとめる。1880年京都府画学校の文人画教授。1886年没、61歳。作品に「松林読書」「威振八荒」など。江戸後期-明治の絵師

50

池田永治（いけだ・えいじ/1889～1950年）
京都生れ。1910年上京、太平洋画会研究所で油絵を学び、10年文展に入選。11年太平洋画会会員。文展、帝展、新文展（無鑑査・招待）、35年太平洋美術学校教授。12年挿絵を担当。15年の「東京漫画会」、23年の「日本漫画会」、32年の「新漫画派集団」の結成に関与し、『東京パック』、『アサヒグラフ』（1928～1930）、『読売新聞』及び日曜付録『読売サンデー漫画』（1931～1933）に漫画作品を発表。富山県で没、61歳。洋画、版画、挿絵、漫画

池田快造（いけだ・かいぞう/1911～1944年）
広島県生れ。1928年府中中学校卒。赤松絵画研究所、川端画学校に学ぶ。39年東京美術学校油画科卒。38年光風会展に出品、光風会賞、光風会会友、光風会展で特賞。新文展に入選、41年文展に入選。「池袋モンパルナス」の画家の一人。広島県で没、33歳。2011年広島県立美術館で生誕100年池田快造展開催。洋画

池田亀太郎（いけだ・かめたろう/1862～1925 年）
酒田市生れ。1884年高橋由一が酒田の三浦屋旅館に滞在。亀太郎の作品は由一の画風が大きく影響されている。上京して写真技術を習得し、酒田で写真館を開業。亀太郎の絵は肖像画が多く、酒田の名士を絹本彩色・麻布油彩などに描いた。鮭にかけては抜群の腕で「塩鮭」は有名。1925年没、63歳。洋画家。1977年本間美術館で「池田亀太郎遺作展」が開催。洋画、肖像、日本画

池田桂仙（いけだ・けいせん/1863～1931年）
三重県生れ。父は池田雲樵、母は斎藤拙堂の娘。1874年京都にうつり、谷鉄臣、江馬天江に詩文をまなぶ。京都府画学校卒。1911年各種展覧会に入賞、以降文展を舞台とした。19年反帝展をかかげ日本自由画壇を結成。京都画壇に重きをなした。1931年没、69歳。日本画、版画

池田三郎（いけだ・さぶろう/1927～2005 年）
金沢市生れ。1949年石川県師範学校卒。在学中に山口操助、宮本三郎に師事。54年二紀展同人賞。54年現代美術展県知事賞。69年同人推挙。71年会員推挙。77年二紀会委員。79年県立七尾養護学校初代校長。2005年没、78歳。洋画

池田治三郎（いけだ・じざぶろう/1888～1966年）
神戸市生れ。1909年関西美術院で鹿子木孟郎に師事。1911年文展初入選。12年文展で三等賞。帝展、新文展で入選。36年池田治三郎近作洋画展を開催。40年華畝会(かぼい)を結成。三重県で没、78歳。洋画

池田修三（いけだ・しゅうぞう/1922～2004 年）
秋田県生れ。1940年秋田県立本荘中学校卒。45年東京高等師範学校芸能科卒。秋田県立由利高等学校美術科教諭。52～55年聖霊学園勤務。55年退職、上京、版画家活動。57～77年日本版画協会展入賞、同会会員。59年現代版画コンクール展入賞。89年象潟町功労者表彰。2004年没、82歳。版画、美教

池田蕉園（いけだ・しょうえん/1886～1917 年）
東京生れ。池田輝方の妻。1901年水野年方主宰する慶斎画塾に入門。1903年吉川霊華らと烏合会会員。06年美術研精会に出品した「わが鳩」で研精賞碑。07年東京勧業博覧会で2等賞、同年秋、文展で3等賞。08年文展3等賞。09年輝方と川合玉堂に師事し、鈴木華邨の指導を受ける。15年文展で3等賞、16年文展で特選。京都の上村松園とともに「東の蕉園、西の松園」「閨秀画家の双璧」「東西画壇の華」のちには大阪の島成園を加えて「三都三園」と呼ばれた。1917年没、32歳。浮世絵、日本画、水彩

池田瑞月（いけだ・ずいげつ/1877～1944 年）
金沢市生れ。京都に出て木島桜谷に師事。画題を植物一筋にもとめ、すぐれた写生画をのこした稀有な作家。《草木写生画巻》は、作者が心血を注ぎ、半生を費やした 1 巻が約 10 メートルもの大作です。代表作は《蘭花譜》。《蘭花譜》は、実業家加賀正太郎が自ら育てた洋蘭をモチーフに監修した、木版画による植物図譜。1944年没、67歳。日本画、版画、植物図鑑

池田太一（いけだ・たいち/1933 年～ ）
愛知県生れ。金沢美術短期大学美術科入学。1964年作品「記号2」が「芸術新潮」1963年のベストテンに選出。北日本新聞社退職後再び制作。現代美術の先端を走る。97年から「人々の風景シリーズ」、「愛おしき人々シリーズ」を制作。2007年横浜日仏芸術祭で日仏都市芸術特別賞。洋画、現代美術

池田龍雄（いけだ・たつお/1928～2020 年）
佐賀県生れ。1941年佐賀県立伊万里商業学校入学。43年海軍航空隊入隊、45年特攻隊員。佐賀師範学校本科 1 年で退学。48年多摩造形芸術専門学校入学。48年「アヴァンギャルド芸術研究会」参加。安部公房等の「世紀の会」に参加。50年ルポタージュ絵画。50年代小型ペン画制作、50年代後半大型ペン画制作。「化物の系譜」シリーズ制作。58年絵本誌『こどものとも』、木島始『ろくとはちのぼうけん』挿絵。絵本・児童書。60年代以降「百仮面」「楕円空間」「玩具世界」「BRAHMAN」「万有引力」「場の位相」シリーズなど風刺、ペン画のシリーズを制作。97年練馬区立美術館で「池田達雄・中村宏」展。2020年没、92歳。洋画、アヴァンギャルド、ルポ、挿絵、絵本、版画、ペン

池田輝方（いけだ・てるかた/1883～1921 年）
東京生れ。妻は日本画家池田蕉園。水野年方に浮世絵を学ぶ。1902年絵画共進会で「山王祭」が、03年では「婚礼」が 1 等褒状。03年銅賞3席。烏合会に結成直後参加。川合玉堂に師事、14年文展で3等賞、15年文展で2等賞、16年文展では蕉園とともに特賞。文展で無鑑査出品。石井林響・山内多聞らと如水会を結成。妻蕉園と共に人物画を能くし、浮世絵系の風俗画家として活躍。1921年没、39歳。浮世絵、木版、日本画

池田満寿夫（いけだ・ますお/1934～1997 年）
満州生まれ。1955年「実在者」の結成に参加、靉嘔の紹介で瑛九を知り、デモクラート美術協会会員。60年東京国際版画ビエンナーレで文部大臣賞。65年ニューヨーク近代美術館で池田満寿夫の版画展が開催、版画部長で国際審査員のウイリアム・S・リーバーマンに認められた。66年ヴェネツィア・ビエンナーレ版画部門で大賞。77年「エーゲ海に捧ぐ」で芥川賞。97年没、63歳。（荒由）版画、洋画、陶芸、彫刻、デモクラート、美術館

池田　学（いけだ・まなぶ/1973 年～ ）
佐賀県生れ。1998年東京芸術大学美術学部デザイン科卒。2000 年東京藝術大学大学院美術研究科デザイン専攻修了。11年文化庁芸術家在外研修員としてカナダ・バンクーバー滞在。13～16年アメリカ・ウィスコンシン州マディソン、チェゼン美術館にて滞在制作。現在、ウィスコンシン州マディソン在住。デザイナー

池田幹雄（いけだ・みきお/1928～2022 年）
函館市生れ。1937年上京。52年多摩造形芸術専門学校卒。53年新制作展入選、69年会員、74年新制作協会の日本画部が創画会となり創画会に出品。73年「山種美術館賞展」推薦出品。81～95年自由

学園や女子美術大学で後進の指導。2000年青梅市立美術館で回顧展開催。2006年練馬区立美術館個展。埼玉県で没、94歳。日本画、美教

池田勇八（いけだ・ゆうはち/1886～1963年）
香川県生れ。1907年東京美術学校彫刻選科卒。卒業制作を東京勧業博覧会に出品、銅牌。16，17，18文展で特選。帝展無鑑査、審査員。35年第3部会を結成。戦後は日展で活躍。「馬の勇八」と言われた。東京で没、77歳。彫刻

池田遙邨（いけだ・ようそん/1895～1988年）
倉敷市生れ。洋画家の松原三五郎の天彩画塾入塾。1912年小野竹喬に出会い日本画へ興味。19年竹内栖鳳の画塾竹杖会に入る。26年京都市立絵画専門学校研究科卒。28、30年帝展にて特選。36～49年京都市立絵画専門学校助教授。53年に画塾・青塔社を主宰。60年日本芸術院賞、76年日本芸術院会員。87年文化勲章。京都で没、92歳。日本画、版画、画塾

池田淑人（いけだ・よしと/1886～1981年）
秋田市生れ。1904年横手中学校を3年で中退し、渡米。09年サンフランシスコ音楽学校でチェロを、パプキン美術学校で絵画を学ぶ。23年帰国。チェロと英語を教える。27年画作を始める。28年須田国太郎の勧めで関西美術院展に出品。29年上京し、紀伊国屋画廊で個展。48～63年自由美術協会会員。73年紀伊国屋画廊で個展。79年新宿小田急百貨店で個展。80年高岡市美術館で個展。東京で没、94歳。洋画、美教

池田良則（いけだ・よしのり/1951年～　）
京都生れ。1973年金沢美術工芸大学油画科中退。77年改組日展初入選。。高光一也に師事。54年個展開催、以後個展・グループ展多数開催。84年改組日展特選。95年白日会会員。97年改組日展で特選。99、2000年文化庁派遣芸術家在外研修員としてメキシコ、グアナファット大学留学、客員教授を兼ねる。39年日展会員。洋画

池田良二（いけだ・りょうじ/1947年～　）
1947年生れ。65年武蔵野美術大学に入学。75年独学で銅版画制作を開始。81年文化庁派遣芸術家在外研修員訪欧英に留学、94年以降アルバータ大学客員教授長期滞在。90年ソウル国際版画ビエンナーレ大賞、2003年タカシマヤ美術賞。05年山口源大賞。09年紫綬褒章。版画、美教

池ノ内篤人（いけのうち・あつと/1910～1989年）
神戸市生れ。1930年上京し、太平洋画会研究所、「一九三〇年協会」洋画研究所、独立美術研究所で学ぶ。1933年独立美術協会内部のシュルレアリスム的作品を描く今井滋らとNINIを結成。34年独立美術協会を脱退、新造形美術協会を結成。戦後は無所属。89年没、79歳。洋画

池野　清（いけの・きよし/1913～1960年）
長崎市生れ。長崎市立長崎商業学校卒。1935年西日本美術展受賞。37年独立展入選、歿年まで連続入選。41年独立美術協会会友。長崎市で被爆。59年春季独立展に招待出品。美術愛好グループや児童に絵画を教え、草創期の長崎県展や市展で審査員。長崎の美術振興に貢献。60年没、46歳。洋画、美教

池　大雅（いけの・たいが/1723～1776年）
京都生れ。妻の玉瀾も画家。柳里恭（柳沢淇園）に文人画を伝えられた。与謝蕪村とともに、日本の南画（文人画）の大成者。大雅は中国渡来の画譜類、室町絵画や琳派、西洋画の表現を取り入れ、独自の画風を確立。川端康成の蒐集品として著名な「十便十宜図」は、中国・清の李漁の「十便十宜詩」に基づき、山荘での隠遁生活の便宜を画題に大雅と蕪村が共作した画帖。（大雅は「十便図」を担当）。江戸中期の南画家（文人画）、書

池辺一郎（いけべ・いちろう/1905～1986年）
東京生れ。麻生中学校卒。1932～38年渡仏、アカデミー・グラン・ショミエールに学ぶ。46年一水会会員、一水会賞、52年会員優賞、同会常任委員。52年日展で岡田賞。以後も日展、一水会展に出品を続ける。東京で没、81歳。著書に『近代絵画のはなし』（40年、南窓社）、『ルドン』（50年、読売新聞社）がある。洋画

池辺一夫（いけべ・かずお/1895～1952年）
大分市生れ。1919年東京美術学校図画師範科卒業後、大分県女子師範学校で教える。23年再度上京し、片多徳郎家に出入りした。28年帝展入選。1952年没、57歳。洋画、美教

池辺貞喜（いけべ・さだよし/1905～1994年）
大分県生れ。25年国展に入選、のち樗牛賞、国画会賞。33年同会会友。満州国「協和会」で美術文化運動。45年シベリア抑留。73年現代画廊で個展。94年没、89歳。洋画

池部 鈞（いけべ・ひとし/1886～1969 年）
東京生れ。1910年東京美術学校卒、11年朝鮮京城日報社入社、14年国民新聞に入社し政治・議会・社会分野などの漫画を担当。16年漫画誌『トバエ』が創刊参加、17年『漫画』創刊参加。漫画界の第一人者として活躍 。21年帝展出品、28年特選、30年特選、無鑑査、日展評議員。38年一水会会員、のち運営委員、66年「美人一列」で日本芸術院賞恩賜賞。67年勲四等旭日小綬章。東京で没、83歳。漫画家岡本一平の義弟、岡本太郎の叔父にあたり、俳優の池部良は実子。東京で没、83歳。洋画、挿絵、版画、漫画

池部 鈞 Ⅱ（いけべ・ひとし/1886～1969 年）
東京本所生れ。97年頃、下谷小学校高等科一年で石井鶴三と同級。1902年石井柏亭に入門しようとして断られ、渡部審也を紹介される。10年東京美術学校西洋画科卒。11年朝鮮京城日報社に入社。14年国民新聞に入社。政治、社会、議会、相撲、漫画スケッチを執筆。16年漫画誌「トバエ」が創刊に参加。17年「漫画」の創刊に参加。19年親戚入籍し、山下姓より池部姓にかわる。22年「漫画の畑」創刊に参加。25年「漫画ボー創刊に参加。28年第9回帝展で「少女球技図」特選。30年第11回帝展で無鑑査。32年第13回帝展出品作が三井コレクションに収蔵。38年一水会会員、以後毎回出品。48年第4回日展「闘鶏図」文部省買上げ。66年第7回日展出品作で恩賜賞受賞。67年勲四等旭日章叙勲。69年12月17日八王子にて没。享年83歳。（佐）洋画、挿絵、版画、漫画

池松末人（いけまつ・すえと/1926～2004 年）
福岡県生れ。1951年福岡学芸大学卒。伊藤静尾に師事し、56年二科展に入選し、特選受賞を経て、のち会員。二科西人社でも出品を重ね、一時代表も務めた。84年大牟田文化連合会の功労賞。「甑島」の連作で知られる。2004年没、78歳。洋画

イケムラ・レイコ（池村玲子/1951 年～ ）
津市生れ。大阪外国語大学スペイン語学科卒業後、スペイン・セビージャのセビリア美術大学に留学。スイス・チューリッヒ、ドイツ・ニュルンベルクを経て、ベルリンとケルンで活動。1991年ベルリン芸術大学教授。1981年スイスのグラフィックアート財団賞、88年審査委員賞。2002年ヨゼフ・アンニアルバース財団、アーティストレジデンシー、ニューヘイブン、コネチカット、米。08年:アウグストメシェンデの都市賞、ドイツ。19年国立新美術館で個展。洋画、彫刻、造形、水彩、版画、美教、グラフィック

池山阿有（いけやま・あゆ/1939 年～ ）
新潟県生れ。1963年多摩美術大学油絵科卒。76年光風会展入選。79年日展改組入選、93、97年改組日展特選。2001年日展審査員、06年改組日展会員賞、13年地域文化功労者（文化庁）。日展会員、光風会常務理事。洋画

生駒泰充（いこま・やすみつ/1956 年～ ）
滋賀県生れ。1981年記念二紀展・二紀賞。87年二紀展・安田火災美術財団奨励賞。88年安井賞展（'90）。93年 IMA 絵画の今日展（三越美術館・'95 '97）。2001年記念二紀展で会員優賞。洋画

悳 俊彦（いさお・としひこ/1935 年～ ）
東京生れ。1958年武蔵野美術学校洋画科卒。64年国際青年美術家展入選。70年以降日本橋画廊等で個展。83年風土会に入会。2010年河鍋暁斎記念美術館個展。京都造形芸術大学付属康耀堂美術館に作品多数収蔵。浮世絵研究・解説者としても著名。洋画

伊坂義夫（いさか・よしお/1950 年～ ）
東京生れ。1969年本郷高校デザイン科卒。72年三島事件をヒントに日の丸シリーズを製作。73年詩画展、ヨシダ・ヨシエと共作。"スーパーニューヨーク＋2"(ギャラリー21)。81年少年戦記展 岡本信治郎と合作。(銀座81 美術館)、81年リエカ国際ドローイングビエンナーレ・ベオグラード現代美術館買上賞(ユーゴスラビア)。86年日本イラストレーション展で特別賞(伊勢丹美術館・オーストラリア巡回展)。2006年世田谷美術館（ルソーの見た夢）。詩画集"スーパーニューヨーク"ヨシダ・ヨシエと共作。版画集「少年戦記」岡本信治郎と合作。版画

諫山麗吉（いさやま・れいきち/1851～1906 年）
大分県中津市生れ。1875年彰技堂に入学、国澤新九郎に師事。77年第1回内国勧業博覧会で褒状。この年大分に帰る。大分県令の依頼により、≪沈堕之滝≫制作。80年清国に渡り、上海に2年ほど滞在。82年渡英、数年後にフランスに渡り、本野駐仏公使の知を得て、大使館に寓す。1900年7月8日浅井忠と会い昼食を共にし、博覧会場をぶらつく。06年9月28日パリで病死、享年57 歳。（佐）洋画

井沢宏子（いざわ・ひろこ/1959 年～ ）
大阪生れ。1959年京都市立美術大学西洋画科卒。62～65年パンリアル美術協会入会、出品。66年パンリアル美術協会退会。以降、消息不明。洋画、パンリアル

井澤元一（いざわ・もといち/1909～1998 年）
京都市生れ。里見勝蔵に師事。1932年独立展入選、33年独立美術研究所で須田国太郎に師事、44年会友、48年会員。64年主体美術会員。週刊朝日のドナルド・キーン「日本文学散歩」の挿絵。75年京展審査員。79年画文集「古都点描」発刊。83年紺綬褒章。91京都市文化功労賞。1998年没、88歳。洋画、挿絵

石井 明（いしい・あきら/1900～1972年）
東京生れ。東京高等師範学校卒。葵橋洋画研究所に学ぶ。帝展に入選を重ねる。太平洋美術会評議員。1972年没、71歳。洋画

石井厚生（いしい・あつお/1940 年～ ）
千葉県生れ。1964年多摩美術大学彫刻科卒。行動美術展出品（以後毎年出品、'03、'09 不出品）。85年愛宕山画廊で個展。90年ギャラリーせいほう（東京）で個展。97年 第 4 回緑の彫刻賞。2002年中原悌二郎賞優秀賞。03年長野市野外彫刻賞。05年本郷新賞。彫刻

石井一男（いしい・かずお/1943 年～ ）
神戸市生れ。1962年高校卒業後、69関西大学法学部（二部）卒。71年兵庫県展に出品し、洋画部門にて入選。92年神戸元町の海文堂の島田誠氏に作品持参、個展開催。2008年画集『絵の家』、09年『絵の家のほとりから』がギャラリー島田より出版。ノンフィクション『奇蹟の画家』（後藤正治著・講談社発行）が出版。10年テレビ番組（TBS「情熱大陸」）が放映、全国的に大きな反響。11年 BB プラザ美術館にて個展。12年佐喜眞美術館にて個展。枝香庵で個展。洋画

石井光楓（いしい・こうふう/1892～1975 年）
千葉県生れ。石井林響に日本画を、小杉未醒から洋画を学ぶ。日本美術院研究所に学ぶ。1915年再興院展洋画部に入選。21年帝展に入選。22年渡米、カリフォルニア・アート・スクール、シカゴのアート・インスティテュートに学ぶ。25～31年渡仏、パリのアカデミー・ジュリアンに学ぶ。サロン・ドートンヌ等に出品。41年～春陽展に入選、47年春陽会賞、49年会員。49～58年長生第一高等学校の美術講師。横浜市で没、82歳。洋画、美教

石井茂雄（いしい・しげお/1933～1962 年）
東京生れ。1950年文化学院美術科卒。50年～国展に出品、入選。1955年池田龍雄、河原温らと制作者懇話会結成。養精堂画廊で個展。56年松村画廊個展。59年前衛美術会会員。60年日本版画協会展で協会賞、会友。62年没、29歳。洋画、版画

石井四郎三（いしい・しろぞう/1905～1978年）
神奈川県生れ。1931年東京美術学校西洋画科卒。新世紀美術協会会員。1978年没、73歳。洋画

石井精一（いしい・せいいち/1937～1987年）
山梨県生れ。独学で絵画を学び、現代美術家協会に属した。1966～75年同会運営委員。以後、無所属。75年シェル美術賞展で一等。安井賞展、立軌会展、シェル美術賞歴代受賞作家展に出品、海外展にも度々出品し数多く賞を受賞。だまし絵的要素を盛り込んだ細密表現を得意とし、非現実的な幻想世界とそこに漂う日本的叙情を作風の特徴。1987年没、50歳。洋画

石井泰三（いしい・たいぞう/1926～1983年）
福岡県生れ。福岡第二師範学校卒。新槐樹社会員。1983年没、57歳。洋画

石井武夫（いしい・たけお/1940年～ ）
千葉県生れ。1963年東京教育大学教育学部芸術学科絵画専攻卒。64年同大学芸術専攻修了。専修大学松戸高等学校美術教諭。68年独立展入選、以後出品。76年独立展で受賞。77年安井賞展で佳作賞。81年筑波大学助教授（芸術学系）、92年同大学教授。95年松戸美術会会長。99年文化庁在外研修、パリ国立高等美術学校。2004年大坂芸術大学教授。洋画、美教

石井鶴三（いしい・つるぞう/1887～1973年）
東京下谷生れ。長兄は石井柏亭。98年前年父（石井鼎湖）が没し、矢橋家の養子となる。1904年実家石井家に戻る。小山正太郎の不同舎で絵を、加藤景雲に木彫の技法を学ぶ。06年「東京パック」の記者となる。10年東京美術学校彫刻科選科卒。11年文展で「荒川嶽」が褒状。14年奈良で佐藤朝山と出会う。15年朝山の紹介で日本美術院研究所にて造型の研究に励む。同年に院友となる。16年水彩画「行路病者」が第3回二科展で二科賞。22年日本創作版画協会会員。24年日本水彩画会会員。春陽会会員。44年東京美術学校彫刻科教授。50年日本芸術院会員。73年3月17日没、享年85歳。（佐）洋画、彫刻、水彩、美教、版画、浮世絵

石井鼎湖（いしい・ていこ/1848～1897 年）
鈴木鵞湖の次男。江戸生れ。1863年石井家を継ぐ。父に絵を学び、幕末にフランス語も学ぶ。70～98年大蔵省に出仕,公債証書や紙幣の下図図案を描く。77年中丸精十郎に洋画も学び,年明治美術会創立に参加。97年日本南画会の結成に参加。長男は洋画家石井柏亭、次男は彫刻家石井鶴三。1897年没、49歳。日本画、洋画、図案

石井滴水（いしい・てきすい/1882～1945年）
東京生れ。鏑木清方の門人。林緑水に次ぐ門人。1904年烏合会展に作品を出品。06年美術研精会展、

烏合会展、日本美術協会展に出品。09年巽画会展に出品。12年『読売新聞』に挿絵を担当した。清方らの結成した烏合会に参加。創刊当時の『主婦の友』に挿絵を描いた。清方の門人による郷土会の展覧会に出品。日本画、挿絵、版画

石井利秋（いしい・としあき/1911～2001 年）
福岡県生れ。1925～27年三井田川鉱業所勤務。上京、32年に日本美術学校洋画部入学。大久保作次郎に師事。36年帰郷、三井田川に勤務。37年絵画グループ「彩人社」を結成。46年三井田川洋画同好会結成参加。56年モダンアート展入選、67年会友、福岡支部長、69年会員。71年女坑夫や炭鉱災害を描いた。2001年没、90歳。洋画　100

石井柏亭・満吉（いしい・はくてい・まんきち/1882～1958 年）
東京生れ。父は石井鼎湖、弟は鶴三。水彩画を独学。1897年浅井忠に師事。1904年東京美術学校西洋画科入学、中退。07年「方寸」の創刊参加。10～12年渡欧。13年日本水彩画会を創立。14年二科会を結成。36年一水会を結成。37年日本芸術院会員。東京で没、76歳。洋画、水彩、美評、版画、日本画、浮世絵

石井　博（いしい・ひろし/1910 年～没年不詳）
福岡県生れ。1928年台北第一師範学校演習科卒。60年日本水彩展入選、67年奨励賞、68年会友、79年会員。74年白日会入選. 以後連続入選. スター賞. 会友、76年会友奨励賞、77年会員、78年退会。59年長崎県展入選、67年県展毎日新聞社賞。75年県展西日本新聞社賞、76県展西日本新聞社賞。77年県展奨励賞。78年県展審査員。洋画

石井弥一郎（いしい・やいちろう/1898～1972 年）
山形県に生れ。1916年上京、川端画学校、太平洋画会研究所、のち前田写実研究所に学ぶ。1930年「一九三〇年協会」展入選。槐樹社展に出品入選。第一美術協会展に入選。34年大谷大学美術部の講師。新興美術協会展で受賞。33年春陽会展に入選。36～38年渡欧。京都大丸、大阪阪急で個展。50年太平洋画会評議委員。68年太平洋展で藤井記念賞。横浜市で没、74歳。洋画、水彩

石井了介（いしい・りょうすけ/1897～1984 年）
熊本県生れ。1916年旧県立玉名中学校卒、京都絵画専門学校で2年間学んだのち、26年東京美術学校日本画科卒。28，29年日本創作版画協会に木版画出品。31年日本版画協会展に出品。32年日本版画協会会員。晩年「白秋詩歌版画シリーズ」を手がける。78年熊本県芸術功労者賞。1984年没、87歳。日本画、版画

石井林響（いしい・りんきょう/1884～1930 年）
千葉県生れ。共立美術学館中退。橋本雅邦に師事。文人画を描く。1902年ごろから展覧会で入賞、11年文展で「白映」が褒状。19年如水会の結成に参画。「西に関雪、東に林響」と評された。1930年没、47歳。日本画、文人画、版画

石内　都（いしうち・みやこ/1947 年～　）
群馬県生れ。多摩美術大学デザイン科入学。大学2年より染織専攻中退。1979年写真集「APARTMENT」、「アパート」で木村伊兵衛賞。99年東川賞国内作家賞。2006年日本写真協会賞作家賞。09年毎日芸術賞。11年神奈川文化賞。13年紫綬褒章。14年ハッセルブラッド国際写真賞。94年グッゲンハイム美術館で「戦後日本の前衛美術」展に招待。05年ヴェネツィア・ビエンナーレ日本代表。15年 The J. Paul Getty Museum で個展。17～18年横浜美術館にて「肌理（きめ）と写真」展が開催。皮膚や衣類と時間とのかかわりをテーマにした写真を撮り続けており、代表作に広島原爆で被爆した衣類を被写体とした「ひろしま」、フリーダ・カーロの遺品を撮影した「フリーダ　愛と痛み」など。写真

石踊紘一（いしおどり・こういち/1941 年～　）
旧満州生れ。1946年帰国。64年東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻卒。65～73年新制作協会春季展出品。67年新制作協会春季展で春季展賞。法隆寺金堂壁画模写（吉岡班）従事。第 31 回新制作協会展で新作家賞。69年新制作協会展で新作家賞。71年個展（紀伊国屋画廊）。74～96年創画展。インド・スリランカ旅行。83～84年文化庁芸術家在外研修員としてインドに渡り、インド古典絵画を学ぶ。87年個展（高島屋，東京）。日本画

石垣栄太郎（いしがき・えいたろう/1893～1958 年）
和歌山県生れ。新宮中学校中退。1909年渡米。14年カリフォルニア州立美術学校、15年NY、アート・スチューデント・リーグに学び、ジョン・スローンに師事。25年独立美術協会展に出品。39年美術家団体アーチスト・コングレスの結成に奔走して展覧会に出品。29年ジョン・リード・クラブ結成後、リベラ、オロスコ、タマヨらと交友。36年アメリカ美術家会議創立に委員。51年帰国、55年岡本唐貴らと「点々会」に参加。庶民の生活、民衆の怒り、悲しみ、反逆、風俗を主題に制作。東京で没、64歳。洋画

石垣定哉（いしがき・さだや/1947 年～ ）
三重県生れ。1970年愛知県立芸術大学油画科卒。74年白日会記念展で文部大臣奨励賞。75年米留学プラット・インスティチュート版画コース(NY)、76年プラットプリント展賞。81年白日会会員。86年白日会展作品で内閣総理大臣賞。86年昭和会賞。伊、NY、パリ、台湾、シンガポール等海外で個展。95年刈谷市美術館で個展。版画

石上純也（いしがみ・じゅんや/1974 年～ ）
神奈川県生れ。2000年東京藝術大学大学院美術研究科建築専攻修士課程修了。04年石上純也建築設計事務所設立。09年東京理科大学非常勤講師。10年東北大学大学院特任准教授。14年ハーバード大学デザイン大学院客員教員。(株)石上純也建築設計事務所主宰。日本建築学会賞、ヴェネツィア・ビエンナーレ金獅子賞。建築、一級建築士

石亀忠利（いしがめ・ただとし/1902 年～没年不詳）
鳥取県生れ。倉吉中学校在学中に「砂丘社」の創立に参加し、以後メンバーとして活動した。1922年の「砂丘」3号では、前田利三とともに編集を担当し、24年まで「砂丘」の表紙絵を描いた。洋画

石川　勇（いしかわ・いさむ/1922～1989 年）
岐阜県生れ。1949年東京美術学校卒。63年まで区立中学校美術の教職。59年新制作展で新作家賞。63年メキシコにわたり、その後ニューヨークのアート・スチューデント・リーグに学ぶ。65年レッドスター賞（アート・スチューデント・リーグ）。71 年東京デザイナー学校で教職に就く。73年「るるのほし」福音館書店絵本。79年「ジャングルブック」福音館書店挿絵。1989年没、66歳。洋画、絵本、挿絵、美教

石川確治（いしかわ・かくじ/1881～1956 年）
山形県生れ。1905年東京美術学校彫刻科卒。08年文展入選。20年帝展無鑑査、22年審査員。帝展改組の35年小倉右一郎、日名古実三ら旧帝展第3部(彫刻)無鑑査級の有志と反帝展を唱え、第3部会を結成。40年同会は国風彫塑会と改称。戦後は日展に属して出品依嘱者。木彫「女性」「安宿媛像」、塑像「呉秀三博士像」が代表作。1956年没、74歳。彫刻

石川華香（いしかわ・かこう/1903～1981年）
愛知県生れ。日米美術協会会長。米国水彩画協会会員。1981年没、77歳。田原市高松町出身の水彩画家、石川華香さんの遺族、石川正博さん＝田原市高松町＝らは、華香さんの作品74点を田原市博物館に寄贈。水彩

石川　響（いしかわ・きょう/1921～2000 年）
千葉県生れ。1942年東京美術学校図画師範科卒。岩手県立黒沢尻中学校、千葉県立長生高等学校で教鞭。54年結城素明の紹介で加藤栄三に師事。66年新日展で特選・白寿賞。73年改組日展特選。76年日展審査員、77年日展会員、90年日展評議員、98年改組日展で内閣総理大臣賞。2000年千葉県芸術文化功労賞、勲四等瑞宝章。90年に日本橋高島屋にて個展。90年には東方研究会・インド大使館より東方学術賞。鎌倉市で没、79歳。日本画、美教

石川欽一郎（いしかわ・きんいちろう/1871～1945 年）
静岡市生れ。1888年東京電信学校入学。92年明治美術会展出品。99～1900年渡欧。01年巴会を結成に参加。05年『みずゑ』に水彩画速写法を投稿。07～16年、24～32年台湾の美術教育に携わり、24年台湾師範学校で美術を教える。27年台湾美術展の創立に参加。13年日本水彩画会創立発起人、会員。25年光風会会員、35年光風会評議員。東京で没、74歳。洋画、水彩

石川健治（いしかわ・けんじ/1915～1980年）
東京生れ。太平洋美術学校卒、元創造美術会創立会員。1980年没、65歳。洋画

石川晃治（いしかわ・こうじ/1968 年～ ）
大阪生れ。1991年大阪芸術大学芸術学部美術学科版画専攻卒、個展（番画廊・大阪、92年も）、吉原治良賞美術コンクール展でグランプリ。93年個展（福岡市美術館市民ギャラリー）、TOKYO まちだ国際版画展（町田市立国際版画美術館）。97年クラコウ国際版画トリエンナーレ（ポーランド）。98年現代版画コンクール展（現代美術センター・大阪）・優秀賞。版画

石川宰三郎（いしかわ・さいさぶろう/1891～1947 年）
栃木県生れ。1913年早稲田大学文学部卒、美学及美術史を専攻、14年より美術雑誌『審美』の編輯主任。25年美之国社を創設、美術雑誌『美之国』発刊、主幹として編輯。報知新聞、都新聞、やまと新聞等の美術記者として批評等を執筆、又早稲田美術学会幹事、東京都美術館評議員、「離騒社」幹事。著書に「明治大正昭和日本絵画史」がある。1947年没、57歳。美評、美術記者、美術雑誌、美之国社を創設

石川重信（いしかわ・しげのぶ/1904～1972 年）
藤島武二に師事。長く第一美術協会にあって、会のため尽力した。第一美術協会委員長。1972年東京

で没、68歳。2001 年石川重信回顧展、石川栄子。洋画

石川滋彦（いしかわ・しげひこ/1909～1994 年）
東京生れ。父は石川欽一郎。1932年東京美術学校油画科卒、36年研究科修了。38、39年文展連続特選。39年光風会会員。47年新制作派協会会員。56～57年渡欧。66年北米旅行。69年濠、南太平洋旅行。86年長谷川仁記念賞。42年東京帝国大学工学部講師、47年学習院大学講師、東海大学教育学部で教鞭。東京で没、84歳。洋画、美教

石川 義（いしかわ・ただし/1930～2009 年）
石川県生れ。1947年金沢美術工芸専門学校入学、当初彫刻専攻、日本画科に転科。大学在学中の52年日展入選。53年堂本印象の主宰する画塾東丘社に入塾。54年金沢市立美術工芸短期大学修了。活動の拠点を京都に移す。59、68年新日展で特選。69年改組日展で菊華賞。80年改組日展で会員賞。88年日展評議員。2000年金沢学院大学美術文化学部日本画教授。01年日展文部科学大臣賞。2009年没、78歳。日本画、美教

石塚常男（いしかわ・つねお/1910～1985年）
1910年生れ。道展会員。小樽画壇創立会員。1976年一水会会員、78年一水会展で会員優賞。1985年没、75歳。洋画

石川豊信（いしかわ・とよのぶ/1711～1785 年）西村重信
西村重長の門人で一時は西村重信と称した。号は咀篠堂，秀葩。作品は初め細判の漆絵が多く，のち紅摺絵を制作。特に紅摺絵の美人画にすぐれる。その子雅望(まさもち)は宿屋飯盛と称し狂歌師として有名。主要作品「花下美人図」。江戸で没、74歳。江戸中期の浮世絵師、漆絵、紅摺絵

石川寅治（いしかわ・とらじ/1875～1964 年）
高知市生れ。1891年上京、不同舎で小山正太郎に師事。1901年太平洋画会創立会員。02～04年渡欧米。17年文展無鑑査。文展、帝展、新文展、日展に出品、のち委員、監事、審査員。賞多数。43年太平洋美術学校校長。47年示現会を創立、代表。49年東京教育大学講師。53年日本芸術院賞恩賜賞。東京で没、89歳。洋画、水彩、版画、美教

石川寅治 Ⅱ（いしかわ・とらじ/1875～1964 年）
高知県生れ。1888 年この頃、上村昌訓に洋画を学ぶ。91 年上京、不同舎に入門。93 年第 5 回明治美術会展に出品。以後 7～9 回展に出品。95 年浅草の日本パノラマ館での小山正太郎の助手を務める。1900年パリ万国博覧会に出品。02 年太平洋画会の結成に参加。渡米欧、03 年帰国。04 年雑誌「明星」の挿絵担当。07 年東京勧業博覧会で三等賞。08 年第 6 回太平洋画会展で三等賞。09 年第 3 回文展で褒状。13 年第 7 回文展で二等賞。16 年サンフランシスコ世界博覧会で三等賞。17 年第 11 回文展で推薦となり、以後無鑑査。19 年第 1 回帝展で審査員。47 年示現会創立会員。50 年第 6 回日展で参事。53 年日本芸術院賞。64 年 8 月 1 日没、享年 89 歳。(佐)洋画、水彩、版画、美教

石川晴彦（いしかわ・はるひこ/1901～1980 年）
京都府生れ。1914年京都市立美術工芸学校絵画部入学、18年中退。入江波光に師事。細密描写を試み、23年村上華岳に認められる。24，26年に国画会展連続入選。28年新樹社会員。29年新樹社解散後、公募展から離れ仏画や水墨画による山水画の個展を中心に発表する。華岳の影響を受け水墨作品制作。36年妻の病死を機に水墨の仏画を描く。1980年没、78歳。(橋) 日本画、水墨

石河彦男（いしかわ・ひこお/1917～1986 年）
豊橋市生れ。1939年東京美術学校図画師範科卒。朝鮮総督府に奉職、朝鮮郡山公立高等女学校で教師。46年豊橋市展大映賞。愛知県豊橋市立工業学校兼豊橋市立商業学校教師、愛知県立芸術大学非常勤講師を経て、名古屋芸術大学美術学部教授。48年光風会展入選、53年会友推挙、54年会員。48年日展入選、54年日展特選、翌年無鑑査、62～75、78年委嘱出品、79年日展審査員、日展会員。名古屋芸術大学のアトリエで没、68歳。洋画、美教

石川真生（いしかわ・まお/1953年～ ）
沖縄県まれ。1974年WORKSHOP写真学校東松照明教室で学ぶ。2011年『FENCES，OKINAWA』でさがみはら写真賞。一貫して沖縄人と、沖縄に関係する人々の生きざまを撮り続けている。『森花 夢の世界、石川真生×吉山森花』。写真

石川 誠（いしかわ・まこと/1895年～没年不詳）
仙台市生れ。上京。日本美術学校卒。1922年平和記念東京博覧会に出品。24～27年、滞欧。27～28年帝展に出品。30～33年再滞欧。33年帝展に出品。同年、石川誠滞欧作品展（日比谷美松）。40年個展（資生堂ギャラリー）。洋画

石川 實（いしかわ・みのる/1928～2018 年）
東京生れ。1949年東京第二師範学校本科卒。52年光風会展入選、93年辻永記念賞、名誉会員。59年日展入選、63年新日展特選、83年改組日展特選。98年審査員。2018年没、89歳。洋画

石川順惠（いしかわ・ゆきえ/1961 年～ ）
東京生れ。1983年武蔵野美術大学油絵学科卒。2
007年「プライマリー・フィールド美術の現在－七つの＜場＞との対話」（神奈川県立近代美術館葉山館）、13年「ミニマル／ポストミニマル　作品は広島市現代美術館、いわき市立美術館、神奈川県立近代美術館、国立国際美術館に所蔵。砂を混ぜた絵具や点苔の技法などを用いて、旧作にレイヤーやグリッド、線を加えていくことで画面を再構成した「Impermanence（非永続性）」シリーズを発表。現代美術

石栗長三郎（いしぐり・ちょうざぶろう/1911～1976 年）
鶴岡市生れ。1930年山形県立鶴岡工業学校建築家卒。39年太平洋美術学校研究科卒。中村不折、石川寅次に師事。39年東京新宿中村屋菓子店図案部に勤務。43年太平洋画会会員。46年鶴岡工業学校で図画工作教諭。70年羽黒工業高等学校（現 羽黒高等学校）の美術教諭。1976年没、65歳。洋画、美教

石黒 昭（いしぐろ・あきら/1974 年～ ）
神奈川県生れ。「A Steganographic Romance」シリーズ、大理石の表層を絵画作品として極めてリアルに再現した「GRAVITATIONAL FIELD」シリーズなど、虚実の考察をテーマに、古典絵画や天然石といった“本物”に対置する“フェイク”として作品を制作。16年「虚実の捻じれのはざま」（旧田中家住宅、埼玉）、「GRAVITATIONAL FIELD」シリーズの未発表大型作品とともに、大理石の生成過程と自身の熱量による変成作用をモチーフに描いた新作の平面シリーズ「Marblesque」を個展で発表。現代美術

石黒賢一郎（いしぐろ・けんいちろう/1967 年～ ）
静岡県生れ。1992年多摩美術大学美術学部絵画科油画専攻卒、94年同大学大学院修了。99年昭和会賞展日動火災賞受賞（日動画廊）。2000年彩樹会（彩鳳堂画廊）。01年文化庁芸術家派遣在外研修員としてスペインへ、アカデミア・アルティウム・ペーニャ修学、第 20 回ミニアチュール展（彩鳳堂画廊）02年コンプルテンセ大学マドリード校修学。07年DOMANI・明日展－未来を担う美術家たち2007年＜文化庁芸術家在外研修の成果＞（損保ジャパン東郷清児美術館）。前田寛治大賞佳作賞 1 席。洋画

石黒鏘二（いしぐろ・しょうじ/1935～2013 年）
名古屋市生れ。1958年東京藝術大学美術学部彫刻科卒、石井鶴三の教室に学ぶ。61年より豊橋のマネキン制作会社に勤務。69年より身近な題材をモチーフとした鉄溶接による彫刻作品を発表、70年代後半からはステンレス・スチールによる抽象的な野外彫刻を数多く手がける。79年ヘンリー・ムーア大賞展佳作賞、83年同優秀賞、85年同彫刻の森美術館賞。現代日本彫刻展宇部市野外彫刻美術館賞。89年愛知県芸術文化選奨文化賞。2004文部科学省地域文化功労者賞。67年名古屋造形芸術大学で教鞭、98年から2006年まで名古屋造形芸術大学学長。2013年没、78歳。彫刻、美教、大学長

石河光哉（いしこ・みつや/1894～1979 年）
長崎県生れ。1911年青山学院卒。本郷洋画研究所に学ぶ。1921年東京美術学校西洋画科卒。21年帝展に初入選。21年長崎県立女学校絵画教師。21年前田寛治と渡仏留学。26年以後、聖地画行脚を4回実施。プロテスタント画家。内村鑑三のデスマスク制作。46年日展入選のち無所属。79年没、85歳。洋画、美教

石坂春生（いしざか・はるお/1929～2020 年）
神戸市生れ。関西学院大学卒、小磯良平に師事。1959年新制作展に入選。67年新制作協会会員。74年金山平三記念美術賞。83年神戸市民文化賞。2006年神戸市立小磯記念美術館で個展開催。2020年没、90歳。洋画

石崎光瑤（いしざき・こうよう/1884～1947 年）
富山県生れ。1896年上京して山本光一に琳派を学び、1903年京都に移って竹内栖鳳に師事。インド旅行の取材による《熱国妍春》で18、19年文展特選。24年帝展委員。36年京都市立絵画専門学校教授。高野山金剛峯寺襖絵を制作。京都で没、63歳。版画は「義士大観」等残す。日本画、美教、版画

石崎重利（いしざき・しげとし/1901～1999年）
愛媛県生れ。鷹田其石に師事し、日本画を学ぶ。1921年頃から木版画を始め、24年日本創作版画協会に入選。32年日本版画協会会員。同会の企画した「新日本百景」の《宮島》も担当している。27、28年帝展に入選。国画会展にも出品。また、創作版画誌にも参加し、『HANGA』、素描社の『版画』、『きつつき版画集』に木版画を発表している。52年に愛媛県美術会常任理事、愛媛県美術展審査員、72年愛媛県美術会名誉会員。愛媛県で没、98歳。版画

石崎融思（いしざき・ゆうし/1768～1846 年）
1768年生れ。西洋絵画輸入に関係して増員された唐絵目利荒木家の二代目荒木元融の子、唐絵の師・

石崎元徳の跡を継いで石崎を名乗った。父元融から西洋画も学び、南蘋画、文人画、浮世絵にも通じ長崎画壇の大御所的存在。門人は300余人。川原慶賀、父香山とも親しかった。荒木家を継いだ如元との関係はあまりよくなかった。1846年没、79歳。江戸絵師、長崎派、文人、浮世絵

石沢　清（いしざわ・きよし/1923～2002年）
長野県生れ。奥田郁太郎に師事。武蔵野美術学校に編入、美術教師。白馬中学に20年、松本聾学校に17年間勤めた。松本筑摩高校定時制に非常勤講師を15年勤めた。1957年一水会展に入選。58年日本水彩画会展に入選。73年日本水彩画会会員。一水会会員。日展会友。日本水彩画会展で内閣総理大臣賞。2002年没、79歳、洋画、水彩、美教

石田茂嗣（いしだ・しげつぐ/1918～1995年）
島根県生れ。1951年多摩造形芸術専門学校卒。84年光風会会員。多摩美術大学講師。川崎で没、75歳。画家いしだ典子の父。洋画、美教

石田　武（いしだ・たけし/1922～2010年）
京都生れ。1940年京都市立美術工芸学校図案科卒、図案を山鹿清華、日本画を森守明、洋画を太田喜二郎に学ぶ。大阪丸高商事宣伝部に入社。46、47年京都新制作研究所に学び、桑田道夫の指導を受ける。50年頃より児童図書のイラストを描く。59年東京に居を写し、動物図鑑などの挿絵。67年小説家の戸川幸夫とともにアフリカ、ヨーロッパに旅行。68年『世界の動物』『世界の鳥』を仏など数か国で出版した。71年日本画に転向し、73年山種美術館賞展で大賞。79、85年東京セントラル絵画館、92年西武アートフォーラムで個展。2010年没、88歳。動物図鑑挿絵、日本画、洋画

石田徹也（いしだ・てつや/1973～2005年）
静岡県生れ。1992年静岡県立焼津中央高校卒、92武蔵野美術大学伝達デザイン科入学。95年グラフィックアート「ひとつぼ展」グランプリ。96年毎日広告デザイン賞優秀賞。95年同校卒。97年毎日広告デザイン賞奨励賞。97JACA日本ビジュアル・アート展グランプリ。98年キリン・コンテポラリーアワード奨励賞。99年銀座ギャラリーQ&QS個展開催。2001年VOCA展2001で奨励賞。2005年没、31歳、06年「石田徹也遺作集」（求龍堂）刊行。06年NHK新日曜美術館「悲しみのキャンバス・石田徹也の世界」放映。07年焼津市教育委員会特別表彰、07年静岡県立美術館県民ギャラリー「石田徹也―悲しみのキャンバス」展開催。洋画、グラフィック

石田正典（いしだ・まさのり/1915～2001年）
宮崎県生れ。1937年岡山二中中退。小林喜一郎の画塾「赤坂洋画研究所」に通う。41年春陽会入選。65年同会審査員。69年渡欧、留学。津山に「津山洋画研究所」を開所、後続の育成に尽力。岡山市山崎に転居し、2001年没、85歳。洋画、美教、洋画研究所

石田益敏（いしだ・ますとし/1873～1936年）
静岡県生れ。1890年曽山幸彦に師事。92年明治美術会教場に入学。第4回明治美術会展に出品。以後8回まで出品。94年同教場卒。95年第4回内国勧業博覧会に出品。1900年東京美術学校西洋画科卒。02年千葉県佐倉中学校教諭。07年茨城県土浦中学校へ転任。18年第6回光風会展に出品。以後8回まで出品。30年土浦中学校を退職。36年10月30日東京で没、享年63歳。（佐）洋画、美教

石田　黙（いしだ・もく/1923～1984年）
秋田県生れ。復員後、東京芸術大学卒。二科展で入選7回。1970年二科展で特選。72年二科展で会友特賞。71年神奈川県美術展で特選。73年横浜、大阪三越で個展。75年日伯美術展優秀賞。沖縄海洋博絵画コンクールに次席。84年没、61歳。洋画

石田幽汀（いしだ・ゆうてい/1721～1786年）
兵庫県生れ。名は守直。狩野派の鶴沢探鯨に絵を学ぶ。法眼に叙される。円山応挙や田中訥言、原在中の師と伝えられる。1786年没、65歳。江戸中期の絵師

石塚三郎（いしづか・さぶろう/1907～1991年）
福井県生れ。1931年帝展に入選。33年東京美術学校西洋画科卒。35年二部会展に出品。40年創元会創立と同時に出品、45年創元会会員、76年常任委員。47年日展入選、以後20回入選。72年渡欧。80年回顧展開催。1991年没、84歳。洋画

石野宣三（いしの・せんぞう/1900～1931年）
札幌第一中学校中退。北海タイムス勤務。道展創立会員。1928年上京、二科展、春陽会展、「一九三〇年協会展」に出品。1931年没、31歳。洋画　150

石野安親（いしの・やすちか/1909～1987年）
東京生れ。1931年東京美術学校図画師範科卒、58年光風会会員。元大潮会会員。群馬美術会常任理事。1987年没、77歳。洋画

石橋和訓（いしばし・かずよし/1876～1928年）
島根県生れ。滝和亭に南画を学ぶ。1903年渡英。

07年ロイヤル・アカデミー卒。08年第2回文展で三等賞、09年第3回文展で三等賞。10年第5回文展から第6回まで英国から出品。19年第1回帝展推薦出品。以後8回まで連続出品。その間、展覧会委員、審査員を務める。20年から24年渡英。28年5月3日没、享年52歳。(佐)洋画

石橋宏一郎（いしばし・こういちろう/1911～1993年）
八戸市生れ。二科会評議員。八戸市の美術界のリーダー的存在。1993年没、82歳。2001年八戸美術館で石橋宏一郎をめぐる作家たち展開催。洋画

石橋幸子（いしばし・さちこ/1922～1985年）
兵庫県生れ。関西女子美術学校卒。女流画家協会会員。独立美術協会会友。1985年、63歳。洋画

石橋繁雄（いしばし・しげお/1912～没年不詳）
兵庫県生れ。1937年大坂東光会洋画研究所で斎藤与里に師事。東光会展入選。38～46年渡中。49年須田剋太、津高和一、辻愛造らと西宮市美術協会創立。63年国展で新人賞、作品が朝日ジャーナルの表紙に採用。69年国画会会員。70年東京西部百貨店、神戸そごう百貨店で個展。没年不詳。洋画

石橋正二郎（いしばし・しょうじろう/1889～1976 年）
福岡県生れ。1906年久留米商業卒。1931年ブリヂストンタイヤ(株)を設立、63年まで社長。会長、相談役を歴任。東西の美術品の蒐集家。レンブラント、モネ、セザンヌ、ゴッホのヨーロッパ絵画や、青木繁、坂本繁二郎ら日本作家の作品は、52年に設立されたブリヂストン美術館に収蔵。54年ヴェネツィアのビエンナーレ日本館、69年東京国立近代美術館の建設費を寄贈、久留米市の石橋文化センターを寄贈、私立久留米大学の設立。日伊協会会長。60年仏国よりレジョン・ドヌール勲章、61年伊国よりメリスト勲章、64年勲二等瑞宝章、没後従三位に叙し勲一等瑞宝章。東京で没、87歳。ブリヂストン美術館創立、コレクター

石橋武治（いしばし・たけじ/1890～1971年）
茨城県生れ。1912年光風会展に出品。16年東京美術学校西洋画科卒。33年光風会展で光風賞、37年同会会員。34年帝展入選、以降出品。1971年没、80歳。洋画

石橋武治（いしばし・たけはる/1890～1971 年）
茨城県生れ。水海道中学卒、白馬研究所で洋画を学び。1911年東京美術学校西洋画科入学、14年中退。12年光風会展入選。33年帝展入選。故郷の水郷を主題とした風景画を数多く描いた。光風会評議員を務め、日展委嘱として活動、49年の千葉県美術会の創立に参加し、審査員、常任理事。1971年没、81歳。洋画

石橋美三郎（いしばし・みさぶろう/1893～1968 年）
福岡県生れ。県立中学伝習館を中退、太平洋美術研究所に学ぶ。大正後期から太平洋画会展で活躍、のち会員、同会幹部。二科展、一水会展、示現会展に出品。昭和初期、福岡県内や九州各地で個展を毎年のように開催。福岡県美術協会の創設に加わり、東京筑後美術展に参加。1968年没、75歳。洋画

石橋泰幸（いしばし・やすゆき/1930～2001 年）
東京生れ。前衛芸術集団「九州派」のメンバー。石橋のフェルトを使った作品(制作時期不明)も興味深い。柔らかなマチエールを感じさせる黒いフェルトを張った画面に、電気ゴテを当てて線を引いた。九州派時代のアスファルトを使った作品とは裏腹に、全体の雰囲気は落ち着いているが、その攻撃的な線に、九州派の名残を感じる。福岡市美術館蔵・3点の油彩作品。2001年没、71歳。洋画、前衛、九州派、造形

石橋和訓（いしばし・わくん・かずのり/1876～1928 年）
島根県生れ。滝和亭に南画を学ぶ。1903年渡英。 07年ロイヤル・アカデミー卒。08、09年文展で三等 賞。10年第 5 回文展から第 6 回まで英国から出品。19年第 1 回帝展推薦出品。以後 8 回まで連続出品。その間、展覧会委員、審査員を 務める。20～24年渡英。1928年没、52歳。洋画

石原悦郎（いしはら・えつろう/1941～2016 年）
東京生れ。立教大学法学部卒。1971年パリ留学。写真家ロベール・ドアノーやアンリ・カルティエ=ブレッソン、写真プリント制作の第一人者ピエール・ガスマンらの知遇を得、作品を購入。78年ツァイト・フォト・サロンを日本橋室町に開業。日本で初の、写真のオリジナル・プリントの展示・販売を専門。植田正治、桑原甲子雄など戦前から活動歴のある作家の展示の他、同時代の一線で活動していた森山大道、荒木経惟、北井一夫らの作品を扱い、柴田敏雄、畠山直哉、オノデラユキ、松江泰治、鷹野隆大ら手掛ける。82年には自身のコレクションで構成した「フォトグラフィ・ド・ラ・ベルエポック:花のパリの写真家たち 1842―1968」を神奈川県立近代美術館で開催。2003年日本写真協会賞文化振興賞。2016年没、74歳。ツァイト・フォト・サロン開業

石原　薫（いしはら・かおる/1928～1980 年）
京都市生れ。41年国盛義篤に洋画の初歩を学ぶ。1945年新制作京都研究所で学ぶ。55年関西新制作展で新作家賞。57年新作家展で新作家賞。75年京都新聞連載小説に挿絵。76年シェル美術賞展で三等賞。京都で没、52歳。洋画、挿絵

石原壽市（いしはら・じゅいち/1914？～没年不詳）
大阪生れ。1933年東京美術学校油画科予科に入学。34年本科に進み、南薫造教室に学ぶ。34年萩原英雄・杉原正巳と版画研究会を結成。37年日本版画協会展で協会賞。38年東京美術学校油画科卒。38年国画会展に木版画を出品。ビルマ（現ミャンマー）で戦死したと伝えられる。洋画、版画

石原長光（いしはら・ちょうこう/1886～1950 年）
山梨県生れ。17歳で上京、神田の語学学校に通い、白馬会絵画研究所で黒田清輝、和田英作に師事し、油彩画を学ぶ。1916年訪中スケッチ。21年渡仏、留学、アカデミー・コラロッシで画家のシャルル・ゲランに師事。23年春から突然結核性の眼病、24年には帰国船を待ちつつ左目だけで描いた作品が帝展入選、またパリ時代の作品が光風会賞。39年月に故郷に戻り絵画とは無縁な静かな余生を過ごした。1950年没、64歳。洋画

石原長光Ⅱ（いしはら・ちょうこう/1886～1950 年）
山梨県東八代郡生れ。17 歳で上京、語学を学びながら白馬会研究所に通う。1907 年第 11 回白馬会に入選。13 回まで出品。16 年中国を旅する。21 年渡仏、アカデミー・フラロッシに入学、シャルル・ゲランに師事。23 年眼病で右目の視力を失う。24 年第 5 回帝展に入選。25 年第 12 回光風会展で＜エチュード＞が光風賞。丸善で個展開催。この年、一家で山梨に帰る。50 年山梨県で没、享年 64 歳。（佐）洋画

石原友明（いしはら・ともあき/1959年～　）
大阪生れ。1984年京都市立芸術大学大学院修了。カンヴァスに直接自身の姿を焼き付けた写真作品で注目を集め、88年ヴェネツィア・ビエンナーレの若手作家部門「アペルト88」に出品。その後も革を用いた彫刻や点字による絵画など、美術の枠組みそのものを問い直す作品を発表。98年栃木県立美術館で大規模な回顧展を開催。西宮市大谷記念美術館で99年に写真作品を集めた「石原友明展Self Portraitsわたしとその背後」、2004年に新作のインスタレーションによる「石原友明展　i（アイ）」を開催。美術、写真、彫刻、洋画

石原延啓（いしはら・のぶひろ/1966年～　）
神奈川県生れ。父は石原慎太郎。1989年慶應義塾大学経済学部卒。91年スクール・オブ・ビジュアルアーツ（米国、NY）ファインアート科卒。東京、NYで個展。「トーキョーワンダーサイト」の外部役員を務めた。ダボス会議における都主催のイベント、いわゆる「東京ナイト」の舞台背景の制作。洋画、舞美

石原白道（いしはら・はくどう/1856～1916年）
江戸生れ。日本画を住吉内記に学び、洋画を石丸七三郎、鈴木雪村、川村清雄に学ぶ。1890年第3回内国勧業博覧会で三等妙技賞。97年明治美術会展に出品、98年同創立10周年記念展にも出品。明治美術会会員。1902年明治美術会解散後、川村清雄、東城鉦太郎、河久保正名、石川欽一郎、塚本律、織田一麿、二世五姓田芳柳らと巴会を結成し出品を続ける。04年日露戦争の従軍画家として出兵。1916年8月没、享年61歳。（佐）洋画

石原秀雄（いしはら・ひでお/1951 年～　）
名古屋市生れ。1981年中日展で大賞、インドに旅行。82年松阪彫刻シンポジウムに参加、スリランカに旅行。92年美濃加茂シンポジウム’92に参加。93年第 15 回記念中日展受賞作家展に出品。94年第 14 回神戸須磨離宮公園現代彫刻展で、三重県立美術館賞と東京国立近代美術館賞。彫刻

石原宏策（いしはら・ひろさく/1914～1998 年）
幻の画家。1973年作幻の油彩作品制作。国画会会員、瑛九と親交。1998年没、84歳。洋画

石原靖夫（いしはら・やすお/1943年～　）
京都生れ。東京藝術大学油画科卒。1970～79年伊政府給費留学、イタリア国立ローマ修復研究所に学ぶ。シエナ派テンペラ板絵を学ぶ。安井賞展に出品。有楽町アートフォーラム個展。金箔と卵黄を使ったテンペラによる細密な絵画を描いている。洋画

石原義武（いしはら・よしたけ/1896～1981年）
岡山市生れ。1916　年岡山県師範学校本科卒。吉富朝次郎、吉田苞に師事した。25年から母校である師範学校の教壇に立つ。26年回帝展入選、帝展、文展、日展に入選。創元展出品、創元会岡山支部長。岡山県美術振興協議会会長。1981年没、85歳。洋画、美教、美普

石丸　一（いしまる・はじめ/1890～1990 年）
徳島県生れ。京都帝国大学医学部卒。信濃橋洋画研究所に学び、黒田重太郎に師事。1927年以降全関西洋画協会に毎回出品。28年青窓会を結成。30

年解散し、ロボット洋画協会を結成。38年九室会結成に参加。戦後は医業しながら汎美術家協会展、関西展に出品。90年没、100歳。洋画

石嶺傳郎（いしみね・でんろう/1928～2006 年）
沖縄県生れ。1946年沖縄文教学校師範部卒。54年沖縄教職絵画展で銀賞、教職員会長賞。56年新世紀美術協会展で日額賞。会友推挙、60年会員。57年沖展会員推挙、運営委員。72年沖縄タイムス芸術選賞、奨励賞。79年世紀展（東京都美術館）で、N氏賞・会員特別賞。沖縄タイムス芸術選賞、大賞。2006 年没、78歳。洋画

石村 実（いしむら・みのる/1953 年～ ）
静岡県生れ。愛知県立芸術大学大学院修了。アクリル絵の具やパステル、着色した紙のコラージュによる表現、プリント生地の上から描画、幅ひろい描画のバリエーション、色彩のフィールドワークを展開。シャルダンの静物画を下絵に、その上から様々な色彩を加えながら描画の過程を変化させる、いわゆる描く行為そのもののバリエーションで変化させながら新しい表現の可能性を追求。作品集『IMAGINATION』、2007年の第 3 集。現代美術、水彩、パス、コラー

石本暁曠（いしもと・ぎょうこう/1888～1935 年）
島根県生れ。1905年京都美術工芸学校卒、後、米原雲海に師事。31年帝国美術院より推薦、帝展無鑑査、33年京都市美術工芸学校の教員に任命。1935年没、48歳。彫刻、美教

石本 正（いしもと・しょう/1920～2015 年）
島根県生れ。1944年京都市立絵画専門学校日本画科卒。47年大阪の高校美術教師、日展入選。49年京都市立美術専門学校助手。51年創造美術展と新制作派協会が合同、新制作協会で新作家賞、同会の会友、56年新作家賞、会員。60年村越画廊・彌生画廊主催「石本正個展」。71年芸術選奨文部大臣賞、舞妓をテーマとしたシリーズで第 3 回日本芸術大賞。70年京都市立美術大学教授。74年創画会。2001年島根県に石本正美術館が開館。2015年没、95歳。日本画、美教、個人美術館

石本秀雄（いしもと・ひでお/1908～1986 年）
長崎市生れ。1931年東京美術学校師範科卒。34年東光会展でK氏奨励賞、38年東光会会員。43年佐賀師範学校で教え、49年佐賀大学教育学部教授。51年日展で特選、朝倉賞、60年改組日展で菊華賞、63年日展会員のち日展参与。68年佐賀美術協会理事長。佐賀市で没、77歳。洋画、美教

石元泰博（いしもと・やすひろ/1921～2012 年）
サンフランシスコ市生れ。1939年高知農業学校卒。渡米し、カリフォルニア大学農業スクール、ノースウェスタン大学建築科、シカゴ・インスティテュート・オブ・デザインで写真を学び、52年卒。在学中モホリ・ナギ賞を 2 回受賞。53年再来日。ニューヨーク近代美術館建築部長のアーサー・ドレクスラー、建築家吉村順三と日本の伝統建築を調査、54年桂離宮の撮影。55年桑沢デザイン研究所講師。57年「日本のかたち」「桂離宮」で日本写真批評家協会作家賞。66年東京造形大学教授。69年日本国籍。78芸術選奨文部大臣賞、日本写真協会年度賞、世界書籍展の「世界で最も美しい本」金賞。93年勲四等旭日小綬章。96年文化功労者。東京で没、90歳。写真、美教

石山庄一（いしやま・しょういち/1919～1979年）
新潟県生れ。国画会研究所に学ぶ。水彩連盟会員、水彩連盟展に石山庄一賞を設けた。日本山岳画協会会員。1979年没、60歳。水彩

石山直司（いしやま・なおじ/1965 年～ ）
愛媛県生れ。1992年愛知県立芸術大学美術研修科修了。94年大阪トリエンナーレ。96年高知国際版画トリエンナーレ、さっぽろ国際現代版画ビエンナーレ・北海道放送賞、伊豆美術祭絵画公募展・大賞。97年 Portland Art Museum International Print Exhibition（米）、98年神奈川国際版画トリエンナーレ・準大賞。99年 German International Exhibition of Graphic Art（独）。2000年クラコウ国際版画トリエンナーレ（ポーランド）。版画

石渡江逸（いしわた・こういつ/1897～1987年）
東京生れ。浮世絵師の歌川国芳門下、義兄、井草仙真に師事、日本画、図案を学ぶ。1917年川瀬巴水に就いて日本画を学ぶ。巴水の縁により、版元の渡辺庄三郎と知り合い、木版画による風景画を制作。各地を自ら歩き回ってスケッチを行い、それらを元に、何れも名所とは程遠い、極めて日常的な光景を版画化した。30年代に入ると、庄一郎と号して、加藤潤二の加藤版画店からも木版画を発表した。1987年没、90歳。日本画、版画、浮世絵

石渡庄一郎・江逸（いしわた・しょういちろう/1897～1987年）
東京生れ。横浜野沢屋図案部入社。1930年川瀬巴水に師事。版画制作に専念。35年頃加藤版画展より風景版画を出版。戦後文具のデザインも手掛けた。日本画、版画、浮世絵

伊津野雄二（いずの・ゆうじ/1948 年～ ）
兵庫県生れ。69年愛知県立芸術大学美術部彫刻科中退。75～88年知多工房で個展。97年豊田市美術館ギャラリー彫刻個展。2000年～名古屋画廊個展。01年ギャラリー椿彫刻個展。17年梅野記念絵画館個展。彫刻

出原 司（いずはら・つかさ/1953 年～ ）
京都生れ。1979年京都市立芸術大学美術専攻科西洋画専攻修了。88年 MAXI GRAPHICA（京都市美術館）。89年和歌山版画ビエンナーレ（和歌山県立近代美術館、93年も）、MAXI GRAPHICA（Vopal Gallery・サンフランシスコ）。91年次代を担う作家展（京都府立文化芸術会館）・優秀賞。96年美の予感（高島屋・東京）。97年個展（高知県立美術館）、大阪トリエンナーレ 97年 版画・大阪 21 世紀協会賞。99年現代版画・21 人の方向ー現代版画入門（国立国際美術館）。版画

泉澤 守（いずみさわ・まもる/1948 年～ ）
高崎市生れ。1972年多摩美術大学卒。79年上毛芸術奨励賞。80年代から阿久津画廊にて個展多数開催。2009年「群馬の美術」群馬県立美術館に選抜。15年高崎市美術館で山名将夫・泉澤守・小林正三人旅展。洋画

泉 茂（いずみ・しげる/1922～1995 年）
大阪生れ。1939年大阪市立工芸学校図案科卒。48年汎美術家協会展で受賞。51年瑛九らとデモクラート美術家協会を結成、創立会員。57年東京国際版画ビエンナーレ展新人奨励賞。58～67年日本版画協会会員。59年渡米（NY）、63年渡仏（パリ）に移住。幾何学的な抽象形態による作風。68年帰国、70年～大阪芸術大学教授。大阪で没、73 歳。版画、油彩、水彩、美教、デモクラート

泉 治作（いずみ・じさく/1893～1964年）
福井県生れ。1923年アクション展に出品。二科会会員。のち石井柏亭に師事し、一水会会員。1964年没。洋画

和泉 達（いずみ・たつ/1940 年～ ）
京都生れ。1960年東京芸術大学美術学部彫刻科入学。63年個展を内科画廊で開き、鑑賞者に自発的行為を促す独特な展示を行う。この個展をきっかけにハイレッド・センターに誘われ。ハイレッド・センターの 4 人目の正式メンバー。70年代以降はテレビコマーシャルの制作ディレクターとして活躍し、その後は、制作の対極に位置するマネージメント業に徹した。現代美術、ハイレッド・センター

泉 治彦（いずみ・はるひこ/1922～1970 年）
神奈川県生れ。横浜高等工芸学校卒。木下孝則に師事。1949年一水会展、日展に入選。54年一水会会員、60年委員。54、56年日展で特選。1970年没、48歳。洋画

和泉美雄（いずみ・よしお/1912～1994 年）
中国天津生れ。1927年太平洋画会研究所で学び、中村不折、阿以田治修に師事。36年寺田政明や吉井忠らとエコール・ド・東京を結成。自己の視覚の身近な、手とか足とか末端を描写したりする。戦後は三軌会に出品した。78年会員。後評議員。94年没、82歳。洋画

伊勢幸平（いせ・こうへい/1904～1988 年）
福岡市生れ。旧制福岡中学卒業後、1928年東京美術学校西洋画本科卒、研究科に進む。35年特別史跡の王塚古墳壁画を模写。57年創元展出品し、66年福岡北支部長、81年常任委員。風景を明快な色調と堅牢な構成で描いた。1988年没、84歳。洋画

伊勢幸平 Ⅱ（いせ・こうへい/1904～1988 年）
福岡県生れ。1926 年第 3 回白日会展に初入選。28 年東京美術学校西洋画科卒。35 年筑前王塚古墳壁画、王塚羨室門南壁他の標本制作。54 年創元会会友。56 年第 12 回日展に出品。57 年創元会会員。以後 86 年 45 回展まで出品を続ける。88 年 3 月 25 日没、享年 84 歳。（佐）洋画

伊勢崎勝人（いせざき・かつひと/1949 年～ ）
東京生れ。1978年東京芸術大学油絵科卒。79年白日会記念展で文部大臣賞、T賞、会員。81年渡欧、スペインを中心。08年白日会展内閣総理大臣賞。07年宮城県芸術選奨。07、10年日展特選。日展無鑑査出品。11年北の大地ビエンナーレ大賞。18年日展審査員。洋画

伊勢田理沙（いせだ・りさ/1988 年～ ）
佐賀県生れ。2011年佐賀大学文化教育学部美術・工芸課程卒。12年白日会展入選、佐賀美術協会展石本秀雄賞。15年白日会展入選、16年会友奨励賞、17年準会員推挙。個展・グループ展多数。洋画

伊勢正義（いせ・まさよし/1907～1985 年）
秋田県生れ。1931年東京美術学校西洋画科卒、藤島武二に師事。33年帝展入選。33年光風会でK夫人賞、34年光風会会員、35年光風特賞。松田改組の第二部会で特選、文化賞。36年猪熊弦一郎、佐藤敬らと新制作協会創立、会員。37年日動画廊個展。日本貝類学会会員、国際教育振興会理事。東京で没、78歳。洋画

磯江　毅（いそえ・つよし/1954～2007 年）
大坂生れ。1973年大阪市立工芸高等学校図案科卒。74年マドリッド留学。アカデミア・ペーニャ、シルクロ・デ・ベジャス・アルテスに学ぶ。78年マドリッド「サロン・デ・オトーニョ」で二等賞。シルクロ・ドス画廊で個展。79年マドリッド「シルクロ・ドス賞小品展」で一等賞。81年「サロン・デ・オトーニョ」で一等賞。バルセロナ伯爵夫人賞展で名誉賞。98年東京芸術大学美術学部非常勤講師。2002年タカシマヤ文化基金タカシマヤ美術賞。2005年広島市立大学芸術学部教授。2007年没、53歳。洋画、美教

磯崎　新（いそざき・あらた/1931～2022 年）
大分市生れ。東京大学建築学科で丹下健三に学び、19　61年同大学大学院博士課程修了。63年磯崎新アトリエを設立。1960年「大分県医師会館」旧館完成。71年「群馬県立近代美術館」、72年「北九州市立中央図書館」。68年14回「ミラノ・トリエンナーレ」、78年「＜間＞展」、81年「ロサンゼルス現代美術館」が代表作。2022年没、91歳。建築（美術館）

礒田湖竜斎（いそだ・こりゅうさい/生没年不詳）
江戸生れ。1764～72年一時鈴木春広の画名。明和前期より美人画を描き、柱絵も描いた。72～81年重厚感ある独自の美人画風を確立。「雛形若菜初模様」は錦絵に大判サイズのシリーズ。79年絵本に『役者手鑑』、86年『北里歌』。安永末ごろに法橋、以後は肉筆画に専念。「法橋湖竜斎」の落款を有する肉筆美人画は今日数多く伝存。江戸中期の絵師、浮世絵

磯田長秋（いそだ・ちょうしゅう/1880～1947 年）
東京生れ。初め狩野派の芝永章につき、のち小堀鞆音に師事、土佐派を学ぶ。1898年鞆音同門の安田靫彦らと紫紅会を結成、1902年結成の歴史風俗画研究会に参加し、同展で受賞を重ねた。07年文展に入選、07年国画玉成会に参加、12、13年と褒状、15年 3 等賞、26年帝展委員。23年革新日本画会設立に幹事として参画。歴史人物画、特に合戦図を得意とした。日本画、版画

磯田　幹（いそだ・みき/1932～2016 年）
1932年生れ。東京芸術大学卒。アクリル、合板。82年日本国際美術展佳作賞。84年日本国際美術展東京都美術館賞。99. 2001. 02. 04年個展開催。2016年没、84歳。洋画

磯野文斎（いその・ぶんさい/生誕年不詳～1857 年）
江戸後期の浮世絵師。渓斎英泉の門人。江戸・長崎出身の両説。文彩、文斎、文彩堂と号した。1801年頃に創業した版元・大和屋の娘貞の婿養子となり、27年頃～57年まで大和屋の版下絵師兼版元。合羽摺を主とした長崎版画の世界に、江戸錦絵風の多色摺りの技術と、洗練された画風をもたらす。江戸の浮世絵の画題である名所八景の長崎版である「長崎八景」を刊行した。過剰な異国情緒をおさえ、長崎の名所を情感豊かに表現し、判型も江戸の浮世絵を意識したもの。1857年没。江戸時代の絵師、浮世絵、版画、長崎版画　200

磯野吉雄（いその・よしお/1875～1948年）
東京生れ。1900年東京美術学校西洋画科選科卒。女子美術学校創立に参加。同校幹事。書、篆刻も手掛ける。日本書道美術院創立に参加。東京で没、73歳。洋画、書、篆刻、美教

五十畑勝吉（いそはた・かつよし/1933 年～　）
東京生れ。中央大学卒。会社勤務の傍ら独学で油彩を学ぶ。日展、一水会、大潮展、朔日展で入選。一枚の繪で活躍。1985年現代洋画精鋭選抜展金賞。無所属。個展で発表。洋画

磯部忠一（いそべ・ちゅういち/1879～没年不詳）
東京生れ。1905、06年『平旦』に木版を発表。07、09年『方寸』に発表した。1901年発足の太平洋画会に第1 回展～第10 回展まで連続して油彩画や水彩画を出品。1913 年発足の日本水彩画会創立会員。1887年頃に印刷局図案官に磯部忠一なる人物がおり、同一人と思われる。版画、水彩、洋画

磯部百鱗（いそべ・ひゃくりん/1836～1906 年）
三重県生れ。1836年代々伊勢神宮の御師を務める「磯部大夫」の家系。画家である林棕林に入門、長谷川玉峰に師事。四条派の流麗な画風を身に付けた。故実を中林竹渓、俳諧を神風館只青（爲田只青）に学び、久保田米僊、今尾景年、鈴木松年と交友。伊勢神宮に奉職する傍ら、画家としての活動を続け、京都博覧会で銅牌、東洋絵画展覧会で金牌。「神都有数の画人」と称され、伊藤小坡ら数多くの門人を育てた。1906年没、69歳。日本画、絵師、神官、美教

磯辺行久（いそべ・ゆきひさ/1936 年～　）
東京生れ。1955年頃デモクラアート美術協会に参加。59年東京藝術大学美術学部絵画科卒。63年日本国際美術展で優秀賞。62年ワッペン状形態のレリーフ作品。666～74年渡米、NYに移住。70年ペンシルバニア大学大学院で環境計画を学ぶ。76年磯辺行久美術館、93年新装開館。2000年大地の芸術祭、越後妻有アートトリエンナーレに出品。2007年東京都美術館で磯辺行久Landscape展。洋画、版画、現代美術、デモクラアート

磯見輝夫（いそみ・てるお/1941 年～ ）
神奈川県生れ。1966年東京芸術大学油画科卒、73 年同大学院版画専攻修了。79年日本版画協会展協会賞。2003年山口源大賞。07年名古屋市芸術特賞。版画

磯村敏之（いそむら・としゆき/1927～2007 年）
愛知県生れ。1948年自由美術家協会に出品、55年同会会員。52年東京高等師範学校芸能科油絵卒。59年サエグサ画廊個展。64年主体美術協会創立に参加、会員。83年刈谷市美術館で個展。90年渋谷区立松濤美術館で特別陳列。2002年日本橋三越で個展。07年没、80歳。洋画

井田勝己（いだ・かつみ/1956 年～ ）
鳥取県生れ。1981年 東京造形大学彫刻科卒。92年兵庫教育大学大学院修了。95年現代日本彫刻展で大賞と下関市立美術館賞。97年米子市美術館で個展。17 回現代日本彫刻展で神奈川県立近代美術館賞。98年神戸須磨離宮公園現代彫刻展で三重県立美術館賞と京都国立近代美術館賞。彫刻

板倉 鼎（いたくら・かなえ/1901～1929 年）
松戸市育ち。堀江正章の教えを受ける。東京美術学校西洋画科に入学。岡田三郎助と田邊至に師事。帝展に入選。渡仏。サロン・ドートンヌに入選。パリで没、28歳。（出典 わ眼）洋画

板倉 鼎 Ⅱ（いたくら・かなえ/1901～1929 年）
1913年堀江正章の指導を受ける。14年絵画クラブ「葛城画会」に参加。18年県立千葉中学校卒。19年岡田三郎助の本郷絵画研究所に学ぶ。21年第3回帝展に初入選。22年平和記念東京博覧会美術館展に出品。24年東京美術学校西洋画科本科卒。26年渡米欧。27年サロン・ドートンヌに入選。サロン・デ・ザンデパンダンに出品。パリで没、享年28歳。（佐）洋画

板倉賛治（いたくら・さんじ/1877～1965 年）
愛知県生れ。1908年東京高等師範学校卒、直ちに同校助教授。13年日本水彩画会創立に参加、会員。23年帝展委員。36年帝展無鑑査。35年東京高等師範学校評議員。全国図画教育大会長より表彰。40年教育功労顕著、文部大臣より表彰。63年米寿記念賛治画集刊行。65年没、88歳。洋画、水彩、美教

板倉賛治 Ⅱ（いたくら・さんじ/1877～1965 年）
愛知県碧海郡生れ。鈴木不知に洋画を学ぶ。1899年愛知県第一師範学校卒。1908 年東京高等師範学校卒、同校助教授となる。その後教授として 42 年まで美術教育に携わる。12 年第 10 回太平洋画会展に出品。13 年日本水彩画会創立会員。21 年第 3 回帝展に初入選。31 年国定教科書小学図画編集委員嘱託。34 年中等教育検定委員会委員。43 年第 6 回新文展に無鑑査出品。44 年戦時特別展に無鑑査出品。49 年日本水彩画会名誉会員に推挙。63 年「米寿記念賛治画集」発行。 65 年 4 月 4 日東京で没、享年 89 歳。（佐）水彩、美教

板倉須美子（いたくら・すみこ/1908～1934 年）
東京生れ。文化学院大学部中退。板倉鼎と結婚。26年鼎に同行、米経由渡仏、パリへ。27、28年サロン・ドートンヌ入選。29年鼎が急死、帰国。33年美術グループ「新油絵」の結成に参加。神奈川県で没、26歳。洋画

板坂 勇（いたさか・いさむ/生没年不詳）
長崎市生れ。1940年ごろ？前衛写真協会に参加、後「写真造型研究会」に改称。1939年「美術文化協会」が結成（同人 糸園和三郎、麻生二郎、今井滋、板坂勇、濱松小源太等）。南方で戦没。洋画、写真

井田照一（いだ・しょういち/1941～2006 年）
京都市生れ。1965年京都市立美術大学西洋画科修了。69～70年パリ留学。フィレンツェ国際版画ビエンナーレ展やカナダ国際青年版画展に出品。70～74年NYに滞在し、各国で個展を開催、東京国際版画ビエンナーレ展、パリ国際版画ビエンナーレ展、ノルウェー国際版画ビエンナーレ展出品。帰国後も版画展に出品、国際的に活躍。86年、日米文化交流名誉賞をロバート・ラウシェンバーグと共に受賞。2004年、紫綬褒章。2006年没、65歳。造形、版画

伊谷賢蔵（いたに・けんぞう/1902～1970 年）
鳥取市生れ。1924年京都高等工芸学校図案科卒。24年関西美術院に都鳥英喜らに師事。26年二科展入選。30年全関西美術協会会員。31年二科賞。41年二科会会員。45年行動美術協会の創立に参加。52～65年京都学芸大学西洋画科主任教授。68年京都精華短期大学美術科主任教授。70年没、68歳。洋画、美教

板橋一歩（いたばし・いっぽ/1911～1993 年）
鹿児島県生れ。1933年東京高等工芸学校図案選科を修了。34～45年尋常高等小学校、高岡工芸学校、高岡商業学校教員。高岡工芸学校、70年停年退職まで教鞭。51年日展入選。53年 JCA 世界彫刻コンクールロンドン展入賞。68年二紀展同人優賞。80

年二紀展文部大臣賞。88年二紀会評議員。91年二紀展で田村賞。73年富山県彫刻家連盟委員長、75年同県芸術文化協会参議。80年富山県井波彫刻伝統産業会館館長。74年は富山県文化功労者。富山県で没、82歳。彫刻、美教

伊丹米夫（いたみ・よねお/1922～1982 年）
福岡県生れ。坂本繁二郎に師事。戦後、東京美術学校彫刻科中退。1972年青稲会の同人。同年、日本美術家連盟会員。75年国際造型芸術家連盟会員。サロン・ドートンヌ出品。日本国際美術家協会評議員。福岡県で没、59歳。洋画

板谷　房（いたや・ふさ/1923～1971 年）
福岡市生れ。1952年東京美術学校図画師範科卒。53年渡仏、終生、仏で過ごす。54年藤田嗣治と「猫展」を開催。55年パリで個展、エルサレム美術館、在パリ日本大使館、カーネギー財団が作品を買上。サロン・ドートンヌ、ル・サロン金賞。ル・サロン会員。63年フランス政府芸術院賞。65年三越で個展開催。1971年没、49歳。洋画

板　祐生（いた・ゆうせい/1889～1956 年）
鳥取県生れ。代用教員～19歳検定試験正式教員。終戦と同時に教職を退き、引き揚げ者の世話をし、1955年度西伯町発足と同時に開設した保育所の初代所長。1956年没、66歳。祐生の業績は、「後世の参考とする」という願いを込めた数多くの物の収集と、ガリ版を使った孔版画を芸術に高めた。版画

一井増郎（いちい・ますろう/1910～1975 年）
東京生れ。1933年東京美術学校図画師範科卒。元太平洋美術会会員。無所属。1975年没、65歳。洋画

一圓達夫（いちえん・たつお/1948 年～　）
愛知県生れ。1966年第 17～20 回具体美術展。71年関西学院大学文学部美学科卒。77年現代版画コンクール展（大阪府民ギャラリー）・佳作賞。78年ジャパンエンバコンクール・神戸っ子賞。80年京展（京都市美術館）・版画部門京展賞、世界版画展（アメリカ）・佳作賞。84年京都美術工芸選抜展（京都府立文化芸術会館）・買上賞。87年国際版画交流展（韓国）。90ザイロン国際木版画展（スイス）。99年現代版画・21人の方向（国立国際美術館）に出品。版画、具体

市川　晃（いちかわ・あきら/1922～2000 年）
豊川市生れ。父・深淵に水墨画を習う。1943年東京高等師範学校卒、島根師範学校助教授。52年春陽展で春陽会賞。56年春陽会会員。50年愛知学芸大学助教授。67～86年愛知教育大学教。77年文部省在外研究員として中南米各地の古代壁画調査。2000年没、78歳。洋画

市川加久一（いちかわ・かくいち/1905～1988 年）
三重県生れ。1925年三重師範学校卒。28年上京、太平洋洋画会研究所に入り、高間惣七に師事。33～36年東光展に出品。36年主線美術会の創立に参加。42年新文展に入選。50年より旺玄展に出品、54年常任委員、のち理事。57年三重県立博物館で個展。大阪で没、82歳。洋画

市川禎男（いちかわ・さだお/1921～1993 年）
東京生れ。1940年川端画学校洋画科修了。39～41年劇団東童の美術部員、舞台美術、装置を制作。41～47年新児童劇団美術部長。48年自由美術展に出品。49年日本童画会入会、会員。51年日本童画会展で日本童画会賞。52年日本版画協会展で根市賞、会員。58年共著『子どもの舞台美術』（さ・え・ら書房）でサンケイ児童出版文化賞。初山滋に師事し、児童図書の挿絵、装丁、版画制作。日本美術家連盟に所属、66年著作権法改正にあたり、美術家著作権運動に参加。東京で没、72歳。童画、版画、挿絵、装丁

市川正三（いちかわ・しょうぞう/1930～1992 年）
1930年生れ。三軌会会員。1992年没、61歳。洋画

市川元晴（いちかわ・もとはる/1950 年～　）
静岡県生れ。1966年全日本肖像展初入選。73年渡欧、サロン・デ・ボザールに入学。75年ル・サロンにて銅賞。76年ル・サロンにて銀賞、無鑑査。89年静岡市歴史絵図完成。98年ペルーへ取材旅行。2000年ル・サロン永久会員。洋画

一木平蔵（いちき・へいぞう/1923～2015 年）
八幡市生れ。1938年八幡市立花尾高等小学校卒。44年産業報国美術展に水彩画2点を出品し、特選。56年自由美術家協会会員、67年自由美術賞。58年11月福岡市岩田屋で個展開催。60年第4回安井賞候補新人展出品。62、63，64年日本アンデパンダン展出品。69年ソビエト、ヨーロッパ、西アジア、インドなど十数か国を訪れ、82年北九州市立美術館「一木平蔵」展。88年『一木平蔵の素描』（美術出版社）刊行。2015年没。91歳。洋画、水彩

一木万寿三（いちき・ますみ/1903～1981 年）
北海道生れ。1926年上京本郷絵画研究所で学ぶ。岡田三郎助に師事。27年白日会出品。41年より一水会に出品、46年会員。45年全道美術協会創立会員。54年坪谷六郎、越沢満らを創立会員とする黄土会（現滝川美術協会）を設立。北海道洋画界の重鎮として活躍した。石狩市で没、77歳。洋画

一木万寿三 Ⅱ（いちき・ますみ/1903～1981 年）
北海道滝川市生れ。1914 年、この頃から、近所に住んでいた日本画家となる岩橋英遠と親交を結ぶ。26 年上京、岡田三郎助の主宰する本郷絵画研究所で学ぶ。他にも安井曽太郎や前田寛治に肖像画の研究のうえで影響を受ける。27 年第 4 回白日会展で白日賞、第5回白日会展で白日賞。29 年帝展に初入選。45 年北海道江部乙に戻り、戦後は全道展創立に参加。46 年一水会会員としても活躍した。60 年から札幌に居住。81 年 5 月 3 日石狩町で没、享年 77 歳（佐）洋画

イチゲ・フミコ（いちげ・ふみこ/1940 年～）
東京生れ。多摩美術大学油彩科卒。画家、立石紘一の妻。1964年に立石と出会い、パートナーとして暮らし始める。69年に二人でイタリアに渡る。現代美術（立体）

一條成美（いちじょう・せいび/1877～1910 年）
松本市生れ。旧制松本中学中退後、菊池容斎の画風に私淑、渡辺省亭に師事。与謝野鉄幹の『明星』の表紙画や挿絵を担当し、日本画と洋画を折衷した作風が特徴。1901年出版元の新詩社を退社。新声社、博文館、冨山房、三省堂など文芸誌や、河井醉茗、中村春雨の小説挿絵や装丁、東京高等師範学校の嘱託。東京で没、33歳。日本画、版画、挿絵、装丁

一條成美 Ⅱ（いちじょう・なるみ/1877～1910 年）
長野県生れ。松本中学校を中退。1897年長野県土木課製図係に勤務。菊池容斉に私淑し、独学で日本画を学ぶ。1900年上京、与謝野鉄幹の自宅に住むみ、『明星』の発行元の新詩社で『明星』の挿絵を描く。その後、雑誌、句集、歌集の挿絵、装丁を手がける。東京で没、33歳。挿絵

一条美由紀（いちじょう・みゆき/生誕年不詳～ ）
福島県生れ。日本デザイン専門学校卒。カンプライター。挿絵など仕事に携わる。1994年～2001年渡独 Kunstakademie Duesseldorf（デュッセルドルフ美術アカデミー）、10 年間の留学、帰国。18年 Interact with yourself-自己との会話- 学習院女子大学 文化交流ギャラリー東京。17年「変遷していく私」STOREFRONT（ストアフロント）東京。99年「Recent Drawings and Paintings」島田画廊 東京。98年「Miyuki Ichijo」ギャラリーARTicle ケルンで発表。ドローイング、インスタ

市之瀬廣太（いちのせ・ひろた/1909～1995 年）
1927年岐阜県多治見工業制支彫刻科卒。29年構造社彫塑研究所に入所、斎藤素巌に師事。31年構造社展入選。32年同展研究賞、会友、33年構造賞、34年会員。第1回日展入選し以後同展に出品。54年第 10 回日展で特選。55年日展に無鑑査。71年日展委嘱。62年日展菊華賞。64年日展会員。写実にもとづく端正な女性像を得意とした。名古屋芸術大学名誉教授。名古屋市で没、85歳。彫刻、美教

市野長之介（いちの・ちょうのすけ/1905～1987 年）
名古屋市生れ。1922年名古屋市立工芸学校図案科（研究科）修了。23年頃鈴木不知の名古屋洋画研究所に入門。29年二科展に入選、42年会友。41、79年名古屋松坂屋で個展。47年二紀会同人。48, 55年同人賞。75年二紀賞、87年二紀会評議員。67～77年名古屋造形芸術短期大学造形芸術科教授。名古屋市で没、82歳。洋画、美教

市村緑郎（いちむら・ろくろう/1936～2014 年）
茨城県生れ。東京教育大卒。2003年日展内閣総理大臣賞。06年日展出品作で芸術院賞。日展理事。08年年芸術院会員。埼玉大学教授、崇城大教授。2014年没、78歳。彫刻、美教

市ノ木慶治（しのき・けいじ/1891～1969 年）
名古屋市生まれ。1905年森村組に入社、その後、日本陶器画工部へ。ノリタケの陶画作者として活躍。光風会会員、日展無鑑査、京都市美術館所蔵 1969年没、78歳。陶画

一木平蔵（いちき・へいぞう/1923～2015 年）
福岡県生れ。1938年安川電機株式会社に入社。44年産業報国美術展に水彩画 2 点を出品し、特選受賞。49年福岡県美術協会展で県議会議長賞。56年自由美術家協会会員。58年福岡市岩田屋で個展。69年渡欧、71年博多大丸にて「一木平蔵帰国報告展 残闕のバビロン」展。2015年没、91歳。洋画

市野英樹（いちの・ひでき/1942 年～ ）
名古屋市生れ。東京芸術大学大学院油画修了。1969年二紀展に出品、同人努力賞、78年宮本賞、鍋井賞、菊華賞、93年文部大臣奨励賞。84年文化庁在外研究員、フェレンツェ滞在。75年安井賞展出

品。明日への具象展、JAM、絵画の今日展に出品。洋画

一原有徳（いちはら・ありのり/1910～2010 年）
徳島県生れ。1927年逓信省小樽貯金支局入局、43年間勤務。51年小樽市美術展出品。58年モノタイプが土方定一の目に留まり、土方の推薦によって60年メキシコ等を巡回した「現代日本の版画店」に出品、同年には東京画廊で個展。金属凹版に着手し、モノタイプと並行して制作。2010年没、100歳。版画、彫刻

市原義夫（いちはら・よしお/1913～1945 年）
埼玉県生れ。1938 年第 15 回白日会展に初入選。以後 43 年第 20 回展まで連続出品。その間、40 年第 17 回白日会展で東亜賞、42 年第 18 回白日会展で会友奨励賞。45 年補充兵として招集され、激戦地であったフィリピンで戦死。享年 32 歳。2000 年 10 月、遺作展が埼玉県寄居町中央公民館で開催された。日本水彩画会会員。(佐)洋画、水彩

一水隩二郎（いちみず・いくじろう？/1898～1938 年）
東京生れ。元宮相の一木喜徳郎の二男。1922年東京美術学校西洋画科卒。27～32年外遊し、帝展に 4 回入選。1938年没、42歳。洋画

市山時一郎（いちやま・ときいちろう/1911～1994 年）
佐世保市生れ。1932年長崎師範卒。壱岐美術協会に入会。47年一水会入選(以降94年まで連続出品)。51～55年佐世保美術研究所所長。50年日展入選(以降通算 21 回入選)、82年会友。86年紺綬褒章。87年佐世保市文化功労賞。90年サロン・ド・パリ展大賞。1994年没、83歳。96年佐世保市島瀬美術センターで遺作展。洋画

一色邦彦（いっしき・くにひこ/1935年～）
東京生れ。1960年東京芸術大学彫刻科卒。60年新制作協会展で新作家賞、会友、、以降同展を主な活動の場とする。新作家賞は62年まで連続受賞し、64年会員。66年高村光太郎賞、73年中原悌二郎賞優秀賞。彫刻

伊津野雄二（いづの・ゆうじ/1948 年～ ）
兵庫県生れ。1969年愛知県立芸術大学美術学部彫刻科中退。75年知多工房を設立、木彫家具木工芸を手掛ける。97年豊田市美術館 G 個展。99年名古屋画廊個展。2001年、ギャラリー椿個展。04年日本橋高島屋個展。08年新潟・絵屋個展(以降09年)。09年、神戸・ギャラリー島田個展。彫刻、立体

井出岳水（いで・がくすい/1899～1982 年）
山梨県生れ。日本大学芸術学部を卒業後、山内多門に師事、荒井寛方に学んでいる。美術育英協会の理事。1929年には中国へ引っ越して、上海で日本画塾を開き、46年帰国。49年渡辺庄三郎と協力して花鳥画を制作し始めた。大きな鶴や青鷺を描いた木版画で知られた. 1982年没、83歳。版画、浮世絵

井出宣通（いで・のぶみち/1912～1993 年）
熊本県生れ。1933年帝展、34年光風会展でK夫人賞。35年東京美術学校油画科卒、40年東京美術学校彫刻科卒。39～66年光風会会員。40佐分真賞。42年海軍報道班員。47年朝井閑右衛門らと新樹会を結成。64年日展で文部大臣賞。66年日本芸術院賞。69年日本芸術院会員、日展理事。74年日展事務局長。77年日洋会を創立、運営委員。90年文化功労者。東京で没、81歳。洋画

井出則雄（いで・のりお/1916～1986 年）
長崎県生れ。1939年東京美術学校彫刻科卒。在学中から二科展などに出品、39、40、41年構造展で研究賞、会友。43年銀座で個展を開く。戦後、47年前衛美術会を結成。72～81年宮城教育大学教授。著書に『美術のみかた』(昭和 35 年 酒井書店)、『西洋の美術』(38 年 筑摩書房)、『現代彫刻入門』(44 年造形社)。詩や評論を発表。1986年没、69歳。彫刻、詩人、美評

出水勝利（いでみ・かつとし/1906～1990 年）
宮崎県生れ。1930年東京美術学校図画師範科卒。旧制県立飫肥中学校、兵庫県立伊丹高等女学校、兵庫県師範学校、46年宮崎師範学校、49年宮崎大学学芸学部教授。[宮崎県美術協会]の設立に参加し、66年同協会の理事長。70年会長に就任。87年宮崎県文化賞。1990年没、84歳。洋画、美教

出光 純（いでみつ・じゅん/1950～1988 年）
福岡県生れ。1976年慶応義塾大学経済学部卒。77年渡仏。79年ナショナル・ド・ボザール展出品(81～83)、82年アンデパンダン展出品(～84)、83年ル・サロン・ドートンヌ展に出品。アンデパンダン会員。85年泰明画廊で第一回個展。86年日本青年画家展出品(～87)。87年泰明画廊で個展。88年第 1 回巴東会展に出品(資生堂ギャラリー)。88年没、享年38歳。(佐)洋画

出光真子（いでみつ・まこ/1940 年～）
東京生れ。出光興産創業者・出光佐三の四女。早稲田大学第一文学部卒。NYへ留学し、帰国後執筆

活動。美術家のサム・フランシスと結婚。映像作品制作開始。1973年《At Santa Monica 1》心象風景を映し出。ジュディ・シカゴらによる Women house を撮影した《Woman's house》(1972・16mm・13 分 40 秒、《おんなのさくひん》(1973 年・ヴィデオ・10 分 50 秒) 女性や家庭の主婦の視点を映し出す映像表現。80年東京ヴィデオ・フェスティヴァル特別賞、91年モンディアル・ヴィデオ祭最優秀実験作品賞、92年シモーヌ・ド・ボーヴォワール国際ヴィデオ祭奨励賞。映像、ヴィデオアート

井出陽一郎 (いで・よういちろう/1911～1983年)
長野県生れ。1925年上京、太平洋画会研究所に学ぶ。29年「一九三〇年協会」展、31年独立美術協会展入選。中山巍に師事。52年独立展に出品、55年会友。1983年没、71歳。洋画

井出洋一郎 (いで・よういちろう/1949～2016年)
高崎市生れ。1978年早稲田大学大学院文学研究科に同大学院博士課程を満期退学(西洋美術史専攻)。78～87年山梨県立美術館学芸員、ミレー・コレクションを担当。美術評論家として活動。非常勤講師として上智大学で西洋美術史を担当し、跡見学園女子大学、武蔵野美術大学、実践女子大学で博物館学等を担当。92年明星大学日本文化学部生活芸術学科の助教授。東京純心女子大学芸術文化学科教授。2009年に府中市美術館長、15～16年群馬県立近代美術館長。ジャン・フランソア・ミレーに関する研究。2016年没、67歳。美史研、美評、美術館長　250

伊藤 彬 (いとう・あきら/1940年～)
西宮市生れ。1963年東京藝術大学日本画科卒。64、69～71年新制作協会展、新作家賞、72年同会会員、74年新制作協会を退会し、創画会結成会員。70、71年文化庁現代美術選抜展。84年横の会結成参加、第1～10回展出品。98年日本画-純粋と越境(練馬区立美術館)。2002年永平寺の襖絵。08年平塚市美術館で個展。日本画、版画

伊藤朝彦 (いとう・あさひこ/1928 年～)
1928年生れ。49年東京美術学校卒。自由美術協会会員。サロン・ド・メ展出品。日本画廊、千駄木画廊で個展。画集制作。洋画

伊藤五百亀 (いとう・いおき/1918～1992 年)
愛媛県生れ。多摩帝国美術学校で学び、吉田三郎に師事。1942年文展入選、43年文展特選、戦後日展に出品、54、55年日展特選、58年日展会員、83年理事。61年日本彫塑会会員。74年同展で文部大臣受賞、82年日本芸術院賞、日本彫塑会理事。91年西条市功労賞。東京で没、73歳。彫刻

伊東郁三郎 (いとう・いくさぶろう/1926～2009 年)
千葉県生れ。1943年田中佐一郎に師事。44年大森研究所にて学ぶ。46年日展に入選。59年渡仏(4年間)。58年サロン・ド・ラジェンヌパンドウルに出品、評価される。独立展出品、プールブ賞・奨励賞・独立賞。2009年没、83歳。洋画

伊東英泰 (いとう・えいたい/1876 年～没年不明)
長崎市生れ。右田年英及び村瀬玉田、川端玉章の門人人物画、山水画、花鳥画を得意とする。『東京日々新聞』の専属となり、挿絵や木版画の口絵を描いた。博覧会や共進会に作品を出品、優賞を得た。日本画、口絵

伊藤遠平 (いとう・えんぺい/1976 年～)
茨城県生れ。東京藝術大学大学院美術研究科油画専攻修了。絵画、立体表現、物語世界の創造などの表現を通して自然と人間との新たな関係性を探究。「水と土の芸術祭 2018」ではレジデンスを行いながら絵画・立体作品による物語空間を表出。2017年宇都宮エスペール賞受賞。18年水と土の芸術祭に参加。19年に宇都宮美術館にて個展。(田村)洋画、現代美術、立体

伊藤応久 (いとう・おうきゅう/1907～1994 年)
岩手県生れ。川端画学校に学ぶ。藤島武二塾、岡田三郎助塾に通い、東京美術学校卒業後、小絲源太郎に師事。帝展、文展、日展に出品を重ね、特選。光風会展レートン賞、会員。1966年退会。61年日展特選。67年からサロン・ドートンヌ出品。81年パリ賞金メダル受賞、サロン・ドートンヌ会員。1994年没、87歳。洋画

伊東 傀 (いとう・かい/1918～2009 年)
東京生れ。1944年東京美術学校彫刻科塑造部卒、47年東京美術学校彫刻研究科を修了。46年新制作派協会展で新作家賞、48年同会展で新制作派協会賞、51～2004年会員。62年文部省の派遣によりフランスへ出張。65年東京藝術大学彫刻科助教授、78年同校教授。74年現代彫刻センターで個展、土方定一の評価を得る。81年長野市野外彫刻賞。沖縄県立芸術大学設立に早くから関わり、86年同大学教授、92年同大学美術工芸学部長。2009年没、90歳。彫刻、美教

伊藤喜久井 (いとう・きくい/1911～2002 年)

鶴岡市生れ。1928年 山形県立鶴岡高等女学校卒。32年女子美術学校日本画師範科卒。荻生天泉に師事。日本画会展、女子美術院展、日本画院展などに入選。49年日本画家らと丹青社設立。。55年白甕社の日本画部門の充実を図り、後継者の育成と日本画の普及発展に尽力。72年 新興美術院会員。2002白甕社委員長。2002年没、91歳。日本画

伊藤久三郎（いとう・きゅうざぶろう/1906～1977 年）
京都市生れ。1923年、京都市立美術工芸学校絵画科本科卒。28年上京して「一九三〇年協会」洋画研究所に学ぶ。38年二科の九室会に参加。41年二科会会員。36年新美術家協会に参加、前衛的活動を展開。戦後は京都に戻り、46年行動美術協会結成会員。56年アートクラブ会員。62～72年成安女子短期大学教授。京都で没、76年京都府美術工芸功労者。京都市で没、71歳。洋画、美教

伊藤清永（いとう・きよなが/1911～2001 年）
兵庫県生れ。1928年愛知中学校卒。本郷絵画研究所に通う。35年東京美術学校西洋画科卒。36年白日会会員。47、48年日展特選。57年愛知学院大学教授。62年渡欧。77年日本芸術院恩賜賞、日展内閣総理大臣賞。84年日本芸術院会員。86年白日会会長。89年伊藤美術館。96年文化勲章。軽井沢で没、90歳。洋画、版画、美教

伊藤國男（いとう・くにお/1890～1970 年）
岩手県生れ。後藤貞行、森鳳聲の内弟子。清明治天皇の御料馬や靖国神社の戦没馬慰霊像を手掛けた。馬像制作に捧げたといわれている作家です。1千数百点の馬像を制作。東京国立近代美術館に「敵陣侵入」が収蔵。1970年没、80歳。彫刻

伊藤勲志（いとう・くんじ/1920～没年不詳）
愛知県生れ。1941年東京美術学校図画師範科卒、小樽市の中学校で美術教師、翌年、愛知県内の中学校・高等学校で教鞭。51～55年田原市内の県立福江高等学校に美術教師。52年春陽展で入選。67年太平洋展で奨励賞、太平洋美術会会員。77年太平洋展で会員秀作賞。80年豊橋市美術博物館で個展。81年紺綬褒章。美教、洋画

伊藤慶之助（いとう・けいのすけ/1897～1984 年）
大阪生れ。1914年赤松麟作に師事。17年上京、本郷洋画研究所で岡田三郎助に師事。二科展初入選。24年春陽会展入選。29年渡仏留学。サロン・ドートンヌなどに出品。32年帰国、39年春陽会会員。71年まで大手前女子大教授。68年兵庫県文化賞。兵庫県で没、86歳。洋画、美教

伊藤研之（いとう・けんし/1907～1978 年）
福岡市生れ。「一九三〇年協会」研究所に学ぶ。1930年「一九三〇年協会」展、31年二科展に入選。33年早稲田大学文学部仏文科卒。38年九室会創立会員。40～45年上海に滞在。40年二科展で特待、48年二科賞、52年会員、59年会員努力賞。福岡県文化会館等の壁画制作。56～71年まで九州大学工学部建築学科の講師、71～77年精華女子短大教授。福岡市で没、71歳。洋画、壁画、美教

伊藤憲治（いとう・けんじ/1915～ 2001 年）
東京生れ。1935年東京高等工芸学校卒。キヤノンのロゴマーク、光文社カッパ・ノベルスのカバーデザインなどを手掛けた。過去に、東京 ADC 評議員、毎日デザイン賞評議員、JAGDA 会員などを務め、1998年に東京 ADC 名誉の殿堂入り。2001年没、86歳。グラフィック

伊藤禎朗（いとう・さだお？/1919 年～没年不詳）
甲府市生れ。フレスコ技法、フレスコ画、壁画制作画家、新樹会、写実絵画。洋画、壁画

伊藤貞子（いとう・さだこ/1922～1966 年）
1922年生れ。夫は伊藤正。1965年一水会会員。1966年没、44歳。66年栗山町カルチャープラザ「Eki」で伊藤正、貞子絵画展開催。1966年没、44歳。洋画

伊東 哲（いとう・さとし/1891～1979 年）
金沢市生れ。1916年東京美術学校西洋画科卒、研究科に進む17年退学。和田三造に私淑。16年文展入選、5回入選。30年公共埤圳嘉南大圳組合烏山頭出張所の嘱託、嘉南大圳のダム工事を油絵に記録。45年より北京工業専門学校で教える。晩年は微細な世界をのぞき込んだような抽象画を描いた。1995年没、88歳。洋画、美教

伊藤三喜庵（いとう・さんきあん/1914～1996 年）
東京生れ。1938年日本大学工学部建築学科卒。57年建築研究所設立。独立美術協会展、白日展に出品。61年水墨画制作。日本南画院展、日本自由画壇展に出品。69年日本南画院賞、71年文部大臣賞。日本南画院常務、日本自由画壇副理事長。1996年没、82歳。水墨、南画、洋画

伊東静尾（いとう・しずお/1902～1971 年）
福岡県生れ。1919年中学明善校中退、23年日本美術学校卒。29年坂本繁二郎に師事。30年来目会展に出品し、松田諦晶と交友。33年二科会展入選、54年会員。34年二科西人社の創立に参加し、活躍。49年自宅に江南画塾を開き、毎年展覧会を開催。後進の育成。久留米市で没、68歳。洋画、美教、画塾

伊藤信夫（いとう・しのぶ/1907～1957 年）
函館市生れ。1925年北海道庁立函館商業学校卒。32年春陽会展入選。38年二科展出品、42年会友。4

6年行動美術協会展で友山荘奨励賞、会友、47年会員。全道美術協会展に出品。作品は風景、或は人物・静物を配した風景画が多い。1957年没、50歳。洋画

伊藤四郎（いとう・しろう/1897～1976 年）
三重県生れ。1937年 第1回新文展入選。37年光風会展でフローレンス賞、39年特賞。42年新文展で特選。45年戦時中、彫刻家の村井辰夫を頼って富山県に疎開。46年富山県展審査員。1976年没、79歳。洋画、版画

伊藤春興（いとう・しゅんきょう？/1894～1941 年）
秋田県生れ。柴田棋渓に手ほどき、棋渓は京都の幸野楳嶺の門人で幅広い知識を持っていた。春興も修業中に古今の絵画知識を広めることが出来た。各種流儀の絵を描いたが、特に四条派の山水、花鳥、人物を得意とした。1941年没、47歳。日本画

伊藤純子（いとう・じゅんこ/1946 年～ ）
神奈川県生れ。1973年東京造形大学美術学部絵画科卒。一貫してグリッドによる円や正方形のアラベスク元に絵画制作。77年「今日の作家ー絵画の豊かさ展ー」をはじめ82年の「自在と自制の空間展」、73年サトウ画廊個展。2006、07年『IDEA・SENSE・EXPRESSION』出品。洋画、現代美術

伊藤若冲（いとう・じゃくちゅう/1716～1800 年）
京都生れ。名は汝釣、字は景和、別号に斗米庵・米斗翁等。初め狩野派、のち宋・元・明画や尾形光琳を研究し、独特の画風を創り出す。特に「若冲の鶏」と言われるほど鶏の画を得意とした。作品に「動植綵絵(さいえ)」「群鶏図」など1800年没、85歳。江戸中-後期の画家

伊藤順之助（いとう・じゅんのすけ/1900～1980 年）
名古屋市生れ。京都市立絵画専門学校を中退。東海美術展などに出品。23～28年滞欧。帰国後は春陽会等に出品。名古屋短期大学付属高等学校で美術教員。80年没。80歳。洋画、美教

伊東正一（いとう・しょういち/1913～1990年）
長野県生れ。旧制中学、高校、大学卒。1941年軍医召集。48年内科診療所開業。50年井上武美に勧められ絵を描き始める。51年白山卓吉に師事。中信美術展、長野県展に出品。51年松本水彩画会の結成に参加。53年日本水彩画会展に入選。54年小堀進に師事。66年白日会会員。82年渡欧。1990年没、77歳。水彩

伊藤小坡（いとう・しょうは/1877～1968 年）
三重県生れ。日本画家伊藤鷺城の妻。名は佐登(さと)。はじめ森川曽文に学び、のち谷口香嶠に師事。竹内栖鳳の竹杖会に入り上村松園と並ぶ閨秀画家として知られた。歴史風俗画を得意とする。新文展無鑑査。1968年没、92歳。日本画、版画

伊藤 仁（いとう・じん/1915～1996 年）
北海道生れ。1937年仙台高等工業学校卒。札幌鉄道局に就職。戦後、職を辞して画業に入る。47年日本美術会に入会、会員。日本アンデパンダン展に出品。52年北海道生活派美術集団を結成。同人、リアリズム絵画をめざす。60年東京にグループ草炎会を設立、会員。68～72年渡仏。69年 NHKTV 北の群像「赤煉瓦の軌跡」で画業紹介。71年フジ TV 美術館「札幌の街、心の記念碑」で紹介。73年日本橋画廊にて個展。79年銅版画集「さっぽろ西洋館」出版。92年札幌三越にて個展。札幌で没81歳。洋画

伊東深水（いとう・しんすい/1898～1972 年）
東京生れ。朝丘雪路の父。鏑木清方に師事して美人画をえがく。1914年院展、15年文展に初入選。24年郷土会展の「湯気」で名をあげる。以後官展を舞台に活躍し、帝展特選 2 回。48年「鏡」で芸術院賞。58年芸術院会員。東京で没、74歳。東京出身。日本画、版画、水彩、挿絵、浮世絵

伊藤晴雨（いとう・せいう/1882～1961 年）
大正末期まで静雨と号す。野沢堤雨に師事し琳派を学ぶ。様々な新聞社で挿絵などを担当した。関東大震災後、沢田正二郎の新国劇に加わるなど、劇界でも活躍した。責め絵や幽霊画などの風俗画家として広く知られる。1961年没、79歳。日本画、挿絵、版画

伊藤 善（いとう・ぜん/1916～1973 年）
宮城県生れ。東京美術学校に学び、1943年帝國美術学校西洋画科卒。46年日展出品。46年春陽会展出品、51年準会員賞、53年会員。東京大丸、資生堂、兜屋等で屡々個展開催。63～65年北アフリカ諸国及び欧州9ヶ国を歴遊し、イタリアに滞在。1973年没、57歳。洋画

伊藤鎗一（いとう・そういち/1908～1983 年）
岐阜県生れ。日本陶器(ノリタケ)の画工として研鑽を積まれ、帝展に入選。光風会会員。戦後は東濃において絵付け技術の発展と普及、後進の育成に力を注いだ。後に人間国宝となる加藤孝造氏もその教え

を受けた一人。岐阜県で没、74歳。瑞浪市陶芸館で2017年伊藤鎗一 陶彩画展が開催。陶彩、陶彩画

伊東隆雄（いとう・たかお/1928 年～ ）
愛知県生れ。1948年中美展に入選。50年日展に入選(以後 10 回連続入選)。52年中村岳陵に師事、蒼野社に入門。60年蒼野社を脱退。61に我妻碧宇・浅田蘇泉・永井繁男・森緑翠らと白士会を結成。白士会展に出品、サロン・ド・パリ展、韓日精鋭作家展、ニューヨーク国際美術交流展、国際アーティストフェア、中部総合美術展に出品。白士会委員。日本画

伊藤 正（いとう・ただし/1915～1989 年）
韓国生れ。幼少のころ家族で札幌に移り住む。1935年札幌師範学校卒。東京高等師範学校図画研究科に在籍。卒業後は札幌市立高等女学校、札幌大谷短期大学美術科などで美術教育に貢献。東京高等師範学校時代に佐竹徳に師事。41 年道展と一水会展、日展に出品を続けた。53 年第 15 回一水会展で一水会賞。57 年第 19 回一水会展で会員佳作賞。58 年第 20 回一水会展で会員優賞。59 年北海道文化賞。62 年第 5 回日展で二度目の特選。89 年 5 月 25 日没、享年 73 歳。(佐)洋画、美教

伊藤立己（いとう・たつみ/1899～1987 年）
熊本県生れ。本郷洋画研究所に学ぶ。41年新文展入選。戦後、日展で入選重ねる。1954年一水会会員。神戸で没、89歳。洋画

伊東 種（いとう・たね/1905～1973 年）
千葉県生れ。1929年東京美術学校彫刻科塑造部選科卒。32年美術団体国土会を設立、34年宗教団体生長の家本部設立の実行委員、就職。39年中国・満鮮旅行。53年日本画家山田皓斎らと新美術協会を創立、関東地方責任者。55年千葉県文化財保存調査員。66年日本教文社停年退職。68年五元美術会を設立し会長。千葉県で没、68歳。彫刻

伊東 哲（いとう・さとし/1891～1979年）
金沢市生れ。1916年東京美術学校西洋画科本科卒、文展入選。19、20、22, 27年帝展に入選。台湾に渡り、ダム建設の記録画の制作に従事。この記録画は台湾・烏山頭の記念館に今も展示。伊東は日本に帰ることなく、中国で美術学校の教師として過ごした。1979年没、88歳。洋画、美教

伊藤泰造（いとう・たいぞう/1897～1994年）
京都生れ。1916年同志社大学英文科予科を中退。23年黒田重太郎に師事。40年二科展入選。46年京展で佳作賞。47年二紀展で褒状。48年二紀会同人。生涯在野で活動。京都の風景を描いた。88年星野画廊で個展。94年没、97歳。洋画

伊藤孝之（いとう・たかし/1894～1982 年）
静岡県生れ。1913年京都高等工芸学校にて油彩画・水彩画の指導受ける。19年東京美術学校日本学科卒、結城素明に師事。27年帝展入選。在学中より挿絵・版画の制作。22～60年渡邊版画店より「隅田川の晩秋」「小台の渡し」を版行。23年自画自刻も同店より発表。65年「木葉会」を主宰。67年創作画人協会の結成にかかわり、同協会理事。1982年没、88歳。日本画、版画、挿絵、浮世絵

伊藤高義（いとう・たかよし/1926～2011 年）
愛知県生れ。1947年愛知第一師範学校美術専攻卒。53年二科展入選、この後、連続入選、81年会員、96年評議員。65年訪欧、訪米、訪墨を中心に 70 数回「美術旅行」。77年愛知県瀬戸市立長根小学校長職退職。「メキシコ」テーマの「版画」作品。86年メキシコ国立芸術院の招待で個展開催。2011年没、85歳。13年「瀬戸市美術館」特別展「伊藤高義回顧展―瀬戸とメキシコへの愛」が開催。洋画、美教、版画

伊藤龍馬（いとう・たつま/1910～1986 年）
茨城県生れ。新世紀美術協会会員。1986年没、76歳。洋画

伊藤継郎（いとう・つぐろう/1907～1994 年）
大阪生れ。1923年天彩画塾で松原三五郎に師事。24年赤松洋画塾に学び、31年信濃橋洋画研究所に通う。35年二科展で特待。37年二科会会友。41年新制作協会会員。61～70年京都美術学校西洋画科教授、70年大手前女子短期大学教授。67年、70年渡欧。91年芦屋市立美術館で個展。神戸で没、86歳。洋画、美教

伊藤悌三（いとう・ていぞう/1907～1998 年）
東京生れ。1927年岡田三郎助に師事。29年東京美術学校西洋画科入学。41年文展で岡田賞。翌年無鑑査。41年興亜院より中国各地を取材。42年陸軍報道部より南方各地に取材。戦後日展、光風会で活躍。新樹会創立。72年以降毎年滞欧、スペイン女性を多く描いた。神奈川県で没、91歳。洋画

伊藤利彦（いとう・としひこ/1928～2006 年）
三重県生れ。1950年京都市立美術専門学校日本画家科卒。85年まで郷里に戻り教職。60年美術文化展奨励賞。63年会員美術文化賞。66年名古屋画廊で個展。95～03年人人展出品。96年三重県立美術

館県民ギャラリーで個展。2000年四日市文化功労賞。06年没78歳。洋画

伊藤直臣（いとう・なおおみ/1892～1980 年）
熊本県生れ。八代中学校在学中に「カスミ画会」を結成。卒業後上京し、早稲田大学文科予科に入学、中退。高村光太郎に師事。日本美術院で彫刻も学んだ。文芸雑誌客員、通信記者、美術雑誌編集者などを経て、1921年「フィデリオ社」を結成。富士山を描き続け、阿蘇宮地で制作。以後熊本市に定住。九州文化人協会の創設に参加、熊本県美術協会を設立、創立委員。55年伊藤洋画研究所、真美社を主宰し後進の指導にあたった1980年没、88歳。彫刻、洋画、ジャーナリスト、雑誌編集、洋画研究所

伊藤仁三郎（いとう・にさぶろう/1905～2001年）
京都生れ。京絵専を卒業後、土田麦僊の山南塾に入る。麦僊の門下が結成した柏舟社の中心メンバーとして活躍し、東京、名古屋、大阪、京都などで展覧会を開き、村上華岳の画風を継承する精神性の高い風景画を制作した。2001年没、96歳。日本画

伊藤　幟（いとう・のぼり/1898～1963 年）
福島県生れ。福島県立安積中学校卒。早稲田大学卒。石井柏亭、安井曽太郎に師事。1928 年石井柏亭が伊藤幟、妹の富貴、高橋卯八をモデルに蛇の鼻別荘内で「果樹園の午後」を制作。29 年第 10 回中央美術展に出品。第16回二科展に出品、その後、20回展まで出品。30 年福島美術協会の創立委員。福島美術協会第 1 回展に無鑑査出品。36 年伊藤幟、橋本朝秀展。59 年第 41 代福島県議会議長。60 年第 29 回衆議院議員選挙に福島 1 区から当選。63 年 3 月 22 日東京で没、享年 65 歳。(佐)洋画

伊とうはるこ（いとう・はるこ/1944 年～　）
1966年女子美術大学洋画科卒。福沢一郎に師事、安宅賞受賞。71年人形オブジェ展(村松画廊)。88～93年ウィーン派アートスクール(川口起美雄教室)。89～90年ネオ・メディーバル展(朝日ギャラリー)。青木画廊で個展05、08、14、19年。その他グループ展多数。洋画300

伊東槃特（いとう・はんどく/1948 年～　）
静岡県生れ。1973年東京造形大学グラフィックデザイン専攻卒。83、85年毎日現代日本美術展、クラコウ国際版画ビエンナーレ(ポーランド)。88年日本国際美術展。90年フレヘン国際版画トリエンナーレ(ドイツ)・受賞。91年文化庁派遣美術家在外研修員としてカナダ、アメリカに留学。ルック'91アメリカ・カナダ美術展平面部門(カナダ、オンタリオ州)・大賞。95年バラト・バヴァン国際版画ビエンナーレ(インド)・受賞。(版画ネット　引用)版画

伊藤彦造（いとう・ひこぞう/1904～2004 年）
大分市生れ。挿絵画家右田年英からイラストを学び、橋本関雪に師事。1925年『大阪朝日新聞』の挿絵でデビュー。25年行友李風の『修羅八荒』の挿絵で好評。少年雑誌草創期の「少年倶楽部」の連載小説の挿絵。大衆雑誌「キング」掲載小説の挿絵。81年『伊藤彦造名画集』講談社、85年『別冊太陽 熱血少年画譜 山口将吉郎・伊藤彦造・樺島勝一』平凡社、86年、中村圭子編『昭和美少年手帖』河出書房新社、2003年。2004年没、102歳。日本画、挿絵、ペン、イラスト

伊藤　彪（いとう・ひょう/1911～1973 年）
山口県萩市生れ。1929 年神学校卒。33 年独立美術協会研究所に学ぶ。37 年独立展に初入選。43 年第 6 回新文展に出品。47 年第 15 回独立展で奨励賞。50 第 18 回独立展で会員推挙。73 年 7 月 6 日東京で没、享年 61 歳。(佐)洋画

伊藤勉黄（いとう・べんおう/1917～1992 年）
静岡県生れ。木版画を独習。1949年日本版画協会展で協会賞。51年日本版画協会会員。59年国画会会員。スイス・グレンヘン国際色彩版画トリエンナーレ展で芸術選奨。80年静岡県文化功労賞。81年池田20世紀美術館で柳沢紀子と二人展。シカゴ美術館・クロカウ美術館・ロンドンアルバート美術館に収蔵。静岡市で没、75歳。版画

伊藤彫耳（いとう・ほうじ/1938 年～　）
福岡県生れ。1971年多摩美術大学絵画科(日本画専攻)卒。66年院展入選。74年院友。77～81年院展で奨励賞。82、83年日本美術院賞・大観賞、84年評議員、同人。日本画

伊東正明（いとう・まさあき/1913～1988 年）
大分県生れ。1934年東京美術学校図画師範科卒。63年一水会会員。日展会友。帝京大学教授。東京で没、74歳。洋画、美教

井堂雅夫（いどう・まさお/1945～2016 年）
盛岡市生れ。1961年伝統工芸士(染色家)吉田光甫に弟子入り。73年日本版画協会入選、日動版画グランプリ入選、三軌会新人賞、会員推挙。83年京都百景木版画参人展 徳力富吉郎・クリフトンカーフ・井堂雅夫＜主催・京都新聞社＞(京都)。93年 NHK 大河ドラマ「琉球の風」放送記念井堂雅夫木版画展(日本橋三越・沖縄三越)。2003年日本郵政公社　近畿版ふるさと切手「京の催事」発売　4種の原画制作「京都を

見る」井堂雅夫木版画展(京都清水寺・重要文化財経堂)。13年井堂雅夫、画業40周年記念展(京都文化博物館)。2016年没、71歳。版画

伊藤正規（いとう・まさのり/1912～2011年）
青森県生れ。1938年東京美術学校油画科入学。1952年光風会展入選。58年入選。65年光風会会友、69年光風会会員。70年改組日展特選。71年文化庁・現代美術選抜展招待出品、光風会美術研究所講師。74年記念光風会展中沢賞受賞。76年日展で特選。78年光風会展審査員。80年青森県文化褒賞授賞。81年光風会展評議員。86年日展審査委員。87年日展会員。2005年紺綬褒章。2011年没、99歳。洋画

伊藤快彦（いとう・やすひこ/1867～1942年）
京都生れ。1884年田村宗立に入門油絵を学ぶ。88年京都府画学校卒、上京。小山正太郎、鐘美館で原田直次郎に師事。93年洋画塾鐘美会を設立。94年関西美術会(第1次)結成参加。1906年関西美術院の創立に参加、教授。16年関西美術院の院長。42年没、74歳。洋画、美教

伊藤弥太（いとう・やた/1892～1975年）
秋田県生れ。県立大館中学校卒。1911年上京。12年美術雑誌『美の廃墟』発行。岸田劉生に師事し、14年二科展入選、15年現代の美術社主催第1回美術展(草土社第1回展)出品。27、28年帝展入選。32～35年独立美術展入選。39年国画会展に出品、58年会友、64年会員。69年秋田県文化功労章。49，50年水墨画を描き、71年「伊藤弥太水墨画集」が出版。秋田県で没、83歳。洋画、水墨

伊藤芳子（いとう・よしこ/1916～2006年）
仙台市生れ。1943年太平洋美術学校卒業、伊藤正規氏と結婚。50年太平洋展入選。太平洋美術会会員。51年青森県五所川原高等学校美術科教員。57年光風会展入選。63年新日展初入選。73年光風会会友、75年光風会会員。89年五所川原市文化褒賞。2006年没、89歳。洋画、美教

伊藤　廉（いとう・れん/1898～1983年）
名古屋市生れ。1925年東京美術学校西洋画科卒。27～30年渡欧。滞欧作出品し二科賞。30～37年独立美術協会創立会員。43～66年国画会会員。54年東京藝術大学教授、61年同大学美術学部長。66年愛知県立芸術大学教授、美術学部長。70年勲三等瑞宝章。名古屋市で没、84歳。洋画、美教、版画

糸園和三郎（いとぞの・わさぶろう/1911～2001年）
大分県生れ。1927年川端画学校、29年前田寛治写実研究所に学ぶ。39年美術文化協会の結成に参加。43年新人画会創立。47年自由美術家協会に参加。名古屋画廊、日動画廊で個展。78年北九州市立美術館と大分県立芸術会館で個展。日本大学芸術学部講師。95年大分県立芸術会館で個展。東京で没、89歳。洋画、版画

稲垣考二（いながき・こうじ/1952年～　）
愛知県生れ。1976年愛知県立芸術大学油画科卒、79年研修科修了。76年国展新人賞、79年国画会会友、84年会友優作賞、85年国画会会員。78年中部読美術展で愛知県知事賞。79年現代の裸婦展大賞。93年名古屋市芸術奨励賞。93年日動画廊にて個展。96年「素描-稲垣考二」日動出版刊行。個展30回。洋画、版画

稲垣仲静（いながき・ちゅうせい/1897～1922年）
京都市生れ。1917年京都市立美術工芸学校絵画科卒。20年京都市立絵画専門学校卒。19年国画創作協会展に入選。22年九名会に選ばれ1，2回展に出品。22年没、26歳。京都府立図書館楼上で遺作展開催、遺作集が刊行。86年星野画廊で個展。日本画

稲垣稔次郎（いながき・としじろう/1902～1963年）
京都生れ。1922年京都市立美術工芸学校図案科卒。東京三越本店、松坂屋京都支店の図案部に勤務。染色技法の研究に専心。38年国画会展数々の展覧会に出品。42年母由良荘、47年新匠美術工芸会の結成に参加。型絵染の特性を生かした独創的な意匠作品。近代工芸に染めによる創作という新しいジャンルを切り開く。京都市立美術学校で教鞭。62年重要無形文化財保持者。63年没、61歳。版画、型絵染、意匠

稲垣知雄（いながき・ともお/1902～1980年）
東京生れ。1924年大倉高等商業学校卒。恩地孝四郎、平塚運一に師事。32年日本創作版画協会会員。30年商業美術家協会研究所に入り、修了後、図案社を開業。京北商業高校、広告美術学校で教鞭。47年国展に出品、56国画会会員。52年日本広告美術学校創立、同校教授。75年渋谷東急百貨店で回顧展。東京で没、77歳。版画、洋画、美教

稲垣久治（いながき・ひさじ/1919～1990年）
兵庫県生れ。小・中学校教諭。1934年南画、水彩画を学ぶ、50年洋画に転向し、52年光風会展入選、69年まで出品。52、53、56年日展入選。63年京都市美術展で京都市長賞。69年光陽会展で佳作賞、7

0年光陽賞、会員、78年委員。73年フランス美術大学に短期留学。78年フランスのル・サロン展で名誉賞、79年ル・サロン永久会員。79年サロン・ドートンヌに入選。80年フランス美術賞展(オンフルール展)入選し、80～82年まで3年間連続して現代洋画精鋭選抜展銀賞。京都市で没、71歳。洋画、水彩、美教

稲田三郎（いなだ・さぶろう/1902～1970年）
水戸市生れ。太平洋美術学校卒。同窓の靉光、鶴岡政男らと交流。自由美術協会会員、59年退会、日本抽象作家協会結成。アートクラブ会員。56年銅版画の制作開始。59年日本橋南画廊で銅版画個展。57年自由美術協会茨城グループ、66年茨城作家集団「創」を立ち上げ。60年茨城県美術展で審査員。1970年没、68歳。94年水戸市立博物館で回顧展。2010年常陽藝文ギャラリーで個展。(田村)版画

稲田ハル（いなだ・はる/1924～1993年）
東京生れ。東京女子大学英文科卒。国枝金三、石井弥一郎に師事。太平洋画会監事、太平洋美術会会員。東京で没、69歳。洋画

稲葉治夫（いなば・はるお/1931～2010年）
静岡県生れ。1956年東京藝術大学卒。66年沼津市庁舎壁画作成。67年国際青年美術家展佳作賞。東京造形大学で教鞭。96年東京造形大学名誉教授。2000年庄司美術館運営委員。02年沼津市立沼津高等学校・メディアセンター壁画作成。2010年没、79歳。洋画、壁画

稲葉　実（いなば・みのる/1929～1993年）
愛知県生れ。1950年自由美術展出品、60～64自由美術家協会会員。62年個展。64年主体美術協会創立参加。95年日本国際アーティスト協会カナダ・アメリカ展で渡米・メキシコ各地を廻る。71年個展。1993年没、64歳。洋画

稲邑嘉敏（いなむら・よしとし/1933年～　）
東京生れ。1969年千葉県展知事賞。74年記念光風会展光風賞、77年光風会友賞、79年光風会会員、85年文部大臣奨励賞、光風会員賞、87年中沢弘光賞、91、96年寺内萬治郎賞。1975年日展初入選、以後入選を重ねる。91年4月～92年千葉県教育広報表紙絵担当。現在光風会会員、県展理事、日展会友、日本美術家連盟会員。洋画、パステル

犬飼恭平（いぬかい・きょうへい/1886～1954年）
倉敷市生れ。1900年渡米。サンフランシスコに移り、就業の傍らマークホプキンス美術学校に学ぶ。06年にシカゴに移り、10年アートインスティチュート・オブ・シカゴを卒業。同窓の米国人と結婚。卒業後はNYに移り、本格的な制作活動。26年ナショナル・アカデミー展でメイナード賞。以後も米国で活動を続ける。1954年没、68歳。洋画

犬童次夫（いぬどう・つぎお/1922～2018年）
鹿児島県生れ。犬童カラーの作品群は高い評価を得ている。制作活動の他、後進育成の要職を務めるなど、鹿児島を代表する貴重な作家の一人である。画業や美術教育振興等の貢献に対し、鹿児島県民表彰や南日本文化賞、地域文化功労者文部大臣表彰。2018年没、96歳。洋画

井上　厚（いのうえ・あつし/1962年～　）
東京生れ。1988年東京芸術大学大学院修士課程修了。87年日本版画協会展・奨励賞。89年中華民国国際版画ビエンナーレ・佳作賞(台北市立美術館、92年は招待)。91年スコットランド・アバディーン・ユースフェスティバル招待作家。2003年回飛騨高山現代木版画ビエンナーレ・奨励賞(11年準大賞)。版画

井上　脩（いのうえ・おさむ/1901～1942年）
広島県生れ。1930年東京美術学校卒、在学中帝展入選、以後帝展、文展、東光会展に作品を発表した。38年より東光会会員。1942年没、42歳。洋画

井上覚造（いのうえ・かくぞう/1905～1980年）
大阪生れ。1928年神戸高等商業学校卒。信濃橋洋画研究所で小出楢重に学ぶ。30年二科展に入選。42年二科賞、45年二科会会員、九室会。48年吉原治良らと芦屋市美術協会設立に参加。72年二科展で東郷青児賞。77年二科展で総理大臣賞。78年二科会理事。兵庫県で没、75歳。洋画

井上員男（いのうえ・かずお/1932年～　）
香川県生れ。1950年香川県立観音寺第一高等学校卒。54年香川大学教育学部美術科卒。兵庫県立高校美術教諭。70年紙凹版画独創技法開拓。88年在仏日本大使館主催ユネスコ日本週間展覧会招待出品。2003年香川県中学美術教員に紙凹版画の技法を教える。版画、美教

井上　完（いのうえ・かん/1882～1928年）
広島県生れ。20代で渡米、シカゴ美術学校で4年間学ぶ。1919年帰国。20年南薫造に日本洋画壇に出る方法の指南を受ける。21、22年帝展入選。24～27年滞欧。26年在巴里美術家同好者懇話会の監事。国民美術協会の評議員。東京で没、46歳。洋画

井上　完　Ⅱ（いのうえ・かん/1882～1928年）

広島県生れ。渡米。シカゴ美術学校に学ぶ。帰国。1921 年第 3 回帝展に初入選。以後、4、8，9回展に出品。25 年渡仏。萩谷巌と同宿。27 年帰国。28 年 8 月 29 日没、享年 46 歳。(佐) 洋画

井上公三 (いのうえ・こうぞう/1937～2017 年)
大阪生れ。1960年慶應義塾大学文学部美学美術史学科卒。同年渡仏し、アカデミー・ドゥ・ラ・グラン・ショミエールに学ぶ。69年オーパベ大賞、71年毎日現代美術展コンクール賞、80年カーニュ・シュメール国際美術ビエンナーレ展審査委員長賞。漫画家、井上三太は長男。2017年没、80歳。洋画、版画

井上賢三 (いのうえ・けんぞう/1910～1975 年)
京都府生れ。二科会展で特選。のち同会会員。1975年没、65歳。洋画

井上 悟 (いのうえ・さとる/1931 年～2022 年)
東京生れ。1954年東京藝術大学美術学部油画科入学、60年同大学美術学部専攻科油画専攻修了、大橋賞。58年国展、60年会友、63年会員。72年渡欧。73年「一家の主」(作・吉村昭)の挿絵を担当。74年渡仏～76年。東京藝術大学油画科非常勤講師。80年武蔵野女子大学教授。86年愛知県立芸術大学非常勤講師。2022年没、91歳。池田20世紀美術館で個展。洋画、美教、挿絵

井上三綱 (いのうえ・さんこう/1899～1981 年)
福岡県生れ。小倉師範学校卒。上京、本郷洋画研究所に学ぶ。1923年より坂本繁二郎に師事。26年帝展に入選。51～61年国画会会員。57年サンパウロ・ビエンナーレに出品。ニューヨーク近代美術館の国際水彩展に出品。74年東京セントラル美術館で個展。小田原市で没、82歳。洋画、水彩、版画

井上重夫 (いのうえ・しげお/1900～1986 年)
熊本県生れ。青山学院卒。中川一政に師事。1948年春陽会展で春陽会賞。57年春陽会会員。1986年没、86歳。洋画

井上自助 (いのうえ・じすけ/1913～1986 年)
北九州市生れ。1930年川端画学校に通う、36年東京美術学校油画科卒。32年東光会入選、36年まで連続入選。36年文展、42年新文展入選、48年創元会会員、76年創元会常任委員。同年福岡県立八女高等学校教諭。東京に移住後大学等講師。63年日展、74年改組日展で特選。東京で没、73歳。洋画、美教

井上武美 (いのうえ・たけみ/1928～2002年)
長野県生れ。1946年松本中学校卒。開智小学校で図工を教えた。中村善策に師事。48年長野県展、中信美術展に入選。51年一水会展に入選。57年頃から美術教育に専念。退職後制作を再開。松本市で個展開催。2002年没、74歳。2004年池田町立美術館で井上武美展。洋画、美教

井上長三郎 (いのうえ・ちょうざぶろう/1906～1995 年)
神戸市生れ。太平洋画会研究所で学ぶ。靉光、鶴岡政男と交友。1927年「一九三〇年協会」展で奨励賞。31年独立賞。35年独立美術協会会員。38年渡仏。39年美術文化協会会員。43年新人画会結成。47年自由美術協会会員。千葉県で没、89歳。(出典わ眼) 洋画

井上長太郎 (いのうえ・ちょうたろう/1870～1951 年)
大分市生れ。1891年大分県尋常中学校卒。92年妙心寺派第一中学校で教師。不同舎で3年間洋画研究。97年大分県大分尋常中学校杵築分校で教職。北海道、富山、佐賀で教職。1914年宇佐郡立実科高等女学校の校長。慶応義塾の講師となり地理を教えた。地理に関する多くの著書。1951年没、81歳。洋画、美教

井上照子 (いのうえ・てるこ/1911～1995 年)
京城生れ。女子美術学校卒業後、独立美術協会展に出品。夫は井上長三郎。画学生時代からパリにも同行、戦後は長三郎と共に自由美術家協会に参加し、色彩に富んだ抽象的な絵画を発表しています。一緒に描き続けた。彼女は、戦争の混乱や子育てのため、画業を一時中断した時期もありましたが、戦後は長三郎と共に自由美術家協会に参加し、色彩に富んだ抽象的な絵画を発表しています。1995年没、84歳。板橋区立美術館で2015年井上長三郎・井上照子展夫婦が歩んだ軌跡展開催。洋画

井上俊郎 (いのうえ・としろう/1924～2016 年)
朝鮮生れ。1945年東京美術学校工芸家卒。55年自由美術協会に出品。60年村松画廊で個展、以降26回。66年主体展で佳作賞、会員。75年シルクロード取材。2001年作品集「アジアへの旅」出版。2016年没、92歳。洋画

井上虎雄 (いのうえ・とらお/1914～1985 年)
名古屋市生れ。太平洋美術学校に学ぶ。二科会や二紀会で活躍。中近東・ヨーロッパに写生旅行。二紀会同人。1985年歿、70歳。洋画

井上直久（いのうえ・なおひさ/1948 年～ ）
大阪生れ。金沢美術工芸大学産業美術科卒。広告代理店に2年勤め、大阪府立春日丘高等学校で美術教諭。異郷「イバラード」をテーマにした作品を描き、個展や画集を発表。1992年に学校退職。95年公開のアニメ映画「耳をすませば」中の挿話「バロンのくれた物語」の背景画を制作。2007年にはスタジオジブリが製作した映像作品『イバラード時間』を監督。02年～07年成安造形大学教授。イラスト、漫画、美教

井上白楊（いのうえ・はくよう/1893～1969 年）
東京生れ。東美校卒。梶田半古に師事。花鳥画を得意とする。文展・日展・院展に出品。院友。1969年没、76歳。日本画

井上秀樹（いのうえ・ひでき/1952 年～ ）
横浜市生れ。1974年日本大学芸術学部美術学科油絵科卒（日本大学芸術学部美術学科賞・主任賞・学業優秀賞）、76年日本大学芸術学部芸術研究所研究生修了、79年スペイン国立サン・フェルナンド美術大学油絵科本科修了。78年～安井賞展・明日への具象展・現代形象展・両洋の眼「現代の絵画」展・結晶体の私展・TIAS出品。92年前田寛治大賞展準大賞。94年文部大臣奨励賞。98年『井上秀樹画集』刊行（求龍堂）。白日会会務委員。洋画

井上寛信（いのうえ・ひろのぶ/1916～1985 年）
福岡県生れ。福岡師範学校在学中より西日本美術展に出品。同校卒業後は小学校教諭となり、美術を指導。1938年独立美術展入選、以後同展への出品を重ね、48年独立賞、51年準会員、58年会員。49年福岡県美術協会再興参加、個展開催、画塾で指導にあたる。61年小中学校の校長。福岡市で没、69歳。洋画、美教

井上武吉（いのうえ・ぶきち/1930～1997 年）
奈良県生れ。1955年武蔵野美術学校彫刻科卒。在学中より数々の賞及び入選。62年サンパウロ・ビエンナーレに出品。67年靖国神社に記念碑「慰霊の泉」を制作。69年箱根 彫刻の森美術館の設計を担当。75年池田20世紀美術館の設計を担当。86年紫綬褒章。横浜市で没、67歳。彫刻

井上文太（いのうえ・ぶんた/生誕年不詳～ ）
大阪生れ。画家の金子國義に師事。1998年から画家としての活動を開始。日本画や油絵をはじめデザインや空間美術、刺青などを手がける。09年NHK連続人形劇「新・三銃士」、「シャーロック・ホームズ」のキャラクターデザイン、放送文化基金賞の個別部門の美術賞。11、13年海洋自然保護団体「セイラーズフォーザシー日本支局理事、教育委員長。13年日本画がロックフェラー家の所蔵。15年日本シャーロック・ホームズ大賞（奨励賞）。洋画、日本画、デザイン

井上辨次郎（いのうえ・べんじろう/1860～1877 年）
静岡県生れ。井上家の養子。井上家は豪商、代々回船業などを家業。73年維新の時代、養父の希望で、兄の麟太郎とともにロンドンに留学。ロンドンに着くとまもなく絵を描くことに興味を示し、卓越したデッサン力を示した。やがて本格的な修業に入った。76年には病気のため帰国。1877年没、18歳。デッサン

井上正勝（いのうえ・まさかつ/1900～1985 年）
東京生れ。1925年東京美術学校西洋画科卒。24年帝展入選、24同校卒業制作が帝展入選、同校に収蔵、帝展、日展何度も入選、47年日展委員に委嘱。55年新世紀美術協会創立に参加会員。66年福岡に移住、58～77年九州造形短大教授。1985年没、85歳。洋画、美教　350

井上正子（いのうえ・まさこ/1901～2001 年）
横浜市生れ。1928年井上三綱と結婚、絵画を学ぶ。戦前は二科会、一水会、日本水彩画会展に出品。56年創元会展受賞、57年会員。83年日本水彩連盟会員。民話伝説等をテーマに、奔放なタッチによる生命感溢れる水彩画を展開。2001年没、100歳。水彩

井上安男（いのうえ・やすお/1898～1956年）
愛知県生れ。1917年愛知第一師範学校卒。黒田重太郎に師事。二科展に出品、42年会友。40年日本水彩画会会員。47年二紀会展に招待出品、同人、48年委員。名古屋市で没、58歳。洋画、水彩

井上安治・探景（いのうえ・やすじ/1864～1889 年）
江戸生れ。父は川越市出身。初め浮世絵師月岡芳年の門に入り、1876年小林清親に入門。80年西洋画風の大判錦絵を発表。81年清親の光線画を改変した絵はがきサイズの東京名所絵を刊行。84年画号を「探景」と改め伝統的な浮世絵表現の三枚続を制作。1889年没、26歳。浮世絵、版画

井上泰幸（いのうえ・やすゆき/1922～2012 年）
福岡県生れ。1950年日本大学芸術学部美術科に入学。バウハウスで学んだ山脇巌の下で学ぶ。「ゴジラ」（54年）から美術助手として特撮美術に携わり、怪獣やメカニックなどのデザイン、イメージボードやミニチュアが最も効果的に映る絵コンテなどを手掛け、映画全体の質感を創り出してゆく映像プロデューサー

的な役割を担当。東宝退社、アルファ企画を設立。87年「竹取物語」「首都消失」で日本アカデミー賞特殊技術スタッフ賞。2012年没、89歳。映像、デッサン

井上洋介（いのうえ・ようすけ/1931～2016年）
東京生れ。1954年武蔵野美術学校西洋画科卒。同人誌『がんま』創刊。63年漫画集『サドの卵』自費出版。65年文藝春秋漫画賞。69年東京イラストレーターズ・クラブ賞。76年人人展、78年～出品、96特別陳列。88年、『ぶんぶくちゃがま』(文・筒井敬介，三起商行)、『ねずみのしっぱい』(作・小沢正，鈴木出版)で小学館絵画賞。94年『月夜のじどうしゃ』(文・渡辺茂男，講談社)で講談社出版文化賞絵本賞。2001年『でんしゃえほん』(ビリケン出版)で日本絵本大賞。14年刈谷市美術館で個展。2016年没、85歳。洋画、イラスト、漫画、挿絵、版画、絵本、墨彩

井上善教（いのうえ・よしのり/1911～1977年）
島根県生れ。1963年国画会会員。島根大学教授。1977年没、66歳。80年島根県立博物館で井上善教遺作展。洋画、美教

井野英二（いの・えいじ/1949年～ ）
東京生れ。1974～86年油彩画個展、グループ展多数。84～86年テレビ朝日「ウエザーショー」にてCG制作。88年木版画工房「そのばしのぎ社」設立。89年版画文集の制作開始。96年東京進化論シリーズ制作開始。版画、洋画

猪木匡四郎（いのき・きょうしろう/1917～1991年）
高松市生れ。帝国美術学校卒、1949年日展入選。以後日展に出品し、東山魁夷の指導も受けた。日本画院にも出品し、幹事。10数回にわたって個展。56年武蔵野美術学校日本画科講師、70年同大学美術学科日本画専攻助教授、76年造形学部日本画学科教授。88年同大学名誉教授。千葉県で没、73歳。日本画、美教

猪熊克芳（いのくま・かつよし/1951年～ ）
福島県生れ。1980年福島県美術協会展で特選。93年青木繁大賞展入選。96年青木繁大賞展大賞。94年日仏現代美術展入選。97年福島県総合美術展で準大賞・斎藤清賞。猪熊ブルーと呼ばれる青色を用いたパステル画、アクリル画の作品が多数ある。(ウキペ 引用)洋画、パス

猪熊弦一郎（いのくま・げんいちろう/1902～1993年）
高松市生れ。1920年上京、本郷洋画研究所に通う。26年東京美術学校西洋画中退。29年光風会展で光風賞。29、33年帝展で特選、のち無鑑査。36年新制作派協会創立会員。田園調布純粋美術研究室開設。38～40年渡欧、マティスの指導を受ける。55～74年渡米、抽象画風となる。マーク・ロスコ、イサム・ノグチ、ジャスパー・ジョーンズらと交友。91年丸亀市猪熊弦一郎美術館開館。東京で没、90歳。洋画、パステル、挿絵、美教、美術研究所

猪熊 昇（いのくま・のぼる/1937～2017年）
群馬県生れ。群馬大学教育学部卒、埼玉県中学校で美術教師を36年間務める。無所属、一千点の作品を遺す。2017年没、79歳。洋画、美教

猪子寿之（いのこ・としゆき/1977年～ ）
徳島市生れ。東京大学工学部計数工学科卒業。日本の実業家。アーティスト集団チームラボ代表。大阪芸術大学アートサイエンス学科客員教授。四国大学特任教授。現代美術

猪瀬踏花（いのせ・とうか/1907年～没年不詳）
東京生れ。神奈川県師範学校卒。独学。1931年独立美術展入選。32年さいか屋で個展。中村琢二に私淑。58～73年一水会会員。67年～度々訪欧。洋画

猪田七郎（いのだ・しちろう/1917～1993年）
京都生れ。私立第二工業学校中退。錦義一郎に師事。1948年二科会展に入選、62年同会会員、二科展で青児賞、同会監事。京都文教短期大学教授。イノダ・コーヒー社長。1993年没、75歳。洋画、美教

伊庭新太郎（いば・しんたろう/1936年～ ）
京都市生れ。父は伝次郎。1960年京都市立美術大学西洋画科卒。61年二科展で特選。62年二科展でパリ賞。67年二科展で金賞。68年二科会会員。74年嵯峨美術短期大学教授。77年シェル美術賞展三席。81年文化庁派遣海外研修員、渡伊留学。88年二科展で総理大臣賞、二科会常務理事。洋画、美教

伊庭伝次郎（いば・でんじろう/1901～1967年）
滋賀県生れ。関西美術院、太平洋画会研究所に学ぶ。二科展に出品、二科三十周年記念賞。1943年二科会会員。後に理事に就任。成安女子短期大学教授、京都市立美術大学教授を歴任。京都で没、65歳。(出典 わ眼)洋画、美教

伊原宇三郎（いはら・うさぶろう/1894～1976年）
徳島市生れ。1920年帝展に初入選。21年東京美術学校西洋画科卒。25～29年農商務省から渡欧。29、30，32年帝展で特選。32～44年東京美術学校

助教授。49年日本美術家連盟初代委員長。東京で没、81歳。(出典 わ眼)洋画、美教

茨木猪之吉 (いばらき・いのきち/1888～1944年)
静岡県生れ。1905～6年浅井忠に師事。聖護院洋画研究所、関西美術院に学ぶ、太平洋画会研究所に学ぶ。日本美術院洋画部に学ぶ。06、07、12年太平洋展に入選。07年不同舎に学ぶ。07、11年文展入選。14年再興日本美術院院友。36年日本山岳画協会結成。穂高岳で行方不明、56歳。洋画

茨木杉風 (いばらき・さんぷう/1898～1976年)
滋賀県生れ。本名は芳蔵、別号に杉風。近藤浩一路に師事し、また太平洋画会研究所で洋画も学ぶ。日本美術院院友、のち退会。小林巣居人らと新興美術院結成し、理事。ふるさとの琵琶湖の風景をはじめ写生にもとづいた水墨画による独自の作風で知られた。日本学士会名誉会員。1976年歿、78歳。日本画、水墨

井原康雄 (いはら・やすお/1932～2010年)
大阪生れ。1955年関西学院大学卒。55年行動美術奨励賞、56年新人賞、61年行動美術賞。1963年「現代絵画の動向西洋と日本」展国立近代美術館京都分館に出品。63年渡米、NY移住。66年パフォーマンス「The Five Men」。70年大阪芸術センターでパフォーマンス。88、99年大阪府立現代美術センターで井原康雄展。2010年没、78歳。洋画、パフォー、舞美

今井 麗 (いまい・うらら/1982 年～)
神奈川県生れ。2004年多摩美術大学美術学部絵画学科卒、09年同大学大学院博士過程を満期退学。、国内では関東を中心に、各地での個展やグループ展で作品を発表。展覧会や雑誌の挿絵の仕事をはじめ、16年植本一子の著書『かなわない』(タバブックス)のバタートーストの装画。洋画、挿絵

今井憲一 (いまい・けんいち/1907～1988年)
京都市生れ。1928年津田青楓洋画部で洋画を学ぶ。29～32年二科展に連続入選。33年独立美術京都研究所を創設。40独立美術協会賞。48年独立美術協会会員。51～73年京都市立美術大学教授。78年京都市文化功労者として顕彰。シュルレアリスムに傾倒しつつ、リアリズムの世界を追求。京都市で没、80歳。洋画、美教

今井幸子 (いまい・さちこ/1933 年～)
大阪生れ。田村孝之介に師事。1954年二紀展入選し、以後、二紀会同人。71年渡仏。パリのアカデミー・ドゥ・ラ・グランド・ショミエール及びエコール・ド・ギャルソンに学ぶ。サロン・ドートンヌに入選以来、毎回出品を続ける一方、サロン・アルティトス・フランセ銅賞。サロン・アンデパンダン会員。74年定期的個展開催。仏在住。洋画

今井繁三郎 (いまい・しげさぶろう/1910～2002 年)
鶴岡市生れ。1928年山形県立鶴岡中学校卒。上京し、芝絵画研究所に学ぶ。36年 雑誌『美之国』の編集に携わる。小川芋銭や山本丘人など、多くの画家と交流。46年日動画廊で旧自由美術協会の会員展を開催。57年 長崎市東洋軒で個展。白甕社委員長。59年 致道博物館にて「真下慶治・今井繁三郎洋画二人展」開催。61年 改組県美術連盟初代運営委員長。光陽会会員。2002年没、92歳。2003年致道博物館にて「今井繁三郎遺作展」。洋画

今井 滋 (いまい・しげる/1910～1991 年)
長崎県生れ。「一九三〇協会」洋画研究所、新洋画研究所、独立美術研究所で学ぶ。1933年シュルレアリスムを標榜した[NINI]を結成。34年「新造型美術協会」に合流、創立会員。36年同会展にフォト・モンタージュを出品。36年「前衛写真協会」(写真造形研究会)に参加、写真に於けるシュルレアリスム運動。37年美術文化協会創立会員。日本のシュルレアリスム運動の中心に位置した。91年没、81歳。フォト・モンタージュ、写真

今井信吾 (いまい・しんご/1938 年～)
姫路市生れ。1963年東京芸術大学油画科卒。65年東京芸術大学大学院修了。芸大油画研究室に副手、助手として勤務(～69年)。67年独立賞、68年独立美術協会会員。76年昭和会賞。76年度文化庁派遣芸術家在外研修員渡欧。94年池田 20 世紀美術館で「今井信吾の世界」展。多摩美術大学教授。洋画、美教

今泉篤男 (いまいずみ・あつお/1902～1984 年)
山形県生れ。1927年東京帝国大学文学部美学美術史学科卒、同大学大学院在籍、32年渡欧、パリ大学、ベルリン大学に学ぶ。34年に帰国。美術評論の執筆を開始。展覧会批評、日本現代作家論、西洋美術紹介に従事。36年土方定一、瀧口修造、植村鷹千代、柳亮らと美術批評家協会の創立に参加、会員。40年文化学院美術部長。51年国立近代美術館設置準備委員、52年国立近代美術館次長。54年美術評論家連盟創立、常任委員。浅井忠、梅原、安井、坂本繁二郎、熊谷守一から森芳雄、山口薫等近代日本作家論の幅を広げた。67年京都国立近代美術館の初

代館長。富本憲吉、河井寛次郎、浜田庄司、岩田藤七、芹沢銈介、志村ふくみらをとりあげ、工芸批評に新機軸。『今泉篤男著作集』(全6巻　79年、求龍堂)。東京で没、81歳。(引用　東文研)美評、美術館長

今泉省彦　(いまいずみ・よしひこ/1931～2010 年)
埼玉県生れ。1950年日本大学芸術学部美術科入学。68年現代思潮社の川仁宏より絵の学校の企画で69年「美学校」の開校に参加、現代思潮社美学校事務局長、特異な画塾とでもいうべき美学校、独自のカリキュラムを編成。75年に現代思潮社から分離、2000年まで「美学校」校長。カットや装幀もよくし、軽妙な画風から赤瀬川原平は今泉を「永遠のデッサン家」と称した。評論活動は53年同人誌に執筆、『作品・批評』、『形象』に、岸田劉生、関根正二、ケーテ・コルヴィッツらを取り上げた。60年代以降の美術情況、前衛美術界やハイレッド・センターなどを『日本読書新聞』、『美術手帖』などで論じた。　2010年没、78歳。造形、カット、装幀、美評、デッサン、美学校

今泉憲治　(いまいずみ・けんじ/1954～2005 年)
福岡市生れ。1980年東京芸術大学美術学部油画専攻卒。NYに渡り、82年NY大学大学院美術・美術教育研究科入学。84年帰国後中村学園大学、西日本短大、九州造形短大で教鞭。91年九州産業大学助教授、2002年同大学教授。個展活動と共にアジア国際美術展や瑠玻会展等グループ展で活躍。85年以降は「エレファント・アクシデント(EA)」シリーズを開始、「象」という一つのテーマにこだわり、様々な素材・技法を駆使した絵画作品や巨大なインスタレーションを手がけた。2005年没、51歳。洋画、インスタ、美教

今中素友　(いまなか・そゆう/1886～1959 年)
福岡市生れ。上田鉄耕に師事し、日本美術協会に入選。1905年上京し、水上泰生の勧めで川合玉堂に入門、08年文展に入選。文展、帝展に何度も入選、無鑑査。戦後は日展委嘱。戦前期に博多築港記念博覧会や筑前美術会、福岡県美術協会展にも参加。日本画

今井大彭　(いまい・だいほう/1911～1983年)
東京生れ。東洋大学卒。1934～37年グループ「動向」結成参加。37年二科展入選。49年美術文化協会会員。パリのサロン・ドートンヌで個展開催。原爆反対の絵画制作。シュルレアリスト作家。1983年没、72歳。洋画

今口憲一　(いまぐち・けんいち/1898～1943年)
東京生れ。慶応義塾大学経済学部中退。前田写実研究所に学ぶ。二科会展、独立展に出品。1934年銀座画廊を創設。36年彩々会を設立。1943年没、46歳。洋画

今口賢一　(いまぐち・けんいち/1939 年～　)
広島市生れ。1945年舟入小学校一年生で被爆。60年都立新宿高校卒、61年武蔵野美術大学中退。62年研究所にて11年間山口長男他の指導を受ける。69年銀座「地球堂ギャラリーにて個展。90年相模原「市民ギャラリー」で個展。91年広島市西区文化センターにて個展。2004年町田市立国際版画美術館で「被爆絵図展」個展。洋画

今井　隆　(いまい・たかし/1931～1983 年)
1931年生れ。京都市立美術大学西洋画科卒。須田国太郎に師事。無所属。一枚の絵の作家として活躍。個展(太陽画廊、他)など 10 回以上開催。1983年没、52歳。洋画

今井俊満　(いまい・としみつ/1928～2002 年)
京都市生れ。1950年東京芸術大学美術学部油画科で派遣学生1年間学ぶ。51年関西新制作派協会賞。52年渡仏。57年パリ、スタドラー画廊で個展。60年ヴェネツィア・ビエンナーレ出品。75年画集出版。83年仏芸術文化勲章 オフィシエ賞。89年国立国際美術館等で個展。2002年没、73歳。洋画

今井祝雄　(いまい・のりお/1946 年～　)
大阪生れ。大阪市立工芸高校在学中から吉原治良に師事。1964年ヌーヌ画廊で個展。64年具体美術展高校生で出展。65～72年解散まで具体美術協会会員。66年シェル美術賞 1 等賞。パリ青年ビエンナーレはじめ東京国立近代美術館、芦屋市立美術博物館など内外の企画展に出品。80年以降は主にパブリックアート、新大阪駅前、関西文化学術研究都市、京阪坂本駅に彫刻、モニュメントを制作。94年神戸に竣工した「夢創館」を構想設計。2012年成安造形大学教授を退任。彫刻、具体、造形

今井伴次郎　(いまい・ばんじろう/生没年不詳)
群馬県生れ。1911年東京美術学校図画師範卒。東京府立第三女学校教諭。28年帝展に「勝浦海岸」を出品。他に「浅間連山」などの作品を残している。大正期に新図画教育会の一員として名を知られる。洋画、美教

今井久司　(いまい・ひさじ/1929～1996 年)
岐阜県生れ。1982年渡仏。フランスを中心に活躍。

現展会員。1996年没、67歳。今井久司遺稿集(1997年)発刊。洋画

今井ロヂン（いまい・ろち“ん/1910～1994 年）
満州生れ。太平洋美術学校本科油絵科修了。1941～49年藤田嗣治に師事。中央公論社画廊、スルガ台画廊で個展。55年ELISE GRILLI女史に認められJAPAN TIMES紙上で批評。63～65年米国(シカゴ)マーシャルフィールド百貨店で画商買上。70年二科会会員。75年二科会員努力賞、日本芸術絵画大賞。東京で没、84歳。(出典 わ眼)洋画

今尾景年（いまお・けいねん/1845～1924 年）
京都生れ。浮世絵師梅川東居に学んだ。鈴木百年に入門。1875年京都博覧会で受賞、77年京都博覧会で銀賞。80年京都府画学校設立に伴い出仕。82年内国絵画共進会で銅賞。94年京都後素協会委員長。1900年パリ万博で銀杯。文展をはじめ数々の展覧会の審査員を務めて後進の育成にも力を注いだ。04年帝室技芸員。19年帝国美術院会員。1924年没、79歳。日本画家

今川敬子（いまがわ・けいこ/1981 年～ ）
静岡県生れ。2004年京都造形芸術大学芸術学部美術科日本画専攻卒、卒業制作学長賞。混沌賞。07年 JAXA〈宇宙航空研究開発機構〉主催-日本画は宇宙を描く-最優秀賞。12年康耀堂美術館賞、同美術館作品買上げ。13年松陰芸術賞。日本画

今口憲一（いまぐち・けんいち/1898～1943 年）
東京生れ。慶大経済学部中退、前田寛治写実研究所に学び、二科展、独立展に出品。1934年銀座画廊を創立し、経営にあたり、36年には彩々会を作っている。1943年没、46歳。洋画、画廊

今城國忠（いましろ・くにただ/1916～2000 年）
広島県生れ。1930年広島県府中市府中尋常高等小学校卒、36年澤田政廣に師事、木彫を学んだ。40年の紀元二千六百年奉祝展入選し、63、64年新日展で特選。、刀痕や木の質感を精緻に造形表現に折り込んでいく作風を確立。88年日彫展で北村西望賞。66年日展審査員、67年日展会員、80年日展評議員、92年日展参与。東京で没、84歳。彫刻

今関一馬（いまぜき・かずま/1926～2009 年）
東京生れ。今関啓司の長男。1951年東京帝国大学中退。55年資生堂ギャラリーで個展。59年国展に入選、会友。61年安井賞候補新人展に招待。62年国展で会友優作賞、会員。66年渡欧。82年中国文化部招待、中国を訪れる。87年横浜市民ギャラリーで「今関一馬自選展」、2004年茂原市立美術館・郷土館で「今関一馬展」。09年没、82歳。洋画

今関啓司（いまぜき・けいじ/1893～1946 年）
千葉県長南町生れ。1915 年日本美術院研究所に学ぶ。16 年第 3 回再興院展に初入選し、樗牛賞。22 年院展洋画部同人らを中心に春陽会が創設され客員となる。24 年春陽会会員。40 年紀元二千六百年奉祝展に出品。43 年第 21 回春陽会展で受賞。46 年 3 月 31 日千葉県茂原で没、享年 53 歳。(佐)洋画

今關鷲人（いまぜき・わしんど/1936～2018 年）
東京生れ。父は今関啓司。1948年春陽会研究所入所、54年春陽展出品、58年春陽会賞、62年春陽会会員、78年中川一政賞、春陽会東京研究会常任講師。56年武蔵野美術学校中退。56年フランス政府給費留学生1年間滞仏。68年国際形象展に招待出品、72年愛知県美術館賞。74年東京、大阪のギャルリーためながで個展。82年国際形象展同人推挙、国際形象展同人。2018年没、84歳。洋画

今竹七郎（いまたけ・しちろう/1905～2000 年）
神戸市生れ。バウハウスの理念を学び、デザインに興味。1927年大丸意匠部入社。29年写真家中山岩太と神戸商業美術研究所を設立。31年大阪高島屋宣伝部に移る。35年独立展に出品。39年春陽会、42年春陽会賞。51年シアトル日本貿易博展示構成監督のため渡米。以後抽象画。53年春陽会会員。グラフィック・デザイナーとして関西デザイナー界発展に貢献。70年西宮市民文化賞。98年西宮市大谷記念美術館個展。2000年没、95歳。デザイナー、洋画、美術研究所

今田敬一（こんだ・けいいち/1896～1981 年）
秋田市生れ。林竹治郎に師事。札幌第一中学校卒、北海道大学卒。北大黒百合会会員。25年道展創立会員、74年同会会長。48年北海道大学農学部教授、60年同大学定年退職、同大名誉教授。62年北海道文化賞。71年北海道デザイナー専門学院学院長。1981年没、85歳。洋画、美教、学院長

今西中通（いまにし・ちゅうつう/1908～1947 年）
高知県生れ。1927年上京。川端画学校、「一九三〇年協会」洋画研究所、独立美術研究所に所属。前田寛治、里見勝蔵に学ぶ。「一九三〇年協会展」、独立美術協会展、独立 24 人展等に出品。35独立展でD氏奨励賞。福岡で絵画研究所を設立する。47年独立美術協会会員。福岡県で没、38歳。(出典 わ眼)

洋画、水彩、デッサン、絵画研究所

今西　完（いまにし・ゆたか/1923～1996 年）
1923年生れ。元新槐樹社会友。大阪で没、73歳。洋画

今道信子（いまみち・のぶこ/1938 年～　）
横浜市生れ。1958年御茶の水美術学院卒。82年石本秀雄に師事。83年長崎市展、市長賞。84年日展入選。86年東光会会友。88年西日本女流展特別賞。90年　西日本女流展大賞。洋画　400

今村幸生（いまむら・ゆきお/1935 年～　）
伊勢市生れ。三重大学教育学部美術科卒。1951年足代義郎に私淑。56～64年中学校教師。62年独立展で独立賞、30周年記念賞を受賞。以降第37回展で独立賞、第38回展で児島記念賞。71年会員。71年コンプレッサーによる圧縮空気を利用して液状の絵具を移動させてフォルムをつくる独自の技法。90年代半ば以降は公共空間に設置する大型作品も手がける。洋画、現代美術、美教

今村公寵（いまむら・こうちょう/生年不詳～1868 年）
福井県生れ。四条派の塩川文麟に画を学んだ後、敦賀を拠点に活動した。氣比神宮に「松図屏風」「敦賀港図大衝立」（現存せず）を揮毫した。通称久左衛門。江戸後期、円山・四条派の絵師

今村紫紅（いまむら・しこう/1880～1916 年）
横浜生れ。山田馬介に水彩画を学び，1897年松本楓湖に師事し，紫紅と号した。1901年安田靫彦，小林古径，前田青邨らと紅児会を結成，新日本画の創造に励む。98年日本美術協会展入選。巽画会，文展，院展などに出品、俵屋宗達，富岡鉄斎に私淑。1914年速水御舟らと赤曜会を創立。東京で没、36歳。日本画

今村　哲（いまむら・てつ/1961 年～　）
ボストン生れ。86年愛知県立芸術大学大学院修了。88年『YES　ART』展（ギャラリー白、大阪）。94年『存在する絵画』展（名古屋市民ギャラリー）。97年『眼差しのゆくえ～現代美術のポジション1997』展（名古屋市美術館）。99年『given』展（名古屋港・ガーデンふ頭20号倉庫）。2000年個展（三重県立美術館県民ギャラリー）洋画

今村俊夫（いまむら・としお/1910～1945 年）
香川県生れ。丸亀中学校卒。東京美術学校へ進学。1934年光風会賞、35年K夫人賞。新制作派協会会員。1945年戦没、35歳。世界美術全集28のP58に静物という絵が掲載。（田村）洋画

今村俊夫　Ⅱ（いまむら・としお/1910～1945 年）
香川県生れ。1934年香川県美術綜合展から出品。36年猪熊弦一郎や小磯良平らが結成する新制作派協会の展覧会に出品し、受賞を重ねた。新制作協会会員、元光風会会員。ルソン島で戦没、35歳。洋画

今村寅士（いまむら・とらし/1902～1975 年）
東京生れ。後藤工志に師事。1921年上智大学中退。元自由美術協会会員。無所属。新聞の挿絵で活躍。1975年没、73歳。1979年日動画廊で遺作展、図録。洋画

今村春吉（いまむら・はるきち/1894～1989 年）
長崎県生れ。1918年長崎医学専門学校卒。22年長崎に今村外科医院を開業。39年二科会会員鈴木信太郎に入門。二科展に連続入選。40年東郷青児を浦上天主堂に案内。50年長崎医師会会長。50年長崎市美術展審査員、市展、県展審査員。55年鈴木信太郎らと二科会を退会し一陽会を結成、71年会員。1989年没、95歳。洋画

今村幸生（いまむら・ゆきお/1935 年～　）
三重県生れ。洋画家足代義郎に師事。三重大学教育学部美術科卒。1956～64年三重県中学校で美術教師。64年渡仏。66年独立展への出品。71年にはコンプレッサーによる圧縮空気を利用して液状の絵具を移動させてフォルムをつくる独自の技法を生み出た。81年秋頃、具象的要素を省いた抽象的要素の表現に移行、「ゼノン・飛翔」シリーズなど、人間の欲望を突き抜けた表現を展開。1990年代半ば以降は公共空間に設置する大型作品も手がけた。現代美術、美教

今村由男（いまむら・よしお/1948 年～　）
長野県生れ。独学で版画を始め、銅版画家・中林忠良に私淑。1989年日本版画協会展・準会員賞。バラトバヴァバン国際版画ビエンナーレ・特別賞。第15回日仏現代美術展・佳作賞（90年フランス・ソワール賞2席、フィガロ賞3席）。91年アトリエコントルポワン（パリ）に留学、1 版多色刷り銅版画を学ぶ。95年パシフィックリム国際版画展・ハワイ州教育・芸術財団買上賞（97、2000 年も）。97年文化庁在外研修員としてアトリエコントルポワン留学。98年フィンランド国際ミニプリント展・特別賞。09年スプリット国際グラフィックアートビエンナーレ・特別賞（クロアチア）。11年 CWAJ 現代日本版画展・第 1 回運営委員会賞。版画

伊牟田經正（いむた・つねまさ/1934～2018 年）
鹿児島県生れ。1953年鹿児島県立甲南高等学校卒。62年光風会展入選、79年特別記念賞、84年特選、名誉会員。67年日展入選、78年改組日展特選、、84年特選、90年審査員。71～84年安井賞展。73年昭和会展林武賞。79～82年明日の具象展。2003年千葉県教育功労者。2018年没、83歳。洋画

伊本 淳（いもと・あつし/1915～1984 年）
東京生れ。東京美術学校卒。1937年二科展入選。一陽会に参加。61年渡仏し、アンデパンダン展などに出品。鉄を素材とし、アサンブラージュ(寄せ集め)手法もとりいれた作品を制作。作品に「断絶」「黎明」など。パリで没、69歳。彫刻

井山忠行（いやま・ただゆき/1936 年～ ）
宮崎市生れ。1954県立宮崎大宮高等学校在学中に個展開催。55年「デモクラート美術家協会」に参加。56年若手によるデモクラート5人展に出品、機関誌「デモクラート」の編集に関わる。75年宮崎、87年熊本で回顧展開催。1989年インドネシア・バリ島で制作。2007年宮崎県文化賞。洋画、デモクラート

入江明日香（いりえ・あすか/1980 年～ ）
東京生れ。多摩美術大学大学院博士前期課程美術研究科版画領域修了。2012-13年文化庁新進芸術家海外研修員としてパリに留学。京都版画トリエンナーレ大賞ほか受賞多数。個展・グループ展多数。コラージュによる独自の技法で版画の可能性を広げ、注目を集めるアーティスト。洋画

入江一子（いりえ・かずこ/1916～2021 年）
朝鮮生れ。1938年女子美術専門学校師範科西洋学部卒。林武に師事。47年女流画家協会創立会員。53年独立賞。53、56年女流画家協会賞。57年独立美術協会会員。70年代からシルクロード各地で取材。2000年入江一子シルクロード記念館。NHK日曜美術館で101歳記念展を放映。洋画

入江 観（いりえ・かん/1935 年～ ）
日光市生れ。1957年東京藝術大学美術学部芸術学科卒。藝大で加山四郎に師事、セザンヌに影響を受ける。56年春陽会展入選。62年フランス政府給費留学生として渡仏。国立高等美術学校でセザンヌの研究を行い、サロン・ドートンヌへ出品。64年帰国し春陽会会員。71年昭和会展最優秀賞。84年日伯美術連盟評議員、85年女子美術短期大学教授、96年宮本三郎記念賞。女子美術大学付属高等学校・中学校校長（2000年～06年）、日本中国文化交流協会常任理事。国際造形芸術連盟（IAA）日本委員会委員長。2017年瑞宝双光章。洋画、美教

入江 毅（いりえ・たけし/1909～2006 年）
東京生まれ。1925～31年滞欧。熊岡美彦に師事。28～30年帝展に出品。32年白日会展に出品。33～34年帝展に出品。36年文展（鑑査展）に出品。40年「上海画廊設立記念現代大家洋画大展覧会」に出品（上海・日本人クラブ）。2006年没、97歳。洋画

入江波光（いりえ・はこう/1887～1948 年）
京都生れ。森本東閣に師事し波光の号を受ける。1901年京都市立美術工芸学校入学、村上華岳、榊原紫峰らと同級、卒業後、染色会社見習や、07年同校研究科に入学。09年京都市立絵画専門学校設立、2学年に編入、同研究科卒業後も、同校嘱託、助教授、36年教授。18年華岳、紫峰らが結成した国画創作協会に出品、国画賞。19年同人。28年国画会解散後は画壇を離れ、教育と制作、古典の模写に努めた。40年から法隆寺壁画模写へ参画。日本画

入江比呂（いりえ・ひろ/1907～1992 年）
福岡県生れ。1932年東京美術学校彫塑科卒。30年プロレタリア美術大展覧会に、佐田四郎のペンネームで彫刻出品。日本プロレタリア美術家同盟（ヤップ）東京支部執行委員。34年ヤップ解散。小熊秀雄、中野重治、坪井繁治、松山文雄らと「サンチョクラブ」発会。戦後「美術文化協会」会員。46年「美術文化協会」分裂に伴い「前衛美術会」結成。47年「前衛美術展」出品。「齣展」に名称変更後も出品を続ける。60年前衛美術会有志による RAF（革命的芸術家戦線）に参加。71年『入江比呂彫刻展』自宅の庭とアトリエで初の個展を開催。81年＜入江比呂作品集刊行会＞発足。82年刊行記念展開催。1992年没、85歳。彫刻

岩井昇山（いわい・しょうざん/1871～1953 年）
東京生れ。北派（文晁系）の画家・吉澤雪庵に学び、容斎派の松本楓湖の安雅堂画塾の門人。日本画会、明治画会、帝国絵画協会、巽画会に所属。1902年「日本絵画協会・日本美術院連合絵画共進会」、13年「表装競技会」に出品。“幻の画家”と称される。山水を中心に清澄で透明感のある独自の画風を確立。1953年没、81歳。日本画

岩井尊人（いわい・たかひと/1892～1940年）
奈良県生れ。1917年東京帝国大学法学部卒。三井物産に勤める。19～25年ロンドン駐在員、サー・ジョージ・クラウセン、スタンリー・アンダーソンに油彩画・彫刻を学ぶ。23年英国RBA会員。26年、三越で個展を開催、油絵・水彩・パステル・エッチング滞欧作120点を展観。白日会員。28年展帝展に彫刻が入選。広田弘毅内閣の際、平生釟三郎文部大臣の秘書官。東京都で没、48歳。洋画、水彩、版画、彫刻

岩壁冨士夫（いわかべ・ふじお/1925～2007年）
神奈川県生れ。1947年東京美術学校日本画科卒。小中学校で教鞭をとりながら院展に出品。55年小谷津任牛に師事し、任牛門下の飛鳥会に入って研鑽を積む。56年院展入選、59年日本美術院院友。飛鳥会が奥村土牛の研究会と合流し八幡会となり、土牛の指導も受ける。75年院展で日本美術院賞、特待。77、78, 79、80, 81, 82年院展で奨励賞。83年日本美術院賞、同年同人。84～89年武蔵野美術大学日本画科講師。92年院展で内閣総理大臣賞。東京で没、81歳。日本画、美教

岩切裕子（いわきり・ゆうこ/1961 年～ ）
東京生れ。1988年多摩美術大学大学院修了、日本版画協会展・協会賞。89年平成元年度文化庁芸術家国内研修員、日米現代版画交流展（ワシントン市立美術館）。90年個展（シロタ画廊・銀座、92、94、96、98 年も）。92年日本版画協会展・第 60 回準会員記念賞。96年日本版画協会展・準会員優作賞、会員。版画、挿絵

岩倉具方（いわくら・ともかた/1908～1937 年）
東京生れ。祖父は岩倉具視。太平洋美術学校に学ぶ。1927年二科会展に入選。30～36年渡欧。37年海軍省嘱託画家並報知新聞特派員として上海戦に従軍、戦没、29歳。洋画

岩崎勝平（いわさき・かつひら/1905～1964 年）
埼玉県川越生れ。1930年東京美術学校西洋画科卒。36年文展鑑査展で選奨。37年新文展で特選。39年春台展で岡田賞。47年から京橋の繭山龍泉堂に出入りし、川端康成、川北倫明らと親交する。川越市で没、59歳。（出典 わ眼）洋画、水彩、パステル

岩崎灌園（いわさき・かんえん/1786～1842 年）
江戸生れ。本草学を小野蘭山に学び、本草家として薬草採取を行う。1814年屋代弘賢編の『古今要覧稿』の編集、図版製作の手伝い。20年薬種植場を設けた。著書に『本草図譜』『草木育種』『救荒本草通解』『日光山草木の図』。1828年『本草図譜』は 20 年間作成。自ら描いた 2000 種の図を集大成 92 冊。1842年没、56歳。江戸後期の本草、絵師、木版

岩崎教章（いわさき・きょうしょう/1832～1883 年）
三重県生れ。狩野洞庭に学ぶ。1871年兵学権大属。73年ウィーン万国博覧会に際し、印刷伝習生に選ばれ同地に留学。ここで地図製作方法や銅、石版術を学ぶ。74年帰国。大蔵省印刷局に勤務、西洋版画術の推進。81年内国勧業博覧会の審査員。1983年没、50歳。版画

岩崎 鐸（いわさき・たく/1913～1988 年）
東京生れ。1938年東京美術学校卒。38～43年新美術人協会会員。1956～65年の間に2度欧米を旅行，ローマ，ニューヨーク等で個展を開く。創造美術協展に出品。51年新制作協会展入選、日本画部会員。84年板橋区立美術館で回顧展。アートクラブ協会所属。日本美術家連盟洋画部会員。1988年没、74歳。洋画、日本画、挿絵

岩崎巴人（いわさき・はじん/1917～2010 年）
東京生れ。川端画学校卒。日本画家。小林古径に学び、1938年院展に初入選。57年日本表現派の結成に参加。77年京都禅林寺で出家し、仏伝画、水墨画にとりくんだ。2010年没、92歳。（出典 わ眼）日本画、水墨

岩崎政子（いわさき・まさこ/1921～2007 年）
東京生れ。師:金山平三。光風会会員。荷葉会主宰。渡欧、渡米、海外で個展開催。米ハウスビューティフル誌推薦賞。2007年没、86歳。洋画

岩崎又二郎（いわさき・またじろう/1898～1970 年）
京都市生れ。京都市立絵画専門学校卒。1922年帝展に日本画が入選。のち洋画に転向。26年春陽会展に出品、48年同会会友、53年同会会員。京都市美術展にも出品、37、39、41年受賞。46年大阪毎日新聞社賞。京都市美術展審査員で、京都平安女学院短期大学に勤務。1970年没、72歳。洋画、美教

岩佐又兵衛（いわさ・またべえ/1578～1650 年）
戦国の武将荒木村重の末子。初め福井に住み、晩年を江戸で過ごした。土佐派・雲谷派など和漢の画法を学び、人物画などに独自の画風を展開した。浮世又兵衛ともよばれ、浮世絵の創始者とする説もある。1650年没、72歳。江戸初期の絵師

岩沢重夫（いわさわ・しげお/1927～2009 年）
大分県生れ。京都市立美術専門学校卒。堂本印象に師事。日展を中心に活躍、1960、61年特選。85年山種美術館賞展で大賞。93年芸術院賞。2000年芸術院会員。日展常務理事、顧問。09年文化功労者。2009年没、81歳。日本画

岩下資治（いわした・すけはる/1908～1989 年）
宮崎県生れ。1929年同校東京美術学校図画師範

科卒。29年二科展入選。32～43年千葉県で教師。終戦後帰郷、～69年県立日南高校美術教師。その間、県展(現宮日展)にも出品、奨励賞。70年再上京し、一水会展に出品、77年会員。1989年没、81歳。洋画、美教

岩下三四（いわした・みつし/1907～2000 年）
鹿児島県生れ。1926年鹿児島第一師範学校卒。32年熊岡美彦の熊岡洋画研究所で学び、40年講師。33年東光会展入選、34年東光会展氏奨励賞、36年東光賞、37年東光会会員、89年東光会副理事長。47年鹿児島師範学校講師、51年教育学部助教授、65年教授。52年日展特選・朝倉賞。68年日展会員。80年東光会理事と日展評議員、82年日展参与。71年鹿児島大学を退官。78年鹿児島県民表彰。82 年勲四等旭日小綬賞。98年長島美術館で個展。同年『岩下三四画集』(同刊行会)出版。鹿児島市で没、93歳。洋画、美教

岩田榮吉（いわた・えいきち/1929 年～1982 年）
東京生れ。慶應義塾大学工学部電気工学科卒。東京藝術大学美術学部油画科を首席で卒。同校油画専攻科修了。アテネ・フランセ卒。東京藝術大学副手の身分でフランス政府給費留学生としてフランスに渡り、25 年間滞在。パリ国立美術学校を卒、国立エコール・デュ・ルーヴルにて美術史を学ぶ。東京藝術大学非常勤講師。日本人として逸早くフェルメールに着目し、終世師として尊敬し、その影響の下に制作に取り組む。静物画やトロンプルイユ(だまし絵)を得意とする。1982年没、53歳。個人美術館(横浜本牧絵画館・岩田栄吉美術館)、洋画

岩田栄吉 Ⅱ（いわた・えいきち/1929～1982 年）
東京生れ。中学時代から中村新次郎(示現会)に師事。51 年慶応義塾大学電気工学科卒。55 年東京藝術大学油絵科伊藤教室卒。大橋賞、サロン・ド・プランタン賞(卒業制作)。57 年同校油絵専攻科伊藤教室終了。同校油絵科副手を拝命。フランス政府給費留学生として渡仏。パリ国立美術学校スーヴェルビー教室で学ぶ。62 年ナショナル・デ・ボザール会員。65 年アンデパンダン展会員。70 年日本橋三越で個展。71 年、72 年安井賞候補展。81 年病気療養のため一時帰国。82 年 2 月 24 日川崎市で没、享年 53 歳。(佐)洋画

岩田栄之助（いわた・えいのすけ/1899～1985 年）
神奈川県生れ。1946年春陽会会員。82年横浜市民ギャラリーで岩田栄之助展開催。1985年没、86歳。洋画

岩田千虎（いわた・かずとら/1993～1966 年）
熊本県生れ。1915年大阪府立農学校畜産科卒。47年大阪府立浪速大学獣医科講師、岩田家畜病院を開業。33年二科展入選、北村西望に指導を仰ぎ、34年帝展入選。61年新日展菊華賞、62年日展審査員、63年日展会員。39年閑院宮に騎馬像を献上して御陪食を賜る。41年李王琅御愛馬秋康号を謹製す。満州国皇帝、蒙古王に作品を献上。42年皇太子殿下に単独拝謁を賜り騎馬像を献上。南極探検カラフト犬 15 頭慰霊像・堺大浜公園、(58年第一次南極観測隊の際、南極に残留したカラフト犬タロー、ジローを彫って話題をまく)。正六位勲五等瑞宝章。大阪で没、72歳。(東文研 引用)彫刻

岩田信市（いわた・しんいち/1935 年～2017 年）
名古屋市生れ。1960年名古屋にて〈ゼロ次元〉の前身である〈0次現〉を川口弘太郎、小岩高義らと結成。名古屋・京都・東京を行き来し、中心メンバーとして〈ゼロ次元〉の活動に参加。70年幼少期の美術体験、大須事件との遭遇、愛知県美術館での「ゴミ事件」、79年「スーパー一座」の結成と公演。2017年没、82歳。現代美術

岩田専太郎（いわた・せんたろう/1901～1974 年）
東京生れ。1914年京都で図案家、日本画家、印刷図案家に学ぶ。26年吉川英治「鳴門秘帖」で一流挿絵画家に。48年出版美術家連盟発足、初代理事長。54年挿絵の功績菊池寛賞。61年『週刊読売』にエッセイを連載。紫綬褒章。67年「私の履歴書」を『日本経済新聞』に連載。1974年没、72歳。日本画、水彩、挿絵、浮世絵、版画、ペン画

岩田覚太郎（いわた・かくたろう/1902～1999年）
愛知県生れ。1927年東京美術学校日本画科卒、29年研究科修了。1931年半田高女(図画科)教諭、73年まで田商業高校教諭、名古屋芸術大学で美術を教える。40年日本版画協会会員。武藤完一主宰の「九州版画」に参加。国画会に出品。89年「版画60年の回顧 岩田覚太郎展」、2015年「大和絵と木版画」～岩田覚太郎の生涯～が半田市立博物館で開催。愛知県で没、97歳。版画、美教

岩田藤七（いわた・とうしち/1893～1980 年）
東京生れ。1923年東京美術学校金工科西洋画科卒。ガラスに傾。27年帝展に出品。宙吹き法による、型にはまらない自在な造形を可能にし、色ガラス、金箔入り吹きガラス、雲母入りガラス、泡入りガラスを考案。31 年に岩田硝子製作所を開いた。70年日本芸

術院会員で文化功労者。1980年没、87歳。ガラス工芸家

岩田久利（いわた・ひさとし/1925～1994年）
東京生れ。ガラス工芸家岩田藤七の長男。東京美術学校工芸部図案科に学び、49年日展に入選。51年東京美術学校卒。東京工業大学でガラスの組成を研究。55、56年日展で特選。58年日展会員、たびたび日展審査員。78年日本ガラス工芸会を設立し、79年まで初代会長。76年改組日展で文部大臣賞。82年毎日芸術賞。53年日本芸術院賞。る岩田工芸硝子を継ぎ、社長。宙吹きガラスを得意とし、国際的にも高い評価を得た。東京で没、68歳。ガラス工芸

岩田正巳（いわた・まさみ/1893～1988 年）
新潟県生れ。1913年東京美術学校日本画科入学。松岡映丘に師事。18年同校研究科にすすみ、大和絵の研究に没頭。山口蓬春・長谷川路可とともに、新興大和絵運動を起こす。24年帝展入選。帝展・日展に出展。39年服部有垣、伊東深水、川崎小虎、吉村忠夫らと日本画院創設。49年日展審査員。61年日本芸術院賞。71年勲四等旭日小綬章。77年日本芸術院会員。78年日展顧問。79年三等端宝章受賞。84年三条市名誉市民。1988年没、96歳。日本画、版画

岩月虎雄（いわつき・とらお/1909～1987 年）
愛知県生れ。岡崎師範学校卒、横井礼以に師事。1947年二紀会展に招待出品、48年同会同人。77年二紀会会員。1987年没、78歳。洋画

岩戸敏彦（いわと・としひこ/1947～2005 年）
川崎市生まれ。1976 年武蔵野美術大学油絵科卒。76年神奈川県展で協会賞。第一美術展で大賞、会員、81年草土社賞。81年昭和会展昭和会賞、第一美術協会審査員。91年第一美術展で文部大臣奨励賞。2005年没、58歳。洋画

岩中徳次郎（いわなか・とくじろう/1897～1989 年）
三重県生れ。1917年大阪府天王寺師範学校本科卒。30年斎藤与里に師事。36年文展入選。48年三重県総合美術展覧会で知事賞。50年岡本治男らと津美術研究所を開設。64年ニュー・ジオメトリック・アート・グループに参加。87年「岩中徳次郎の世界展」（池田20世紀美術館）。1989年没、92歳。94年「岩中徳次郎展」開催。（三重県立美術館県民ギャラリー）。洋画

岩波昭彦（いわなみ・あきひこ/1966 年～ ）
長野県生れ。1989年多摩美術大学日本画専攻卒（加山又造クラス）。NY、パリ、スイスで個展。2006、7、8年紺綬褒章。14年諏訪大社に奉納。日本美術院特待。産経新聞社東京本社勤務。2022年鋸山美術館で個展。日本画

岩名泰岳（いわな・やすたけ/1987 年～ ）
三重県生れ。2004年元永定正に絵画を学ぶ。10年成安造形大学造形学部造形美術科洋画クラス卒業。10～12デュッセルドルフ芸術アカデミー（独）ジークフリート・アンツィンガー教室で学ぶ13年島ヶ原村民芸術「蜜の木」結成（現在の〈蜜ノ木〉）。洋画

岩野勇三（いわの・ゆうぞう/1931～1987 年）
新潟県生れ。49年新潟県立高田高校在学中に佐藤忠良にデッサンを学び、50年同校を卒業して彫刻家を志し上京。55年新制作展入選、60年同会会員。66年東京造形大学建学と同時に彫刻科の教員、67年度助教授、79年教授。69年昭和会展で林武賞。73、75年彫刻の森美術館大賞展に指名出品。80年高村光太郎大賞展優秀賞、86年中原悌二郎賞。著書に『彫塑を始める人へ』（アトリエ出版社）、『彫塑』（日貿出版社）。88年東京、現代彫刻センターで「追悼岩野勇三」展が開催。東京で没、56歳。彫刻、美教

岩橋英遠（いわはし・えいえん/1903～1999 年）
北海道生れ。山内多門・安田靫彦に師事。大自然を主題に雄大な作風を展開する。法隆寺金堂壁画模写に参加した。日本芸術院会員、日本美術院常務理事・評議員。東京芸大名誉教授。芸術選奨文部大臣賞・日本芸術院賞受賞。文化功労者。文化勲章。1999年没、96歳。日本画、版画、美教

岩橋章山（いわはし・しょうざん/1861～没年不詳）
東京生れ。岩橋教章の子、父に銅版彫刻法を学ぶ。1883年は東京永田町の自宅に銅版彫刻印刷所を設立。内務省地理局の 5 千分の1「東京実測全図」を銅版彫刻で作成した（85～87年）。86年陸軍技手となり参謀本部に勤務。89年参謀本部製図課に在籍。のちに陸地測量部修技所で銅版を教授した。99年台湾日々新報社入社。同地に銅版画、石版術を伝える。グラビア版の創始者。版画、グラビア　450

岩橋教章（いわはし・のりあき/1835～1883 年）
伊勢松坂市（江戸生れ説あり）生れ。狩野洞庭に日本画を学ぶ。明治維新後に日本画から銅版画、石版画の道に進む。1861 年軍艦操練所の絵図認方出役に命ぜられる。64 年地図作製の実務に励む。71 年頃、銅版画師松田緑山の門をたたく、73 年印刷技術

伝習生としてオーストリアに留学。同国陸軍省附属地図学校に入学、地図製作法と銅、石版画技術を学ぶ。74 年帰国し伝習生にドライポイント、腐食銅版、メゾチントなど、最新の技術を我が国に伝えた。絵画でも＜鴨の静物＞にみられる非凡な才能を示すも、83 年没、享年 49 歳。(佐)版画

岩船修三（いわふね・しゅうぞう/1908～1989年）
函館市生れ。1928年庁立函館商業学校卒。30年帝展入選。35年光風会展入選、44年会員。45年全道展創立会員。61年函館市文化賞。73年北海道文化賞。74年北海道秀作美術展の選考委員。75年北海道現代美術展の選考委員。87年北海道立函館美術館で個展開催。87年地域文化功労者表彰（文部大臣）。1989年没、81歳。洋画

岩松　淳（いわまつ・あつし/1908～1994年）
鹿児島県生れ。1929年東京美術学校退学。28年日本漫画家連盟に参加、岡本唐貴らの造型美術家協会に接近し、28～32年プロレタリア美術大展覧会に同協会所属作家として絵画7点を出品。日本プロレタリア美術家同盟中央委員や『美術新聞』の編集長を務めた。『東京パック』などに漫画を寄稿。37、38年一水会展に（妻の新井光子、大月源二、高森捷三らとともに）出品。39年妻とともに渡米、出版。戦後は米国で絵本作家として活躍。1994年没、86歳。洋画、漫画、版画、絵本

岩間正男（いわま・まさお/1926～2013 年）
岩手県生れ。1953年独立展新人賞。54年武蔵野美術学校卒。55年美術文化協会会員。61～63年渡米墨。78年商業空間デザイン賞。彫刻や絵画作品を手掛け空間造形は全国の公共施設などに設置。85年河北文化賞受賞。87年日本図書館協会建築優秀賞。北上市で没、86歳。洋画、立体、彫刻

岩見健二（いわみ・けんじ/1947 年～　）
大阪生れ。1971年武蔵野美術大学卒。72年主体美術展出品　以後毎回出品佳作作家賞4回受賞、80、96年文化庁現代美術選抜展出品。81年兵庫県現代美術展出品以後毎回出品。85年安井賞展賞候補。国際形象展出品。87年安井賞展入選、安井賞展入選作家展、現代形象展出品（ストライプハウス美術館）。92年青木繁記念大賞展入選。94年小磯良平大賞展入選。主体美術協会会員。兵庫県美育作家協会会員。兵庫大学短期大学部教授。洋画、美教

岩見禮花（いわみ・れいか/1927～2020 年）
東京生れ。1955年文化学院日曜美術科修了、恩地孝四郎に師事。54～66年　国画会会員。57年東京国際版画ビエンナーレ（60、62、64 年も）。61年パリ青年ビエンナーレ。64年アイルランド国際版画展。国際版画コンクールに出品。2020年没、93歳。版画

岩村　透（いわむら・とおる/1870～1917 年）
東京生れ。1888年東京英和学校を中退し渡米、91年パリに転じアカデミー・ジュリアンで画技を修め，西洋美術史研究も行う。パリで黒田清輝を知る。翌年帰国し、明治美術会評議員。96年退会し黒田らと白馬会を結成。1901年から東京美術学校(で西洋美術史を講じ翌年教授。文展審査員を務めたほか、国民美術協会の創立に尽力。この間,雑誌『美術評論』『美術新報』などに美術批評や西洋美術史紹介など文筆活動を展開した。<著作>『芸苑雑稿』。1917年没、47歳。美評、美教

因藤　壽（いんどう・ひさし/1925～2009 年）
北海道生れ。1942年北海道庁立苫小牧工業学校本科電気科卒。北海道大学超短波研究所に勤務。47年頃より仕事の傍ら、クレヨン（クレパス）画を描く。中学校の教員に転身。道内の美術展に出品。50年読売アンデパンダン展出品。56年ごろからはモノクローム絵画を追求。60年頃より東京都内の画廊で個展を開催。2009年没、84歳。洋画、パス

印藤真楯（いんどう・またて/1861～1914 年）
生地不詳。旧姓千葉。1872年川上冬涯の聴香読画館に入門。76 年工部美術学校開設時に入学しフォンタネージに師事。78 年連袂退学し、十一会結成に参画。80 年私塾・丹青舎を設け西洋画と幾何学を教授。81 年第 2 回内国勧業博覧会で褒状。89 年第 1 回明治美術会展に出品。90 年第 3 回内国勧業博覧会に出品し二等賞。「油絵階梯」等、入門書を執筆し、洋画普及に貢献。1914 年 3 月没。享年 53 歳。(佐)洋画、美教、画塾　4 60